

在宅・福祉静岡ブロック

2023年7月に在宅・福祉サービス事業部が再編され在宅・福祉静岡ブロックが誕生した。ブロック体制移行に伴う効果の検証にはしばし時間を有するが、我々が担う地域の実情は日々刻々と変化を続けている。さらに、2024年1月の浜松市行政区再編により、その変化のスピードは加速度を増す可能性を帯びているため、当ブロックに属する全事業所は、今まさに発生している地域課題のみならず未来を見据えた地域ニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに合致するサービスが提供できるよう、各地域における事業のスクラップ&ビルドを効果的に実践していく必要がある。また、社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践を改めて我々の原点と捉え、サービス提供困難地域等への積極的な介入を推し進めていく必要性も等しく高いと考える。

そのためには、質の高いサービスを提供し続ける専門職はもとより、事業を支えるマネジャーの育成もスピード感を増し、変容する地域課題に対応し得る人材の育成に注力していく。併せて、有能な人材の発掘と育成に繋げ、静岡ブロックの管理体制がきめ細かいものとなるよう、現行のエリア軸・統括所長軸の2軸管理から、エリア軸・職種軸・事業軸の3軸へとマトリクスを発展させていく。これらの対策を計画的に実践することで、変化を続けていく地域課題にフレキシブルに対応できる組織としての体力を養うとともに、地域実情に応じ事業を超えた法人内外の連携にも積極的に取り組むことにより、地域におけるより強固なセーフティネットを構築していくことを目指す。

【在宅・福祉静岡ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2024年度目標】

「社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践」

現在だけではなく未来を見据え、一手先の質の高い支援を実践する

【経営方針】

1. 現在だけでなく未来を見据えた地域課題を検証し、実現性のある計画を立案・実践する
2. 各事業の永続性を見極めた上で事業集約・分散等を図り、効果的な投資に繋げる
3. 専門職の働きやすさ、やりがいを追求したキャリア形成並びに業務革新を促進する

【事業計画】

1. 静岡ブロック管理・運営体制のアップデート
 - (ア) 浜松市の新たな行政区に応じたエリアへ再編する
 - (イ) 事業連動等の展開に合致したエリアへ再編する
 - (ウ) エリア軸・職種軸・事業軸の3次元的な管理・運営体制を構築する
 - (エ) 部門会議の体制を再編し、専門職やマネジャーとしての新たな役割・機能を創出する

2. 地域課題の抽出と実現可能な計画立案・実践

- (ア) 引佐地域における医療・福祉提供体制を検討し、構築を図る
- (イ) 老朽化した施設の建て替え・大規模修繕等の具体的な計画を立案する
- (ウ) 新たな食事提供体制（直営化、クックフリーズ、配食他）の検討を進める
- (エ) 無料低額宿泊所（日常生活支援住居施設）の開設に向けた協議を進める
- (オ) 「こども」という領域で障害の有無にかかわらず育ちを支援するスキームを策定する
- (カ) 浜松市医療的ケア児等相談支援センターの受託並びに適切な運営に努める
- (キ) 地域実情に応じ、法人内での事業を超えた連携を図る。また、法人外事業との連携も検討し、効果的な地域包括ケアシステムの構築を目指す

3. 専門職のキャリアプランの構築と働きやすさ・やりがいの追求

- (ア) ICT化、ロボット導入等に伴う新たな価値観の創造と利用者・職員への還元を促進する
- (イ) 意図的な人材の確保・登用の仕組みを構築する
- (ウ) 専門職の地域における長期的なキャリアイメージが築けるように、各専門職のキャリアプランを形成する
- (エ) 現任マネジャーの業務整理を図り、マネジャーが自施設・職場に注力しやすい環境を設定する。その上で、新任マネジャーへの伴走型支援を徹底する
- (オ) 「次世代マネジャー育成プログラム」を策定し、次世代のマネジャー候補を発掘・育成・擁立する

4. 多様な人材の有効活用とサービスの質向上

- (ア) ベテラン専門職やシニア世代、働く上で何らかの制限がある方等の多様な人材が活躍できる仕組みを検討の上、実践する
- (イ) 突発的な欠員等による負担感を軽減するための対応策を、事業所横断的に展開できるように静岡ブロック規模で検討の上、実践する
- (ウ) 適切なサービス提供がなされているかのセルフチェックを徹底するとともに、外部視点によるサービス評価を実施しサービスの質向上を図る

5. 運営の安定化

- (ア) 報酬改定の内容を精査し、適切な対応を実施するとともに新たな加算算定に努める
- (イ) 事業を永続するための方針並びに投資計画を策定する
- (ウ) 人件費や物価高騰等による経営への影響度を適時検証し、柔軟かつ迅速な対応を図る

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき
障害者支援施設みんとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和
地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」から「5 類感染症」になり、感染対策に取り組みながらも日常生活上の規制が緩和され人的交流の機会が戻り始めた。和合せいれいの里では、地域実情に応じ、前年度から計画をしていた「聖隷こども発達支援センター和合」を 9 月に、10 月には 2024 年度以降の浜松市地域福祉計画を見据え「聖隷福祉総合相談センター和合」と、続けざまに新規事業の開設に至った。また、事業部再編を受け、静岡ブロック運営管理室も和合せいれいの里内に内包し、新たな運営管理体制の構築に至った。このように 2023 年度は、今までの価値観を刷新し、より地域に求められる新たな機能を獲得していくことを推し進めた 1 年であった。

2024 年度は、2024 年 1 月の浜松市行政区再編、4～6 月の介護・障害・医療の報酬改定等に伴う大きな変化の波が到来する。そして、その変化のスピードも加速度を増すことが予想されるため、和合せいれいの里の全事業所は、今まさに発生している地域課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに適合するサービスが提供できるよう、地域実情を面的かつ立体的に把握していく必要性を強く感じるとともに、それら地域ニーズに応え得る質の高いサービスを提供できる組織へと成長を続ける。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、地域課題の抽出とライフステージの変化に応じた切れ目のない支援体制の構築を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職の多様なキャリアプランの構築と、AI・ICT・ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としての働きやすさとやりがいを追求する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割等を果たし、地域貢献に取り組む

【事業計画】

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく
(浜松市行政区再編に伴う課題抽出・解決策立案 等)
- (イ) 制度の枠を超えた切れ目のない支援体制を構築するとともに、地域への周知に努める
(聖隷福祉総合相談センター和合の具体的活用、専門職の横断的な働き方の創造 等)
- (ウ) 事業種別を超えた協議を重ね、地域課題を見通す能力（マーケティング力）を醸成する
(浜松市リハビリテーション病院他との連携モデルの創造 等)

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) ICT 機器を活用することでリスクマネジメントを徹底し、事故の発生予防に努めるとともに、利用者の状態変化に早期に気づき状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、稼働率を意識した受け入れの徹底を図る
- (エ) 個性性にフォーカスしたケアに努め、利用者の生きがいややりがいを創造する

3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 和合せいれいの里の専門職としてのブランディングを検討・確立する
- (ウ) 次世代リーダーの育成に注力する。あわせて、育成スキームを確立する
- (エ) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築する。あわせて、画一的な育成システムではなく、多様性に対応できるシステムを創造する
- (オ) 実装された ICT 機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す。
あわせて、利用者・職員への還元効果等の成果を検証し実感する

4. 運営安定化の推進

- (ア) みるとす第2単位（あすなろ）の環境改修、老朽化設備等への計画的な投資を図る
- (イ) 施設・事業所の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (ウ) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (エ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡県災害派遣福祉チームメンバーを中心に、地域の避難訓練等に参加し役割理解を促す
- (イ) 小中学校や介護未経験者、近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通して、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する
- (ウ) 学習支援事業へ聖隷キッチン和合の弁当配食を継続する
- (エ) 河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続する

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			静岡 ブロック ＋ 基幹相談
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型 (障害)	ユニット型	一般型 介護	予防	認知症 対応型	
利 用 者 定 員	62 名	40 名	20 名	29 名	50 名		12 名	－
利 用 延 数	22,529 名	14,124 名	6,405 名	10,320 名	8,431 名	247 名	1,998 名	－
一日平均利用者数	61.7 名	38.7 名	17.5 名	28.3 名	27.3 名	0.8 名	6.5 名	－
稼 動 率	99.6%	96.7%	88.3%	97.5%	56.2%		59.9%	－
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	365 日	365 日	309 日		309 日	－
単価（一人一日）	13,291 円	15,057 円	13,411 円	15,064 円	10,850 円	8,301 円	14,636 円	－
サービス活動収益	299,449 千円	212,668 千円	85,898 千円	155,469 千円	93,988 千円		29,243 千円	17,748 千円
正 職 常 勤 換 算 数	35.4 名	24.4 名	9.4 名	17.0 名	6.5 名		2.8 名	8.8 名
パート常勤換算数	9.1 名	5.5 名	2.1 名	4.5 名	12.1 名		3.1 名	2.0 名

■障害者入所・通所・相談事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設　みとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練 生活介護	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市 受託
利用者定員	40名(午前・午後・1日)		20名	20名	2名	－	－
利用者延数	12,502名	1,236名	7,248名	6,314名	1,141名	1,743名	－
一日平均利用者数	40.6名	4.0名	19.9名	20.5名	3.1名	－	－
稼働率	74.3%		99.4%	102.5%	156.3%	－	－
稼働延日数	308日		365日	308日	365日	－	－
単価（一人一日）	6,507円	9,100円	19,153円	15,142円	9,743円	－	－
サービス活動収益	93,443千円		138,821千円	95,608千円	11,117千円	30,670千円	48,660千円
正職常勤換算数	10.1名		14.9名	10.0名	－	5.1名	5.0名
パート常勤換算数	6.7名		4.0名	8.2名	－	0名	※3.0名

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ和合
	就労移行	就労継続 B	就労継続 A	就労定着	放課後等デイサービス		児童発達支援
					学校日	休校日	
利 用 定 員	10 名	15 名	10 名	—	20 名		30 名
利用 者 述 べ 人 数	2,340 名	3,974 名	2,213 名	132 名	3,387 名	699 名	7,380 名
一 日 平 均 利 用 者 数	9.6 名	14.4 名	9.0 名	—	17.0 名		28.8 名
稼 働 率	96.3%	96.0%	90.0%	—	85.1%		96.1%
稼 働 日 数 (延 べ)	243 日	276 日	246 日	—	197 日	43 日	246 日
単 価 (一人一日当り)	12,636 円	11,838 円	7,581 円	—	7,378 円	8,172 円	18,533 円
サービ ス 活 動 収 益	29,570 千円	47,047 千円	46,450 千円	2,276 千円	30,793 千円		136,777 千円
正 職 常 勤 換 算 数	9.5 名				5.5 名		15.2 名
パート常勤換算数	13.0 名 (うち、A 型利用者 6.2 名)				2.4 名		4.0 名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均 利用者数		月訪問 件数		年訪問 件数		単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
	369 名		1,962 件		23,545 件		10,430 円		246,173 千円	33.3 名
聖隷 ヘルパー センター	介護給付				予防給付		単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
	平均利 用者数	訪問件数		利用者		介護 (時間)	予防 (時間)			
		月間	年間	月間	年間					
	60 名	705 件	8,465 件	25 名	300 名	4,600 円	3,900 円	63,717 千円	9.5 名	
聖隷 ケアプラン センター和	年間請求件数				平均単価			サービス 活動収益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	予防 A	介護	予防	総合 A				
	2,288 件	120 件	120 件	19,200 円	3,700 円	3,700 円	47,187 千円	6.9 名		
地域包括 支援 センター 和合	浜松市受託収入		予防プラン 請求件数		うち 再委託件数		予防フ 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数	
	31,903 千円		3,910 件		3,340 件		4,471 円			
	日常生活支援総合事業の予防プラン									
	種別		ケアマネジ [®] メント 請求件数		うち 再委託件数		ケアマネジ [®] メント 単価			
	ケアマネジ [®] メント A		2,430 件		1,950 件		4,471 円			
	ケアマネジ [®] メント B		114 件		36 件		3,246 円			
	ケアマネジ [®] メント C		36 件		0 件		732 円			

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策を講じた上での行事の実施、面会や外出などコロナ禍以前の対応に近づけてきた。事業としては、デイサービスにおいて、栄養マネジメント体制の構築、利用者ニーズに合わせた短時間利用枠の創出、利用者の状態に合わせた機能訓練の見直し、記録システムの導入を行った。特別養護老人ホームにおいても、記録システム、見守り支援システム、インカムの導入、オンラインでの入所申し込みなどの整備を行った。利用者のニーズに応えるべく体制の基礎固めが出来たと言える。

2024年度は、特別養護老人ホーム、デイサービスでの栄養管理体制を中心としたサービスを展開し、地域にケアセンター初生が何を求められているかを再考し、必要とされるサービスの提供に繋げていく。また、ICT化、ロボット導入等に伴い、新たな価値観の創造と利用者・職員への還元を推進していく。事業を行うにあたり、未来を見据えた支援を実践すると共に、継続可能な運営を検討、構築する1年とする。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【事業計画】

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの推進と構築による質の向上
 - (ア) デイサービスにおいて、事業所としての強みを明確にし、他事業所との連携を強化する
 - (イ) 栄養に関する専門職が積極的に事業に参画し、在宅に訪問するなど栄養マネジメント体制を推進する
 - (ウ) 事業内容について積極的に地域、他事業所へ発信し、双方向のコミュニケーションを目指す
 - (エ) 地域のニーズに沿って、ケアセンター初生の強みが最大限活かせるようサービスを創造、拡充していく（デイサービスにおける持ち帰り食、ショートステイベッドの稼働開始）
2. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進
 - (ア) 記録システム、見守りシステム、福祉機器等の活用により、業務の効率化、業務負担軽減を図り利用者、職員への還元を推進する
 - (イ) 利用者の生活の質を向上するため、情報収集、分析、計画立案の実施方法を検討し、実施する
 - (ウ) 目標参画システムを推奨するにあたり、職員への動機づけ、目標設定、達成への指導、支援を実施する
 - (エ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させるための取り組みを行う
3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
 - (ア) 職員個々が役割を遂行できるように、センター内で定期的な訓練、勉強会を実施する

- (イ) センターにおける BCP（事業継続計画）を改善し、非常時に地域と相互支援体制が構築できるよう地域と会話をしていく

4. 安定した運営の推進

- (ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務の見直しを図る
 (イ) 新規利用者獲得のための ICT を活用した広報活動
 (ウ) 業務の見直しを行う中で、現在の業務契約状況を評価し、適正化を図る

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを常に念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む
 (イ) 地域包括支援センターと協力し、地域に対しての講義等に専門職を派遣し、地域福祉の向上に貢献する
 (ウ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供する

【経営指標】

	和合愛光園 初生サテライト	和合愛光園 初生サテライト ショートステイ	聖隷デイサービスセンター初生	
			介護給付	総合事業
利 用 者 定 員	29 人	1 人	50 人	(50 人)
利 用 延 数	10,462 人	130 人	9,806 人	924 人
一日平均利用者数	28.7 人	0.4 人	31.8 人	3.0 人
稼 動 率（％）	98.8%	35.7%	69.6%	
稼 動 延 日 数	365 日	182 日	308 日	
平 均 介 護 度	3.38	3.00	1.7	—
単 価	14,500 円/日	13,800 円/日	10,022 円/回	6,386 円/日
サービス活動収益	152,356 千円	1,797 千円	104,702 千円	
職 員 数（正 職）	13.7 人		5.5 人	
職 員 数（パ ー ト）	7.5 人		16.3 人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘

地域包括支援センター高丘

聖隷リハビリプラザ I N 高丘

聖隷ケアプランセンター浜松

2023 年度は 2021 年度から続いている住民向けのフレイル予防活動の継続に加え、センター内連携、ケアプランデータ連携システム、HIMVIT 活用による業務の効率化に注力した。

また、センター内職員全員で地域に求められている事等について話し合いをし、施設としての理念を確立した 1 年になった。

2024 年度は重度化予防の視点で「質の高い支援」を展開できるような知識の習得やさらなる ICT 化の推進、また、地域の人が集まれる行事等で地域との関係をさらに強くする。これらの取り組みを通して地域にも利用者にも選ばれる施設、職員のやりがいのある施設を目指す。

【施設理念】

わたしたちは地域に根ざしその人らしく自立した生活を支援します

【事業計画】

1. 地域の利用者特性をつかみ、ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘は疾患のアセスメントや勉強会、事例検討等、認知症の理解を深め、病状の進行や身体能力の低下予防に気づく力、対応力を強化し利用者・家族の生活を支える
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N 高丘は介護保険の入口機能を果たしながら専門職として質の高いサービスの提供をする
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は幅広い世代へ認知症の啓発をし、認知症に優しい地域づくりの継続をする。また外国人在住者や地域に必要な資源と活躍できる人材のマッチングなど地域課題に取り組む
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践できる力を高める。特に在宅看取り支援に積極的に取り組む
 - (オ) センター化の強みを生かし、各事業所の事例検討への参加や必要時の訪問同行等を実践する
2. 職員 1 人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
 - (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減や超過勤務の削減を目指しながらも、安全に「質の高い」情報共有ができることを目的に、AI ケアプランの活用等 ICT 化をすすめる
 - (イ) 専門職として地域のサロン講話等地域とつながる機会を作る
 - (ウ) 職員が自分や家族との時間がとれ、心身ともに健康に過ごせるよう職場環境の整備をする

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設開放や健康相談、センター祭りなど地域住民が立ち寄る機会を増やし、地域のニーズに応じた活動の継続をする
- (イ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
- (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行う

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
205 人	1,115 件	13,380 件	9,568 円	128,310 千円	17.6 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N高丘）

介護給付			予防給付		共生型		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数		
23.2 名	594.1 名	7,128 名	82.7 名	992 名	25.7 名	308 名	80,311 千円	15.6 名
単価(円)	6,414 円		32,288 円		8,534 円			

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
42,631 千円	3,542 件	2,898 件	4,666 円		
日常生活支援総合事業の予防プラン				72,110 千円	7.9 名
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価		
	請求件数	再委託件数	単価		
ケアマネジメントA	2,437 件	1,681 件	4,666 円		
ケアマネジメントB	456 件	0 件	3,246 円		
ケアマネジメントC	0 件	0 件	2,195 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
1,992 件	360 件	16,200 円	3,900 円	10 件	4,400 円	34,547 千円	5.1 名

聖隷コミュニティケアセンター

2023 年度は、利用者に寄り添ったサービスの提供を根幹に、介護保険外レンタルの大幅な価格改定を行った。また、地域のニーズに合わせ、地域包括支援センターと共同し、福祉用具の啓発活動を広く地域に発信する仕組みを整えた。

2024 年も継続して職員体制の整備を行い、利用される全ての方が安全・安心に在宅生活が送れるよう定期点検とモニタリングを確実に行之、利用者ニーズに合わせた支援を実施していく。また、在宅だけではなく施設・病院に向けてのレンタルサービスや WEB サイトを活用した販売も導入し、介護保険だけに頼らないサービス拡充していく。販売事業では、店舗ごとの課題に向き合い、必要に応じたサービスを展開していく。

【事業計画】

1. 利用者満足度の高いサービスの提供

(ア) 利用者が安全に在宅生活を送れるようチーム支援と情報共有を強化

①福祉用具の定期点検訪問を 6 ヶ月に 1 度実施し、利用者のニーズをキャッチする

a) モニタリング毎にモニタリング担当者と営業担当で利用者の情報共有を行う

b) 困難ケースは、複数名で訪問を行う等チームアプローチを行う

②職員単独での支援にならないよう職員間で利用者情報共有の場を作る

(イ) 店舗販売の充実と連携

①Web サイトを活用した販売展開を実施する

②病院のニーズを調査し、自動販売機設置を検討する

③高丘配送センターのショールームを充実させ、他店舗では販売できない商品を展示する

④障害のある方でも立ち寄りやすい店舗レイアウトを形成する

⑤店舗内で定期的に共有会を開催し利用者情報の共有が徹底できる体制を構築する

⑥キャッシュレス決済の拡充

(ウ) 施設のニーズに対する新たな介護保険外レンタルサービスの提供

2. 人材の確保と育成

(ア) 人員を配置し、フォロー体制の構築

①突発的な欠員が発生した際の応援体制を構築する

②貸与部門と販売部門や店舗間の交換研修を実施し、知識レベルを向上させる

(イ) 次世代を見据えた人材育成

①次期店長候補の育成と店舗実習育成プログラムを構築する

②業務分掌を再構築し、業務ローテーションを可能にする

③熟練職員からの業務継承。計画的に同行訪問の機会を作る

(ウ) 専門職として質のスキル向上

①年間スケジュールに基づき、ビジネスマナーや介護保険幅広い研修を実施する

②業務に必要な外部研修や資格取得を推進する

3. 健康経営の推進

(ア) シフト勤務の導入や訪問ルールを設定し、超過勤務が常態化しない仕組みを構築する

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 聖隷の在宅サービス事業所や行政が行う地域に向けた取組みに協賛していく

【数値指標】

	レンタル 件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
コミュニケアセンター	15,315 件	200,824 千円	223,213 千円	20,350 千円	444,387 千円	30.7 人

聖隷厚生園 信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2024年度は引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、「利用者の“やりたい”を支援する」「職員が定年まで心身ともに健康で働き続けることができる職場づくり」の2つを基本方針とする。利用者と職員がお互いの気持ちを理解し合える機会を作り、利用者・職員の心理的安全性が保たれた施設を目指す。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択できるように、介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域の多様なニーズに対応できる事業運営を目指す。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

【事業計画】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
 - (ア)利用者の意思決定支援ガイドラインに基づいて、サービスの利用意向を反映した個別支援計画等の実践に努める。
 - (イ)身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行う。
 - (ウ)オムツメーカーと協働して、利用者に負担の少ない排泄介助方法を検討、実施する。
 - (エ)処遇困難ケースについて、グループスーパービジョンを行う。困難となっている原因を職員同士で分かち合い、利用者との関わり方を模索する。
 - (オ)虐待防止セルフチェック表を年2回実施し、利用者の尊厳を守る取り組みを行う。
 - (カ)社会資源を活用した新しい買い物支援のあり方を考え、実行する。
 - (キ)パラスポーツへの利用者参加を推進し、地域社会とのつながりを創る。

- (ク)利用者家族との意見交換を目的とした家族会を開催する。
- (ケ)夜間の宅直看護師が遠隔で利用者状態を目視しながら、夜勤者と情報交換ができるように、LINE の動画通話などを活用した新たな方法を実施する。
- (コ)入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援し、食事の付加価値を向上させる。
- (サ)水光熱費、食材料費の価格高騰に考慮した運営を行う。特に給食委託業者と協働し、給食のオペレーションの見直しを行う。
- (シ)施設の指定基準どおりに運営が出てきているか、年1回以上チェックを行う。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア)訪問看護ステーション細江では、聖隷三方原病院と連携し、浜松市旧北区・旧西区を中心に活動をする。特に高齢者の独居世帯の増加が進む引佐地区への積極的な介入を行う。
- (イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、細江、引佐、三方原、都田4地区を中心に引き続き地域ニーズに応じていく。また、ヘルパーセンターいなさと協働し、三ヶ日地区への支援に力を入れる。
- (ウ)聖隷ケアプランセンター細江では、学生やセカンドキャリアを目指す人材等が介護支援専門員の仕事に興味を持ってもらえるようにPR活動に力を入れ、人材の発掘から育成までを行い、減少している引佐地区への介護支援専門員の輩出に寄与する。
- (エ)在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的な連携に取り組み、課題解決の糸口を見出す。
- (オ)聖隷厚生園まじわりの家では、意思疎通ができない利用者に対して、感覚刺激を促す新たな支援を導入し、利用者満足度を向上させる。
- (カ)西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画を提案する。
- (キ)シオンハウスの今後の事業の方向性を協議し、具体的な動きにつなげる。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア)最新の介護機器を導入し、「介護の自動化」を推進させる。
- (イ)ノーリフトケア推進を継続し、職員が長く働き続ける職場づくりに努める。
- (ウ)新たに導入した支援記録・請求ソフト（ケアカルテ）の活用を進め、業務省力化を図る。
- (エ)カスタマーハラスメント防止のための仕組み整備し、職員・利用者研修を行う。
- (オ)職員が利用者のためにやりたいことを実現できる自発的な活動を推進させる。
- (カ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化させる。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図る。
- (イ)人事企画部と連携し、EPA 介護福祉士候補生の学習支援の強化を図る。
- (ウ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する。

(エ)聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障害者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行う。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア)大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、職員へのBCP（事業継続計画）周知徹底を図る。

(イ)地域の要請に応じて、災害等発生時には応援職員を派遣する。

【数値指標】

■障害者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園まじわりの家	
	入所	短期	生活介護	機能訓練
利 用 者 定 員	60 名	10 名	14 名	6 名
利 用 者 延 べ 人 数	21,535 名	3,824 名	4,156 名	1,082 名
一 日 平 均 利 用 者 数	59.0 名	10.5 名	16.3 名	4.2 名
稼 働 率	98.3%	104.8%	116.0%	70.4%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	256 日	256 日
単価（一人一日当り）	17,799 円	10,037 円	17,392 円	10,593 円
サービス活動収益	383,309 千円	38,382 千円	72,281 千円	11,462 千円
常勤換算職員数	58.7 名		12.1 名	

■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	月平均 利用者数		月間 訪問件数		年間 訪問件数		単価		サービス 活動 収益	常勤換算 職員数
	216 名		1,057 件		12,685 件		9,703 円		125,610 千円	17.3 名
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付				予防給付		単価		サービス 活動 収益	常勤換算 職員数
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)	予防 (月)			
		月間	年間	月間	年間					
		43 名	367 件	4,400 件	22 名			264 名	4,350 円	21,000 円
聖隷ケアプラン センター細江	年間請求件数		平均単価		サテライト(三方原)		サービス 活動 収益	常勤換算 職員数		
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額				
	2,109 件	360 件	16,600 円	4,023 円	84 件	73,500 円	37,878 千円	5.3 名		

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド
地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド
福祉共同住宅ファーストステップ

2024 年度、生活保護法改正に伴う個別支援計画作成の制度化が予定されている。救護施設讃栄寮では利用者の意思を尊重した個別支援計画を作成し、個人の能力に焦点をあてた生活支援を更に充実させ、自立促進を進めていく。障害在宅部門では利用者の生活背景の変化や若年化等がみられており、関連するサービス提供事業所や家族とも情報共有を更に強化し、地域の中で生活を継続するためのサービス提供に取り組んでいく。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の意思を尊重した自立支援の促進
2. 「経験できた」と実感できる利用者主体の個別支援を実施する
3. 利用者の将来を見据えた支援体制と仕組みづくりに取り組む
4. 利用者にとって最適な資源やサービスを提案する
5. 新たな地域ニーズを発掘し、関連するサービス提供事業所と協働する
6. 地域における地域貢献等の公益的な取り組み

【事業計画】

1. 利用者の意思を尊重した自立支援の促進
 - (ア) 利用者の自己選択と自己決定を促すことを主眼においた個別支援計画を作成し、実践する。
 - (イ) 地域移行支援、高齢者施設移行支援など、将来の生活を見据えた生活を送れるよう利用者、家族、関係機関と連携し、生活環境を整える支援を行う。
 - (ウ) 利用者の身体介助において安全且つ負担軽減されるよう ICT や福祉機器を活用する。
2. 「経験できた」と実感できる利用者主体の個別支援を実施する
 - (ア) 作業支援や金銭管理支援など日常生活目標にスモールステップを盛り込んだ自立生活支援を実施する。
 - (イ) 歯科受診、口腔ケア支援等の口腔内環境改善、または嚥下体操促進による嚥下機能低下防止等、安全に食事が摂れるよう支援する。
 - (ウ) 地域移行支援や居宅生活訓練において、地域資源の見学や体験機会を提供し、利用者の地域生活への意欲を高めるための取り組みを行う。
3. 利用者の将来を見据えた支援体制と仕組みづくりに取り組む
 - (ア) 生活訓練事業所ナルドでは、利用者の将来に対する家族の意向や自宅での生活状況を把握し、支援者間での情報共有や訪問支援など家族を巻き込んだ個別支援を提供する。
 - (イ) 生活介護事業では、利用者の「働きたい」という意欲を大事にし、将来的な可能性を維持した支援を提供するため、B 型就労支援事業所等と循環的な支援体制を構築する。

4. 利用者にとって最適な資源やサービスを提案する

(ア) 相談支援事業所ナルドでは、介護・医療・障害・児童等、多種多様の地域ニーズに対応できるよう、児童発達支援センターや訪問看護ステーション、その他サービス提供事業所等と顔をあわせたネットワークづくりに取り組む。

5. 新たな地域ニーズを発掘し、関連するサービス提供事業と協働する

(ア) 地域活動支援センターナルドでは、利用者が「誰かと関われる居場所づくり」「次へのステップ」となるために、障がい者相談支援センターなど関連機関と協働する。

(イ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、利用者の希望のある方に対して関係機関と連携し、地域移行を実現する。更に単身での地域生活に不安を抱える利用者を受入れ、将来的に地域移行を目標とした生活支援を実施する。

6. 地域における地域貢献など公益的な取り組み

(ア) 生活困窮者支援では、浜松市生活自立相談支援センターつながりと協働し、ケース検討や交換研修等の支援体制を構築し、無料低額宿泊所（日常生活支援住居施設）開設の協議を進める。

(イ) 大規模災害や感染拡大発生時等、要請に応じて職員派遣や福祉避難所提供を行う。

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護入所	救護通所	短期入所(総合支援法)
利 用 者 定 員	60 名	10 名	4 名
利 用 者 延 べ 人 数	23,725 名	2,920 名	1,138 名
一 日 平 均 利 用 者 数	65.0 名	8.0 名	3.1 名
稼 働 率	108.3%	80.0%	77.9%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	10,403 円	5,070 円	7,873 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	268,682 千円		8,959 千円
常 勤 換 算 職 員 数	29.8 名		

	生活訓練事業所ナルド		ナルド	ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	指定相談支援	共同生活援助
利 用 者 定 員	10 名	10 名	—	13 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,243 名	2,432 名	—	4,512 名
一 日 平 均 利 用 者 数	8.8 名	9.5 名	—	12.4 名
稼 働 率	87.7%	95.0%	—	95.1%
稼働日数(延べ)	256 日	256 日	—	365 日
単価(一人一日当り)	10,046 円	7,216 円	—	4,559 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	22,534 千円	17,549 千円	52,695 千円	20,571 千円
常 勤 換 算 職 員 数	5.8 名		7.7 名	3.1 名

聖隷厚生園ナルド工房

聖隷厚生園ナルド工房では、利用者が地域社会で活躍できる機会を増やすため、2023 年度に導入した床ワックス清掃作業に続き、2024 年度は喫茶店の営業再開を目指す。利用者が自己実現に向けて現状から次のステップをイメージすることができるように、様々な職業経験を積むことができる環境を作り、仕事にやりがいを感じられる事業所を目指す。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

【経営方針】

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、次のステップがイメージできる取り組み
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場作りの取り組み
4. 地域における公益的な取り組み

【事業計画】

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、次のステップがイメージできる取り組み
 - (ア) 喫茶店の営業を再開し、利用者へ販売・接客の仕事を提供することで、仕事の幅を広げる機会を作る。SNS 等を活用し、プロモーションに力を入れることで、人が集まる事業所を目指す
 - (イ) 利用者の目標設定のカンファレンスでは、職業準備性ピラミッドに基づき、できたこと、頑張ったことを定期的にフィードバックするとともに、自己の課題を知り、働く時間や日数を増やす等、次のステップを明確にした計画を立てる
 - (ウ) 利用者が企業での就労をイメージできるように「5S 活動」に取り組む。職員と利用者が一緒に働きやすい職場について意見交換を行う
 - (エ) 就労支援のグループワークでは、早期の企業見学や実習を行い、就職へのイメージが持てる取り組みを行う
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
 - (ア) 生活訓練事業所ナルドと協働し、利用者のステップアップや再チャレンジの仕組みを共有する。生活訓練事業所から就労支援事業所への体験会を積極的に行う
 - (イ) 聖隷ワース工房浜松学園と協働し、就労継続支援 B 型から A 型へステップアップできるように、実習機会を設ける等の仕組み作りを行う
 - (ウ) 相談支援事業所や在宅サービス事業所と協働し、健康管理等に課題のある利用者が安定して就労ができるように、担当者レベルでのタイムリーな情報交換を行う
 - (エ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を活用し、利用者が働く上で、自分の特徴や希望する配慮を自ら整理ができるように支援する。また、企業担当者や関連機関と情

報共有し、必要に応じてジョブコーチ等を提案する

- (オ) 特別支援学校の進路担当者と情報交換し、生徒・保護者が進路の見通しが立つようなアセスメントが行えるように、計画的かつ効果的な実習を行う

3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場作りの取り組み

- (ア) 外部研修やe-ラーニング、スキルラダーを活用し、利用者の障がい特性の理解や職業指導スキルの向上ができる学びの機会を作る
- (イ) 新たに導入した支援記録・請求ソフト（ケアカルテ）の機能を活用し、業務の効率化を図るとともに、捻出した時間を利用者支援に活かしていく
- (ウ) 虐待防止セルフチェックを年2回実施し、利用者への関わりや職場環境について定期的に振り返り、利用者・職員ともに安心して働くことができる環境作りに役立てる

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣施設と合同防災訓練を企画・提案し、有事の際に協力ができる関係作りをする

【数値指標】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援
利 用 者 定 員	10 名	30 名	20 名(利用者数)
利 用 者 延 べ 人 数	2,125 名	6,313 名	10 名(登録者)
一日平均利用者数	8.7 名	26.0 名	-名
稼 働 率	87.0%	86.6%	-%
稼働日数（延べ）	243 日	243 日	-日
単価(一人一日当り)	9,946 円	8,997 円	26,075 円
サービス活動収益	21,136 千円	56,795 千円	3,129 千円
常 勤 換 算 職 員 数	10.8 名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2024 年度は「他者の幸せのために働く」「利用者サービスのさらなる向上」「新しいことへの挑戦」の 3 つを柱に、利用者も職員も「浜松学園で働くことに誇りが感じられる」施設運営を目指す。利用者や職員の“やってみたい”を大切に、働くことの楽しさや喜びを感じられる斬新な事業展開を目指す。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名以上を目指す
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる
4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み
5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化
6. 地域における公益的な取り組みを行う

【事業計画】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名以上を目指す
 - (ア) 利用者リーダーを中心とした作業運営を基本とし、利用者の主体性を引き出す支援を行う
 - (イ) 全作業の業務マニュアルを整備し、作業活動の効率化と標準化を図る
 - (ウ) 職場見学や体験実習先を開拓し、利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供する
 - (エ) 就労パスポートはケース担当者が中心となり、利用者、作業担当、就労支援員と共同して作成し、相手先企業に対し、利用者の能力や特性をわかりやすく説明できるようにする
 - (オ) 就労定着支援では、就労支援員だけでなく、ケース担当者も就職先へ出向き、多くの職員が就職後も利用者となつながら、離職防止につなげる支援を行う
 - (カ) 浜松学園の敷地を活用して、利用者とともに楽しめる斬新な作業活動を企画提案する
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
 - (ア) 特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援をする
 - (イ) 利用者の個別ニーズに考慮した生活講座を行う
 - (ウ) 共用部や自室の清掃時間を決めて、身の回りの整理整頓が習慣化できるよう支援を行う
 - (エ) 体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニューを開発し、提供する

- (オ) 利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進する
- (カ) 利用者と職員がともに計画し、楽しめる行事企画を行い、個別支援に必要な関係性を築く
- (キ) 就職後に暮らすグループホームの必要性和あり方について検討し、提案する

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる

- (ア) 就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々に“仕事する上で大切なことは何か？”を考える機会を提供する
- (イ) 職場でのコミュニケーションの課題解決をするための社会生活技能訓練を行う
- (ウ) パソコン検定やクリーニング師など資格取得の支援を行い、利用者の自信につなげる

4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み

(聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア) 新たな業務として iPad や PC の初期設定作業の導入と、filo 事業では菓子製造の生産力アップやオープンカフェの開始などで事業収益の増収に努める
- (イ) 生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値のさらなる向上を目指す
- (ウ) 『filo きずなプロジェクト』として菓子箱やショップカードに障がい者アートを採用し、障がい者の地域社会とのつながりを支援する活動を開始する
- (エ) 下半期に 1 名以上の就職 6 カ月定着者を輩出する

(聖隷ステップサポート)

- (ア) 五感を刺激するレクリエーションやリハビリテーションを取り入れ、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させる
- (イ) 利用者が安全で居心地のよい環境を整備する
- (ウ) 地域の短期入所事業への送迎方法など組織間連携を強化して、利用者のサービスの使いやすさにつなげる

(短期入所)

- (ア) 土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制を整える
- (イ) 施設入所を検討している中学・高校生に対して短期入所の定期利用を勧め、入園後の生活イメージを育む支援を行う
- (ウ) 保護者と一緒に宿泊体験ができる取り組みを行う

(全事業)

- (ア) 2025 年度に創設される就労選択支援の実施に向け、今後の入園選考会の在り方を検討する
- (イ) 障がい者虐待防止に関する研修会開催や定期的な自己チェックを行い、職場内で共有する
- (ウ) オープンキャンパスを行い、新規利用につなげるための情報公開をする取り組みを行う
- (エ) ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Instagram) や介護記録閲覧サービス (ケアカルテライブ) などを活用し、保護者・関係者に情報発信を行う
- (オ) 地域社会への啓発と関係者が集うことを目的とした第 1 回浜松学園祭 (仮称) を開催する
- (カ) パラスポーツの参加を推進し、利用者と地域とがつながる機会をつくる
- (キ) 給食では食材料費や人件費の高騰を鑑みて、献立やオペレーションの見直しを行う

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

(ア) BCP（事業継続計画）の周知徹底を行い、非常災害時に備える

(イ) 外部講師を招き、定期的に職員の倫理観を養う研修を行う

(ウ) e-ラーニングを活用し、障がい者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援に生かす

(エ) 研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッションを定期開催する

6. 地域における公益的な取り組みを行う

(ア) 民間企業に対して、体験利用や宿泊体験などを通じて社員研修の機会を提供し、障がい者就労支援の啓発につとめる

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	施設入所	短期入所	就労移行	就労継続 B	就労定着
利 用 者 定 員	60 名	10 名	30 名	30 名	—
利 用 者 延 べ 人 数	12,275 名	1,260 名	7,465 名	8,880 名	442 名
一 日 平 均 利 用 者 数	35.1 名	4.2 名	29.0 名	34.5 名	—
稼 働 率	58.5%	42.3%	96.8%	115.2%	—
稼 働 日 数（延 べ）	350 日	298 日	257 日	257 日	—
単価（一人一日当り）	3,554 円	8,688 円	14,882 円	12,526 円	—
サ ー ビ ス 活 動 収 益	43,622 千円	10,947 千円	111,094 千円	111,230 千円	15,679 千円
常 勤 換 算 職 員 数	31.2 名				

	ステップサポート	ワース工房
	生活介護	就労継続 A
利 用 者 定 員	20 名	15 名
利 用 者 延 べ 人 数	5,131 名	3,199 名
一 日 平 均 利 用 者 数	20.1 名	13.2 名
稼 働 率	100.2%	87.8%
稼 働 日 数（延 べ）	256 日	243 日
単価（一人一日当り）	12,640 円	49,567 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	64,858 千円	158,565 千円
常 勤 換 算 職 員 数	8.3 名	5.9 名

軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里は、1978年に軽費老人ホームA型として設立され、建築後45年が経過した。2024年度は、三方原地区における再開発計画に合わせて、老朽化した施設の建替えの検討、今後の事業形態の在り方について具体的な計画を策定する年度とする。

入居者サービスについては、「もくせいの里で安心して暮らしたい」との思いに応える取り組みを行う。遠足・外出企画での行先の提案や、食堂で使用する各種食器類の選定など、入居者自らが主体的に選択して生活していくことを推進していく。認知症予防について、定期的に簡易認知機能検査等を行い、個別の状況に応じ必要なサービスに結び付けていく。さらに、理学療法・作業療法に加え、新たに言語聴覚士による言語聴覚療法の導入を図り、嚥下・聴覚機能等の維持・向上を図っていく。このようなフレイル対策と併せて、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）にも取り組み、将来の意向を確認していくと共に、現在抱えている個人課題を発見し、課題解決に向けて取り組んでいく。

最後に、新型コロナウイルス等の感染症への対応や食品ロス低減も含めた物価高騰への対策、さらに南海トラフ地震への備えの強化をしっかりと取り組み、健全運営を推進していく。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす

【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心した生活が過ごせる支援を行う
2. 入居者・利用者に満足していただける質の高い食事提供を行う
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献を積極的に行う

【事業計画】

1. 質の高いサービスの追求と提供
 - (ア) 施設理念を具現化していくため、外出行事の行先や日程、各種レクリエーション等、日々の生活場面において、入居者自身が決定していく機会を提供していく。
 - (イ) より有効なフレイル予防のため、外部のリハビリ専門職を活用していく。2024年度からは言語聴覚士による支援を新たに導入していく。
 - (ウ) 認知症の早期発見や進行確認のため、定期的に簡易認知機能検査等を活用して状態把握を行う。必要に応じ、病院受診の推奨や地域包括支援センター細江に繋げていく。
 - (エ) 食事について、嗜好調査や日々の聞き取りを行い、満足度を向上させていくと共に、食事に関する行事や企画について、入居者と職員が協同して一緒に作る内容としていく。
 - (オ) 配食サービス利用者の配食時（安否確認時）の状況について、家族や地域包括支援センター・担当介護支援専門員と情報共有していく。

2. 健全運営の推進

- (ア) 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、電気料は2023年度比110%以下、ガス代、食材料費については2023年度同程度を目指す。
- (イ) 短・中期的将来の配食サービスの在り方について、在宅・福祉静岡ブロックと共に検討を開始する。
- (ウ) 地域包括支援センター等関係機関に対し、待機者状況を定期的に提供し、待機者確保に取り組む。
- (エ) 新型コロナウイルス等の感染症対策については、これまで同様に入居者の協力を得ながら継続していく。また、施設内蔓延に備え、衛生用品等の不足がないよう準備する。
- (オ) 南海トラフ地震への備えを強化し、消防・防火設備点検等での不具合は早期に改善していく。

3. 職員の質の向上

- (ア) 相談員・介護職員のソーシャルワーク実践力を高めるため、専門職ラダーの取り組みや外部研修に積極的に参加していく。
- (イ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）に取り組み、入居者の将来の変化に対応していく。
- (ウ) 各部署や職種間の業務内容の相互理解を促進し、連携力を高めていく。
- (エ) 他の軽費老人ホームとの交流の機会を設け、支援の幅を広げる取り組みを行う。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。
- (イ) 近隣幼稚園との定期的な交流を行う。隣接する高台幼稚園とは、「ふれあいニコニコデー」として年間7回の交流会を開催する。
- (ウ) 浜名区細江町湖東地域住民ともくせいの里入居者の交流を目的に、毎月開催される「湖東公民館サロン」の運営委員会に参画する。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利 用 者 定 員	50 名	—	
利 用 者 延 べ 数	18,104 名	14,691 名	
1 日 平 均 利 用 者 数	49.6 名	47.7 名	
稼 働 率 （ % ）	99.2%	—	
稼 働 日 数 （ 延 べ ）	365 日	308 日	
単 価 （ 一 人 一 日 当 り ）	6,044 円	700 円	
サ ー ビ ス 活 動 収 益	110,312 千円	10,284 千円	120,596 千円
常 勤 換 算 職 員 数	12.7 名	2.4 名	15.1 名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2023 年度は、施設として新型コロナウイルス感染症への対応方法を確立し、一定の条件下であったが、地域住民によるボランティア活動や今まで休止してきたイベント等を再開することができた。改めて地域に支えられながら運営できる喜びを感じる 1 年となった。

介護保険事業は、「引佐地域のまるごと聖隷」を掲げ、引佐の地域住民が安心して生活を営めるよう、地域の全事業で切れ目のないサービス提供体制を目指した。第一段階として、ケアセンターいなさ内にいなさ愛光園在宅部門のサテライト事務所を設置し、利用者情報や地域課題をタイムリーに共有、サービスに繋げる取り組みが構築できた。

2024 年度は利用者・家族、地域の方々の意向やニーズを中心に据え、最高のサービスを追求すると共に、引佐地域・佐久間地域との連携・運動を加速させる。今後、中山間地域における担い手不足は事業継続の脅威となりうるが、ICT 機器や福祉機器の活用による生産性の向上や、職員が安心して長く働き続ける職場環境の整備に注力したい。そして、未来を見据えた事業を継続する為に、地域に根差して活躍できる職員育成に取り組み、中山間地域での多様なニーズに応えられる事業運営を目指す。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

【事業計画】

1. 中山間地域における多機能型施設として、引佐地区全域で切れ目のない支援体制を構築する
 - (ア) ケアセンターいなさ・三ヶ日地区在宅複合事業・さくまの里との連携を構築する
 - (イ) 事業所間の理解と連携を高めるために、連携会議や交換研修を開催する
 - (ウ) 地域のサロンや地域ケア会議等に参加し、地域課題の発掘をおこなう
 - (エ) 医療・福祉提供体制について、検討・事業化の可能性を模索する
 - (オ) リハビリプラザいなさと連携し、送迎業務について送迎職員の一本化を図る

2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする

- (ア) 個別性に焦点をあて、利用者の意向や尊厳を尊重するケアを追求する
- (イ) 感染症対策として自粛していた活動を再開し、利用者に喜ばれるイベントを開催する
- (ウ) 利用者が清潔で明るく安全な環境で過ごせるよう、定期的な環境整備を実施する
- (エ) 在宅から入居まで一貫したサービスを提供する為に、在宅・施設部門の連携強化に努める

3. 人材育成と職員が長く活躍できる環境づくりを推進する

- (ア) ICT 機器や福祉機器を効果的に活用し、利用者・職員へ還元する体制を整備する
- (イ) 職員のワークライフバランスを意識し、全事業の業務改善に取り組む
- (ウ) 次世代を担う役職者及びリーダー職員を育成する
- (エ) 施設内外への異動や研修を意図的に行い、地域で活躍できる人材を育成する
- (オ) シニア世代が活躍できる職場体制を構築する

4. 安定した施設運営をする

- (ア) ICT 機器等を活用し、効果的・効率的な職員配置を実施する
- (イ) 食事提供に関して、完全調理品の導入を含めた検討を進める
- (ウ) 自然災害発生時における業務継続や防災計画の定期的な見直しと周知をする
- (エ) 経営状況を踏まえて修繕計画及び設備・備品の更新をする
- (オ) 報酬改定の内容を精査し、新規加算取得に努める

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する
- (イ) 地区社協主催の地域の子供行事に参画する
- (ウ) 自治会の防災訓練に参加し、連携を図る
- (エ) 福祉避難所として必要時に開設想定できるよう準備する

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利 用 者 定 員	30 名	40 名	20 名	35 名	
利 用 者 延 べ 人 数	10,707 名	14,449 名	6,169 名	7,838 名	889 名
一日平均利用者数	29.3 名	39.6 名	16.9 名	25.4 名	2.9 名
稼 動 率	97.8%	99.0%	84.5%	80.7%	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	309 日	
単 価 （一人一日当り）	13,614 円	15,102 円	13,640 円	9,945 円	
サービス活動収益	145,796 千円	218,252 千円	84,146 千円	86,801 千円	
常 勤 換 算 職 員 数	48.8 名		15.1 名	13.7 名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利 用 者 定 員	9 名			12 名	
利 用 者 延 べ 人 数	3,230 名	1,965 名	720 名	2,903 名	0 名
一日平均利用者数	8.8 名			9.4 名	0 名
稼 動 率	98.3%			78.3%	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	309 日	
単 価 （一人一日当り）	13,956 円	17,779 円	3,833 円	13,162 円	
サービス活動収益	45,077 千円	38,623 千円		38,208 千円	
常 勤 換 算 職 員 数	7.3 名	5.0 名		7.4 名	
	訪問介護		居宅介護 （障害）	配食 サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利 用 者 定 員					
利 用 者 延 べ 人 数	2,537 名	942 名	540 名	970 名	
一日平均利用者数	7.0 名	2.6 名	1.5 名	3.3 名	
稼 動 率				—	
稼動日数（延べ）	361 日	361 日	361 日	294 日	365 日
単 価 （一人一日当り）	4,708 円		3,989 円	716 円	
サービス活動収益	16,613 千円		2,154 千円	695 千円	
常 勤 換 算 職 員 数			5.0 名		
	合計				
単 価 （一人一日当り）					
サービス活動収益	676,365 千円				
常 勤 換 算 職 員 数	102.3 名				

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江

聖隷リハビリプラザいなさ

2024年度浜名区旧引佐三町地域は、高齢者が増加する一方で支援の担い手の減少、病院の診療科の縮小や診療所の医師の高齢化などによる地域医療の先細りが心配される状況が進み、高齢者が住み慣れた地域で生活することがますます困難になることが予想される。社会資源が乏しい当該地域において本人の住み慣れた地域で本人が望む生活の継続実現の為、地域のニーズに合致した事業をケアセンター内のみならず、法人内の他事業所と連携・協働し展開していく。

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現をめざし地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する

【事業計画】

1. 住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

(ア) 各事業所の地域への支援

① 地域包括支援センター細江

幅広い世代への周知や他分野機関との連携による早期発見・対応機能の充実を図る

② 聖隷リハビリプラザいなさ

専門性を活かした個別プログラムの提供を行い困りごとの解決

健康管理、各機関との連携による重度化予防の充実を図る

(イ) 認知症の周知

- ① 地域の小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を中心に認知症サポーター養成講座及び認知症ひとり歩き模擬訓練を開催

(ウ) 意思決定支援の推進

- ① 引佐郡医師会と協働し地域向け市民フォーラムの開催

2. 運営の安定化

(ア) リハビリ特化型デイサービスの強みを生かした専門性を発揮できるフロア体制づくり

(イ) いなさ愛光園と連携した送迎の効率化

(ウ) 職員が働きやすく、やりがいを感じられる職場づくりの取組

3. 拠点機能の強化

(ア) いなさ愛光園との連携の強化

- ① いなさ愛光園在宅サービスによる設備の活用と地域向け広報活動の実施

(イ) 地域の支援者との連携の強化

- ① ケアマネジャーをはじめとした地域の支援者の事例検討会、地域ケア会議、ネットワーク会議等の開催支援

- ② 地域の社会資源の情報収集と発信

(ウ) 高齢者分野以外の要援護者、多問題世帯への支援

- ① 法人内障がいサービス事業所との連携

- ② 浜松市北障がい者相談支援センター、浜松市生活自立相談支援センターつながり、医療機関、行政等との連携による支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応力強化

4. 地域における公益的な取組

(ア) 自主運営のノルディックウォーク愛好会の継続的な活動の支援

(イ) 学習支援教室継続へ会場提供を通じた支援

(ウ) いなさ愛光園・聖隷訪問看護ステーション三ヶ日・聖隷ケアプランセンター三ヶ日と連携し、地域に向けた定期的なイベントと相談会の実施

(エ) 地域交流スペースを地域のつながりの場として活用

【数値指標】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等	内再委託 件数	予防マネジメント 単価	総収入	常勤換算 職員数
54,274 千円	介護予防 4,344 件	3,360 件	4,471 円	89,673 千円	10.2 名
	マネ A 2,796 件	1,980 件	4,471 円		
	マネ B 1,068 件	— 件	3,246 円		

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価		総収入	常勤換算 職員数
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
27.2 名	660 名	7,918 名	100 名	1,324 名	7,422 円	27,741 円	95,940 千円	16.9 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2023年度は、新型コロナウイルス感染予防対策が緩和され、利用者、職員の生活が少しずつ以前の状況に戻ってきた。2024年度は、3事業所の強みを活かした質の高いケアを提供し、また近隣の施設と連携することで、地域で暮らす方々の「その人の望む生活」を支援する。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【経営方針】

1. 近隣の施設と連携し、地域で暮らす方々が最期まで「その人の望む生活」を支援する
2. 予防から終末期まで、様々なご利用者への理解を深め、個々の利用者に寄り添う支援を提供する

【事業計画】

1. 近隣の施設との連携
 - (ア) 聖隷デイサービスセンター初生との連携
 - ① 職員がそれぞれの施設・役割を知るために職員交換研修、合同事例検討会を行う
 - ② ご利用者の合同イベントを開催する
 - (イ) 近隣の病院との連携
 - ① 聖隷三方原病院外来リハビリテーション終了後の後方施設として連携する
 - ② 浜松医科大学退院支援部門、消化器病棟との連携を促進する
 - (ウ) 地域包括支援センターとの連携
 - ① 地域の研修会・交流会への参画・情報交換を行う
2. 3事業所の強みを活かし、質の高いケアを提供する
 - (ア) 利用者個々の心身機能を把握し、個別性と効率性を重視した運動・生活動作の支援
 - (イ) 希望者に対し、認知症機能評価を実施し共有する
 - (ウ) 「その人の望む生活」を3事業所で聞き、それに沿った支援を共有・提供する
3. 職員が生き生きと働くことができる環境作りと経営の安定化
 - (ア) 業務の効率化を図るため、フロア業務、帳票の見直し、ICT化を推進する
 - (イ) 専門職が働きやすさ、やりがいを満たすことができるようケアサポーター、ボランティアを活用する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ロコモーショントレーニングサロン活動の内容を継続する
- (イ) 地域活動（認知症高齢者声掛け訓練・防災訓練等）に積極的に参加する
- (ウ) 健康秋祭りを開催し、地域の方々に「楽しみの場」を提供する

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
180 人	913 件	10,956 件	9,689 円	110,446 千円	15.7 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防				
1,950 件	636 件	16,000 円	636 円	12 件	4,400	34,113 千円	5.1 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(日)	予防(月)		
31.7 人	816 件	9,794 件	69 人	828 人	6,640 円	28,624 円	89,166 千円	18.0 人

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
1.4 人	39 人	468 人	8,940 円	4,188 千円	18.0 人

三ヶ日地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

2023年4月より三ヶ日地区在宅複合事業を開始し、「住み慣れた地域で暮らしたい」という地域ニーズに貢献できる体制の構築を目指してきた。2事業所が更なる連携強化を図り、在宅療養の浸透と「家にいたい」を支えていく。

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日では、三ヶ日町において「望む療養が自己決定できる地域づくり」を目指し、湖西地区においては関係機関との顔の見える関係づくりを強化し、聖隷訪問看護の浸透を図る。

聖隷ケアプランセンター三ヶ日では、介護や医療が必要な状態になっても、地域で住み続けられることが出来る支援体制の強化を図る。

【施設理念】

利用者と家族に寄り添い、住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせること」を支え続ける

(聖隷訪問看護ステーション三ヶ日)

【経営方針】

1. 地域への意思決定支援の推進
2. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期から切れ目のない支援を行う
3. 職員が元気に、安心して働くことができる環境づくり

【事業・運営計画】

1. 地域への意思決定支援の推進
 - (ア) 地域のサービス事業所や民生委員へ向けた勉強会開催
 - (イ) 訪問看護通信での情報発信
 - (ウ) なおとらシート、人生会議手帳の利用推進
2. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期から切れ目のない支援を行う
 - (ア) 聖隷三方原病院外来との連携強化
 - (イ) 難病患者が多い聖隷浜松病院、浜松医科大学医学部附属病院への広報活動強化
 - (ウ) 聖隷ケアプランセンター三ヶ日との連携強化
 - ① 合同カンファレンスや地域の居宅介護支援事業も含めた事例検討会開催
 - (エ) 地域包括支援センター細江と連携し、出前講座の継続
3. 職員が元気に、安心して働くことができる環境づくり
 - (ア) 超過勤務時間削減のため、直帰の推奨
 - (イ) カンファレンスの充実
 - (ウ) 何でも相談できる環境づくり
 - (エ) ナーシングスキルを活用した自己学習の推進

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域包括支援センター細江と連携し、地域に向けた定期的なイベント開催

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
123 人	494 件	5,924 件	9,517 円	56,617 千円	8.4 名

(聖隷ケアプランセンター三ヶ日)

【経営方針】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制づくりの推進
2. 運営の安定化
3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制づくりの推進
 - (ア) 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日との連携で地域の在宅療養体制の発信・強化
 - ① 定期事例検討会の開催
 - ② 聖隷三方原病院への病棟ラウンド、退院支援看護師会議への参加継続
 - (イ) いなさ愛光園、聖隷リハビリプラザいなさとの連携で、地域の介護体制の強化
 - (ウ) 各サービス事業所・医療機関と顔の見える関係性の維持
 - ① 地域包括支援センター主催の研修への参加
 - (エ) 意思決定支援の推進
2. 運営の安定化
 - (ア) 継続的な新規利用者の受け入れを行う。特にターミナル期利用者に対しては、聖隷訪問看護ステーション三ヶ日と連携し、積極的に受入れる
 - (イ) 超過勤務時間削減のため、直行直帰の活用
 - (ウ) 新たな担い手の確保
 - ① 法人内のケアマネジャー試験対策講座への協力
3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり
 - (ア) 計画に基づいた研修への参加と伝達、勉強会の実施で得た知識を利用者に還元する
 - (イ) AI ケアプラン、ケアプラン連携データシステムの導入による業務効率化
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域包括支援センター細江と連携し、地域に向けた定期的なイベントの開催

【数値指標】

年間請求件数			平均単価(円)			サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	サテライト	介護	予防	サテライト		
2,028 件	396 件	84 件	15,900 円	3,900 円	73,500 円	34,748 千円	5.3 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

生活困窮者自立支援制度が施行される前よりモデル事業としてスタートし、制度施行後も浜松市の受託事業として生活困窮世帯に対する支援を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い生活困窮世帯が急増し、生活困窮世帯に対する支援の必要性がこれまで以上に高まった。

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き相談数も減少傾向であるが、緊急一時的な給付金等の制度が終了し、生活困窮に陥る世帯が継続して見られている。また、相談者は医療や福祉等各種制度につながりにくい「制度の狭間」にいる特徴がある。

2024 年度は「制度の狭間」にある生活困窮世帯に対して、現状提供している各種支援内容を整備・強化していく。また、社会福祉法人として地域ニーズに沿った支援を展開していけるよう、事業団内外の関係機関や地域と今まで以上に連携を図り、生活困窮支援に取り組んでいく。

【施設理念】

全ての相談に心を傾け、受け止め、伴走しながら『生き生きと生きる』ことを支えます

【経営方針】

1. 地域における公益的な取り組みを推進する。
2. 生活自立に向けて就労支援・就労支援準備に努める。
3. 学習サポート及びキャリア形成支援に努める。
4. 生活困窮者一時生活支援事業及び新規入所型支援の検討を進める。
5. 職員が働きやすく、育まれる環境を創造する。

【事業計画】

1. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 生活困窮世帯及び生活保護世帯のうち、各制度や適切な支援につながりにくい「制度の狭間にいる困窮世帯」に対して、救護施設讃栄寮と連携し生活再建に向けた支援体制を構築する。
 - (イ) 地域の子ども達（小学1年生～高校生）に対して、学習サポートを継続実施する。学習を入り口として世帯に関わり、様々な課題の早期発見、解決につなげていく。
 - (ウ) 聖隷キッチン和合と連携し、学習サポート教室の子ども達や困窮世帯において食のニーズがある世帯へ食事の提供支援を実施する。
 - (エ) 外国にルーツのある子ども達（小学1年生～高校生）に対して、(イ)の学習サポート、(ウ)の食事の提供支援に加え、日本語支援の必要性について検討する。
2. 就労支援及び就労準備支援
 - (ア) 就労支援対象者のうち、年間100名以上の就職実績を目指す。
 - (イ) 就労準備支援対象者の新規利用者15名以上の支援を実施する。
 - (ウ) 協力企業と共同し職場見学や職場体験を経て、年間4名以上の就職を目指す。

3. 学習サポート及びキャリア形成支援

- (ア) 卒業生を対象に高校定着や就労支援等、必要な支援が実施できるよう開始した SNS について効果検証し、現役生や子どもの世帯への対象範囲拡大について検討する。
- (イ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援を実施し、学習支援及び生活相談支援を継続する。

4. 生活困窮者一時生活支援事業及び新規入所型支援の検討

- (ア) 「制度の狭間に居る困窮世帯」に対して、救護施設讃栄寮、行政関係各課、民生児童委員等地域の方と連携し、「無料定額宿泊所の開設」及び「無料定額宿泊所における日常生活起居支援施設の運営」を 2024 年度中に方針決定する。
- (イ) (ア) の必要性を判断するため、「生活困窮者一時生活支援事業」では、生活支援や社会生活上の支援が密に必要な方を受け入れる。必要時には部屋数を増室して対応する。

5. 職員が働きやすく、育まれる環境づくり

- (ア) 生活困窮者自立支援の各業務について、業務マニュアルを作成する。
- (イ) 社会福祉士を目指す学生の実習を受け入れる。
- (ウ) 職員相互が相談しやすく、成長できる申し送りやケース検討方法を見直し実施する。

【数値指標】

	浜松市生活自立相談支援センターつながり			
	生活困窮者自立支援事業 (自立相談支援・就労支援・ 就労準備支援・家計改善支援・ キャリア形成支援・一時生活支援事業)	学習支援 事業	ホームレス 巡回支援 事業	学習サポート 事業
サービス 活動収益	83,761 千円	4,096 千円	384 千円	—
常勤換算 職員数	18.2 名			0.3 名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園

浜北愛光園デイサービスセンター

障害者相談支援事業所浜松東

聖隷ケアプランセンター浜北

地域包括支援センター北浜

訪問看護ステーション貴布祢

聖隷チャレンジ工房浜北

2024年度は、利用者のニーズや想いを反映したプランニングと専門的な関わりに努める。また、職員が「やりたいこと」の実践と「やりがい」を感じられるための現場改革を継続し、人材育成と安定した人材確保の取り組みを進める。設備投資の効果を意識したケアの向上とともに複合施設として施設内連携を発展させ、サービスの狭間にいる方や地域で困っている方を支えることができるようシームレスで柔軟なサービスの提供を目指していく。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切に施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 誰一人もれることが無いよう複合施設としての利点を活かした、サービスを追求・実践する
2. 地域や利用される方のニーズや想いを大切にできる職員を育成する
3. 個人やチームの創造力や専門性を高め、質の高いサービスを継承、発展させる
4. クリーンで健全な運営を行い、安定と発展ができる経営を行う
5. 地域貢献と地域の公益的な取り組みを行う

【事業計画】

1. 複合施設の強みを生かした、利用される方のニーズや想いが実現できる支援を行う
 - (ア) 事業所種別を超えたカンファレンスや人事交流を活発化させ、サービスの枠を超えた協力体制の構築を図り、サービスを一貫して行うワンストップ支援体制を推進する
 - (イ) サービス開始時に聴取したニーズや意向等を「BGA(Back Ground Assessment)シート」に落とし込み、在宅から施設へ移行しても、ニーズや想いが継承できるようケアプランに反映する
 - (ウ) 利用者の自己実現の為に、意欲（健康や就労等）向上を図る取り組みを行う
 - (エ) 身寄りのない方や重度認知症による介護を必要とする方が、安心してサービスを利用できるように在宅・施設の対応力の強化を図る
 - (オ) ICT 機器・福祉用具の導入や業務改善を行った結果、うまれた時間やゆとりを利用者に還元し、利用者の尊厳を尊重するケアを追求する
2. 新しい働き方への創造力と質の高い専門性を備えた職員育成を行う
 - (ア) 新人職員からリーダー職員までの育成システムを再構築し次世代職員の育成を行う

- (イ) 交換研修（職場体験）・人事交流を積極的に行い、職員個々がキャリアデザインを描ける環境を整備する
- (ウ) 職員個々のキャリアデザインから、必要な資格取得や計画的な研修参加を促し、将来を見据えたスキル取得を支援する
- (エ) ICT 機器・福祉用具の活用を促進し、根本的な業務改善と適正な人員配置を行う
- (オ) 福祉職としての喜びを分かち合える機会を設け、職員同士研鑽しあえる環境をつくる

3. 運営安定化の推進

- (ア) 新規利用者獲得の為に、SNS（HitomeQ コネクト・LINE 等）を活用した、広報活動の充実を図る
- (イ) 各種報酬改定内容を見定めた適切な加算算定、請求の正確性・効率化を図る
- (ウ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新、利用料の見直しを計画的に実施する
- (エ) 拠点施設としてエリア内の連携を高め、有事の際の協力体制を築く

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 専門職による出前講座等、地域の中の施設として広報と地域貢献活動に取り組む
- (イ) 大規模災害に備え、地域の集まりや訓練に参加し、災害発生時に協力できる関係づくりを行う

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 事業 (浜松東)
	特養入所		短期入所		通所介護		
					一般型	予防	
	従来型	ユニット 型	従来型	ユニット 型	一般型	予防	
利 用 者 定 員	50 名	100 名	20 名	20 名	40 名		
利 用 延 数	17,704 名	35,408 名	5,775 名	5,120 名	7,383 名	108 名	
一 日 平 均 利 用 者 数	48.5 名	97.0 名	15.8 名	14.0 名	23.9 名	0.3 名	
稼 動 率	97.0%	97.0%	79.1%	77.9%	59.7%		
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	365 日	365 日	309 日		
平 均 介 護 度	3.9	3.8	3.4	3.1	2.3		
単 価 (一人一日)	12,972 円	15,190 円	11,804 円	14,168 円	11,504 円		
サ ー ビ ス 活 動 収 益	232,055 千円	538,452 千円	68,170 千円	78,330 千円	86,178 千円		21,844 千円
常 勤 換 算 職 員 数	38.9 名	67.1 名	8.1 名	11.0 名	14.7 名		3.0 名

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防				
2,000 件	360 件	16,300 円	3,800 円	8 件	4,400 円	36,167 千円	5.5 名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
37,267 千円	1,716 件	636 件	4,471 円	57,117 千円	5.7 名

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
163 名	811 件	9,727 件	10,240 円	99,607 千円	14.1 名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
就労移行	6 名	994 名	38.8%	256 日	8,869 円	12,429 千円	15.3 名
就労継続	24 名	5,240 名	70.9%	308 日	8,616 円	64,523 千円	
就労定着		106 名			28,809 円	4,626 千円	
生活介護	10 名	2,740 名	112.7%	243 日	7,444 円	20,476 千円	

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園	森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション	聖隷ケアプランセンター森町
森町愛光園天宮サテライト	聖隷放課後クラブはなえみ森町

2024年度森町愛光園は、導入した介護ロボットやICT機器を活用し、生産性の向上と科学的根拠に基づいた介護・支援の実践を推進する。加えて設備の更新、修繕を行い施設の価値を向上させることでより地域から求められる施設づくりを行っていく。地域に必要とされるためには園内の取り組みだけでなく、地域に出向いて多様な地域ニーズを把握し、ニーズに対応していける人材を育成すること、また、地域資源の一つである福祉施設として今後起こり得る災害への備えを一層強くすることも必要である。生産性向上と人材育成を両輪としながら、スタッフがやりがいと誇りを持って働くことができ、地域に貢献していける環境と仕組みを整えていく。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのクオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めていくことができる組織づくりを目指します

【事業計画】

1. 「最高の質のサービス」の提供
 - (ア) ICTを活用しながら適切なアセスメントに基づいたサービス計画を立案し、利用者の自立支援に資するケア・支援を提供する
 - (イ) スタッフのホスピタリティ能力を高める取り組みを行い、利用者満足度を向上させる
 - (ウ) 各専門職と協力医療機関との連携を強化し、専門的知見を利用者ケア・支援へ一体的に反映できる仕組みをつくる
 - (エ) 各事業において生産性向上活動を実施し、利用者へのケア・支援の密度を高める
 - (オ) 在宅、施設で利用者が「最期まで安心して過ごせる」看取りケアを推進する
2. 働きがいのある職場づくりと人材の確保と育成
 - (ア) 理念、行動指針の浸透を図りスタッフの自律とエンゲージメントを向上させる

- (イ) マネジャー教育を実施し、スタッフが安心して働ける職場環境づくりを推進する
- (ウ) リーダー、中堅層が職場改善の取り組みや適切な OJT を行える体制、仕組みを構築する
- (エ) 在宅・入所事業間で交換研修を行い、互いの業務と利用者を理解するスタッフを増やす
- (オ) ノーリフトケアを推進して身体的な負担が少ない、選ばれやすい介護職場をつくる

3. 健康経営の推進

- (ア) 周辺市の新規利用者を獲得し、在宅介護サービスの提供圏域を町外へと拡大する
- (イ) 町内外へ向けて特養入所の PR を行い地域密着型特養の入居申込み、待機者を増やす
- (ウ) ICT を活用し各事業の取り組みを地域へ向けて発信し、地域との信頼関係を深める
- (エ) 大規模修繕を実施し施設価値を高めるとともに将来的な建て替え計画を立案する
- (オ) BCP を日常的に訓練、検証し、感染症や災害発生時のリスクへの備えを強固にする

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小中学校、高校の福祉体験、職業体験、実習等に協力するとともに、地域住民のボランティア活動の受入れを行う
- (イ) 森町、地域包括支援センター、町内各団体の事業や近隣自治会の福祉活動、地域防災訓練等にスタッフがボランティアとして参加する
- (ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき登録員の派遣を行う

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利 用 者 定 員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名		
利用者延べ人数	21, 513 名	7, 097 名	10, 271 名	3, 378 名	7, 855 名	912 名	
一日平均利用者数	58. 9 名	19. 4 名	28. 1 名	9. 25 名	25. 5 名	3. 0 名	
稼 動 率	98. 2%	97. 2%	97. 0%	77. 1%	67. 8%		
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	365 日	308 日		
単価（一人一日当り）	12, 979 円	15, 320 円	14, 216 円	11, 968 円	9, 401 円	5, 996 円	
サービス活動収益	280, 948 千円	109, 183 千円	146, 763千円	40, 654 千円	82, 940 千円		
常勤換算職員数	39. 0 名	14. 1 名	19. 7 名	5. 7 名	13. 6 名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			放課後等 デイサービス
		介護	予防	介護	予防	障害	
利 用 者 定 員	－	－	－	－	－	－	10 名
利用者延べ人数	－	2, 064 名	360 名	3, 240 名	972 名	299 名	2, 673 名
一日平均利用者数	－	－	－	9. 0 名	2. 7 名	0. 8 名	11. 0 名
稼 動 率	－	－	－	－	－	－	110. 0%
稼動日数（延べ）	365 日	365 日		359 日			243 日
単価（一人一日当り）	－	17, 239 円	3, 893 円	5, 587 円	4, 566 円	4, 618 円	11, 336 円
サービス活動収益	－	38, 133 千円		24, 359 千円		1, 381 千円	30, 386千円
常勤換算職員数	0. 1 名	5. 0 名		5. 9 名		0. 1 名	5. 6 名

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター

磐田市地域活動支援センター

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、価値観や生活スタイルの多様化や少子化が想定を超えて進む中、利用者や保護者、地域とのつながりを紡ぎ始めた年度であった。圏域自立支援協議会の声を受け、障害者相談（一般相談支援「地域移行・地域定着支援」）の事業を新たに開始した。

2024年度は、報酬改定で利用者の権利を守ること（意思決定支援・こどもの声を聞く）が明文化される。そのため我々は、支援の原点に立ち返り、利用者や地域の声を受け止め、「利用者まんなか支援」の実現に向けて体制を整えるとともに、利用者に常に向き合っている職員の「気づき」や「想い」を実践化し、職員の「やりがい」を高めながら、サービスの質の向上に努めたい。

また、いつ来るかわからない災害への備えを平時から行うことで、安心安全な基盤づくりに取り組む年度としたい。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化を図る
3. 地域における公益的な取り組みを進める

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービス提供

（ア） 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① こどもの想いや個性を受け止め、自己肯定感が高められる環境づくりを行う
- ② その子に合った移行支援を目指し、関係機関と就園・就学前後の情報共有を行う
- ③ こどもの強み・苦手さを視覚的に伝え、家庭で取り入れやすい関わり方を助言する
- ④ 発達支援の拠点として、地域支援を担えるよう磐田市との連携体制を整える

（イ） 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① こどもの想いを引き出し ICT 等のツールを活用し、子ども主体の活動を行う
- ② 親子体験型行事等、こどもの成長を実感し保護者同士繋がる機会を提供する
- ③ 多様な価値観に触れられるよう、様々な人・環境・物と接する機会を提供する

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 9名の就職者を輩出し、就労生活が定着できるよう支援を行う。
- ② 作業訓練メニューの見直しを行い、目標平均工賃 30,000 円/月を目指す
- ③ 就労意欲維持や自信獲得のため、成長を可視化できる仕組みづくりを行う
- ④ 事例検討等を通して、チームで支援する体制（統一した支援・役割分担）を整える

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① こどもが自分の感情に気づき言語化できるよう、保護者に関わり方を助言する
- ② 保護者がこどもの所属する園学校と協力体制を築けるよう、近い未来を見据えた助言を行う
- ③ こども家庭センター設置に伴い、磐田市と協働し、関係機関と役割分担を行う
- ④ 複合的な課題に対応するため、センター内・関係機関との連携体制を整える

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① 認知症の方を支えるため、ネットワークづくりを行う
- ② 引きこもり等サービスにつながりづらい方に対して継続的に支える仕組みを作る
- ③ 多様な価値観に触れる事業所モニタリングにて利用者理解を深め、その人らしいプラン作成と相談体制を整える
- ④ 一般相談支援（地域移行・定着）の利用促進に向け、関係機関と連携体制を整える

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① 利用される親子の状況に応じた「遊び」を提案する
- ② 転入・外国籍の方に対し、孤立を防ぐために繋がれる機会を提供する
- ③ 子育て支援団体等への「遊び」のコンサルテーションを通して、地域の子育て力の向上に努めるとともに、ファミリーサポート事業の援助者獲得を目指す

(キ) 磐田市地域活動支援センター

- ① 利用者のニーズに合わせた創作活動を提供する
- ② 生産活動にて、自己有用感の向上とともにその人らしい過ごし方の提供を行う
- ③ 自立支援協議会やサロン等の地域の関係団体とのネットワークを強化する

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) 利用者の理解度に応じた訓練を実施し、利用者自身が発災時に行動できるよう安全意識向上とスキル取得を目指す

(イ) 組織的な権利擁護に取り組むとともに、職種別ラダーを活用した専門性向上に努める

(ウ) 利用者が安定してサービス利用できるよう、相談支援との有機的な連携を行う

(エ) 待機期間の過ごし方等、安心してサービス利用に繋がるようフォロー体制を整える

(オ) ケアカルテ・コードモンにて業務効率化を図り、職員の「やってみたい」を実現する

(カ) 職員がボトムアップしやすい環境を整え、「心理的安定」や「満足度」に繋げる

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

(イ) イベントへの参加やホームページを活用し、情報を発信する

(ウ) 地域の方々を招待する行事や園庭開放を通し、気軽に相談できる地域の窓口機能を開設する

(エ) 福祉制度利用が難しい方を対象としたイベントを企画し、一歩踏み出す機会を提供する

(オ) 磐田市社会福祉協議会及び法人連絡会開催のイベント等に参画し、普及啓発を行う

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利 用 者 定 員	30 名	—	—	—	14 名	15 名	6 名
利用者延べ人数	7,658 名	490 名	—	—	3,271 名	4,428 名	954 名
一 日 平 均 利 用 者 数	31.1 名	—	—	—	11.9 名	16.0 名	3.9 名
稼 働 率	103.8%	—	—	—	84.7%	107.0%	65.7%
稼働日数(延べ)	246 日	246 日	—	—	276 日	276 日	242 日
単 価 (一人一日当り)	17,601 円	18,812 円	—	—	12,093 円	8,068 円	8,026 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	134,789 千円	9,218 千円	6,808 千円	13,656 千円	39,555 千円	35,727 千円	7,657 千円
常勤換算職員数	23.8 名	1.9 名	4.0 名		6.1 名	6.8 名	1.0 名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利 用 者 定 員	—	20 名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	—	5231 名	—	—	—	—	—
一 日 平 均 利 用 者 数	—	21.2 名	—	—	—	—	—
稼 働 率	—	105.9%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	—	247 日	—	—	—	—	—
単 価 (一人一日当り)	—	11,636 円	—	—	—	—	—
サ ー ビ ス 活 動 収 益	4,836 千円	60,866 千円	45,876 千円	25,047 千円	27,686 千円	12,551 千円	16,814 千円
常勤換算職員数	0.2 名	9.5 名	10.3 名	6.8 名	4.0 名	2.0 名	2.8 名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

地域のニーズである「最期まで自宅で過ごしたい」を支援するため 2023 年度もケアプランセンターと協働してターミナル利用者を支援した。また浜松市の保育園業務委託など新たな場所への訪問を開始した。2024 年度も地域・利用者のニーズに寄り添った支援を継続していく。

訪問看護ステーション浅田

【事業計画】

1. 南区のニーズに沿ったケアを提供する

(ア) ACP (アドバンス・ケア・プランニング) を意識したケアができるように個々のアセスメント能力を強化していく

(イ) 看護師が自信を持ってリハビリを実施できるように専門職から指導を受ける

(ウ) 困難事例に対応できるよう関係機関と連携していく

2. 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、質の高い看護を提供する

(ア) 共通利利用者の事例検討を行う

① 月 1 回カンファレンスで実施

(イ) サロンの出前講座や防災訓練への参加など地域への取り組みを実施する

(ウ) 防災・防犯対策を行う

① 年 1 回職場内訓練を実施し、共通利用者のトレーニングを実施する

② 利用者への災害対策の見直しを行う

3. 働きやすい職場環境作りを行う

(ア) 採用者マニュアルの評価と見直しを行う

(イ) 訪問スケジュールの調整、リハビリスタッフによる助言から腰痛予防対策を行う

(ウ) フィードバックを積極的に行い、活気のある職場作りを行う

【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
170名	923件	11,010件	医療 11,800円 介護 9,400円	117,288千円	16.4名

聖隷ケアプランセンター浅田

【事業計画】

1. 障がいや病気を持っても安心して最後まで暮らせる地域作りへの参加
2. 訪問看護ステーションとの複合事業所として事業所力をさらに高める
3. 研修会への参加でスキルアップを図る
4. ワークライフバランスの充実、業務の効率化を図る
5. 防災・防犯・感染症・虐待への取り組みをする

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防				
1,585件	492件	17,800 円	4,200 円	20 件	4,400 円	30,785 千円	4.6 名

聖隷こども園わかば

社会状況の動きに関心を持ち多様化する保護者のニーズを捉え、地域に信頼され、選ばれる園となる為に、今まで以上に保育の質の向上に力を入れ自園の強みを分かりやすく発信していく。多様化する保育ニーズに応える為、1号認定の利用定員を6名から15名に変更する。

また、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの生きる力の基礎となる重要な時期であり、その大事な時期に関わることを保育者が考え行動していくことが必要である。保育支援システム（コドモン）を活用することで、職員の働きやすい環境を構築すると共に、保育ドキュメンテーション等を通して職員一人ひとりが保育の面白さを実感し、日々成長するその子どもの姿を保護者に伝えていきたい。

こども園併設の子育て支援ひろばのメリットを活かし、妊婦支援、多世代支援等を継続し、2024年度より新たに発達支援プログラムを実施する。地域の子育て中の親子に寄り添い、個々に必要な支援を提供していく。また、引き続き病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図った取り組みを進めていきたい。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え、判断し、行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 地域の枠にとらわれず、入所希望のニーズを応えることで安定した運営を図る。
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を提供する。
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める。
4. 計画的に施設設備の修繕を行い、安心と安全を保つ。

【事業計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
 - (イ) ピアジェの構成論に基づいた保育実践の学びを深めながら、子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや、面白さが実感できる機会を増やし、保育の質の向上を図る

2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 園内研修を通して、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う
- (イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる
- (ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する
- (エ) PDCA サイクルの体制を整え、保育支援システム（コドモン）での記録や保育ドキュメンテーションの作成等を通して職員一人ひとりが保育の面白さを実感し、保育の充実を図る

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキングなどの体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・クラスだより・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育の内容や、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばを通して、子育てに悩みを抱える家庭を支援し、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する
- (イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3 号）	24 名	30 名	34 名	34 名	34 名	34 名	190 名
利用定員（1 号）	-	-	3 名	4 名	4 名	4 名	15 名
利 用 定 員 合 計	24 名	30 名	37 名	38 名	38 名	38 名	205 名
一日平均入所者数	16.3 名	30.0 名	34.0 名	36.0 名	36.0 名	35.0 名	187.3 名
年間入所延人数	195 名	360 名	408 名	433 名	432 名	420 名	2,248 名
入 所 率	67.7%	100%	91.9%	95.0%	94.7%	92.1%	95.6%
開所日数（延べ）	保育日数 293 日 / 教育週数 44 週						
サービス活動収益	268,957 千円						
常勤換算職員数	45.4 名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

地域子育て支援拠点事業

病児保育事業（病後児型）

聖隷こども園桜ヶ丘

2023 年度「こどもまんなか社会」の実現を掲げてこども家庭庁が発足した。「すべての人がこどもや子育て中の方々を応援する」といった社会全体の意識改革を進めるための取組が主眼である。わが国では、少子高齢化の急速な進展による人口減少や、核家族化や就業形態の変化等により、保育を取り巻く環境も大きく変化している。このような状況においてもこどもの最善の利益を保障し続けるため、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に立ち返りひとり一人の子どもの育ちを丁寧に見守ることで、子どもの育ちに最適な保育内容を実践していく。そして地域や保護者に信頼される園を目指す。

2023 年度は、保育支援システム（コドモン）の導入により園と保護者のスムーズなコミュニケーションツールとなった。特に、保育ドキュメンテーションを通じて子どもの姿が見える化し保護者と共有することができた。引き続き、保育ドキュメンテーションの園内勉強会を実施し、子どもの育ちを可視化し、その子どもの姿を語り合うことで職員の専門性の向上につなげていく。また、職員がやりがいを感じ安心して働ける環境を整える。

【施設理念】

「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」ヨハネによる福音書 15：1-5

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いに大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア) 保育者が施設理念や保育目標を理解し、一人ひとりを大切に教育・保育を実践する

(イ) 全体的な計画、教育課程、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、子ども主体の保育を実践する

(ウ) 統合保育の実践

①障がいのある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、支援目標や課題を共有し、きめ細やかな保育を実践する

②障がいのある園児が同年齢のクラスの子どもたちと交流をする時間を持てるようにする

(エ) 0 歳児クラスにおいてゆるやかな育児担当制保育を継続し、個々の子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち安心して主体的に生活が送れるようにする。1～5 歳児クラスは年齢に応じた必要な環境構成を行いコーナー遊び中心の保育を行う。幼児ク

ラスはこども会議で思いを伝えあい子どもたちが創りだす保育を実践する

- (オ) 個々の発達段階に見合った運動遊びや体操を継続して行い、体幹を鍛え運動の楽しさや意欲を育てる

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 年間研修計画に沿ってキャリアアップ研修や外部研修への参加を支援し、職員の資質向上を図る
- (イ) 保育職ラダーや目標参画を活用し、個々の課題や園の課題を明確にして目標達成に向けてスキルアップを図る
- (ウ) 子どもの主体的な遊びを豊かに展開させるため、職員が保育環境と人的環境等について学び、日課の中に遊びの時間を確保させ、発達段階に見合った玩具の整備を実施する
- (エ) キリスト教保育のテキストや保育の専門誌を活用して、定期的に小人数で保育について語り合う時間を作り、職員間のコミュニケーションを取りながら学びを深める

3. 職員の働きやすい環境づくり・保育支援システム（コドモン）の活用

- (ア) 主幹保育教諭と副主幹保育教諭が中心となり職場の業務改善に向けて取り組む。そして職員が働きやすい職場環境を整え、エンゲージメントを高める組織づくりを実行する
- (イ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し記録業務の削減を図る。また、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 親子ひろばにて、地域の子育て家庭の相談事業や遊びの提供をして安心して子育てができるように支援する
- (イ) 地域の自治会や近隣施設（都田南小学校・都田図書館・浜松学園等）と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する
- (ウ) 施設見学や実習生・中高生のボランティアを積極的に受け入れ、次世代の育成に貢献する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	30名	30名	30名	30名	30名	170名
一日平均入所者数	12名	30名	30名	25名	33名	29名	159名
年間入所延人数	144名	360名	360名	300名	396名	348名	1,908名
入所率	60.0%	100%	100%	83.3%	110.0%	96.6%	91.6%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	215,120千円						
常勤換算職員数	35.3名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型）

親子ひろば

聖隷こども園ひかりの子

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、こども園での保育の在り方を改めて見直す年となった。人と人が繋がりあう中で育つものがあることを確認し、それは子どもの育ちにおいて欠くことのできないものであることを実感した。引き続き、私たちが何を大切にすべきか、利用者のニーズはどこにあるか、職員一人ひとりが専門職としての自覚と誇りをもち、未来を担う子どもたちの「今」を支えることに真摯に向き合いたい。

また、2024年度は「子ども誰でも通園制度」の導入に向けて浜松市でも取り組みを始めていくとされている。その中で、それぞれの職員が国の動向やこの地域で求められていること、期待されていることを正しく理解していかななくてはいけない。そして自園では、どのような取り組みができるのか考えていきたい。

さらに職員一人ひとりの保育の専門職としての自覚と誇りを持った働きができるよう、園内外での研修会や勉強会への参加を促すとともに、職員同士が互いに認め合い、自己発揮できる環境を整える。

【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙 5:8～

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 子どもの姿、心の動きを多角的に捉える視点を学ぶため、経験年数にとらわれない園内勉強会を引き続き実施し、クラス間でお互いの保育を見合う機会を作っていく
 - (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える
 - (ウ) 子どもが自分でやりたいことを見つけ、方法を考えて達成していく「子ども主体の保育」を実現し、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく
 - (エ) 子どもの発達や学び、心持ち、園の教育・保育の意図やねらいを保護者に丁寧に伝えるため、可視化（ドキュメンテーション等）を強化する
 - (オ) 定期的に教育・保育を見直す視点を持つ。自己評価チェックリストを基に子どもの最善の利益を最優先に考えて、職員が互いに質を高め合うことができる職場環境を実現する

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、さらに職員の専門性の向上と業務負担の軽減を目指す

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校への接続をふまえ、与進小学校との交流を深める（町探検での訪問等）
- (イ) 市野与進こども園との連携・交流を深める
- (ウ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の関係機関との情報交換・共有を図る
- (エ) 地域の美化活動・子育て会議等の地域の交流会に参加し、地域の方々との繋がりを強化すると共に、園の教育・保育内容について知ってもらう機会とする

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 事故やヒヤリハットの情報共有方法を見直し、予防とリスク発生時の対応について職員間で徹底する。職員一人ひとりの安全・危機管理に対する意識を高める
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報を共有すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるよう体制の整備、研修の充実を図る
- (ウ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する（親子ひろば・園庭開放）
- (イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する

【数値目標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3号）	27 名	36 名	36 名	40 名	40 名	41 名	220 名
利用定員（1 号）	—	—	3 名	4 名	4 名	4 名	15 名
利 用 定 員 合 計	27 名	36 名	39 名	44 名	44 名	45 名	235 名
一日平均入所者数	17 名	35 名	36 名	41 名	41 名	41 名	211 名
年間入所延人数	204 名	420 名	432 名	492 名	492 名	492 名	2,532 名
入 所 率	62.9%	97.2%	92.3%	93.1%	93.1%	91.1%	89.7%
開所日数（延べ）	293 日（教育週数 44 週）						
サービス活動収益	268,104 千円						
常勤換算職員数	45.8 名						

【提供保育事業】

延長保育事業	障がい児保育事業
一時預かり事業（一般・幼稚園型）	外国人児童保育事業
親子ひろば	類似型学童保育事業

聖隷こども園めぐみ

加速する少子化、子どもの貧困、いじめ、不適切保育、虐待問題など子どもを取り巻く環境への注目がより一層高まる状況を背景に 2023 年 4 月こども家庭庁が創設され、子どもの最善の利益を第一に考え、子どもの権利を保障するため社会全体で支えるという体制が始まり 1 年になる。こども大綱も示され未来を担うこどもたちの健全な育成に向けた支援を、聖隷のこども園として責任感をもって推し進めていく。また地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定に繋げる。特に障害児、医療ケア児等の保育ニーズに応えるためには地域資源の活用と連携が不可欠となる。隣接する聖隷こども発達支援センター和合との連携体制を強化し、子どもに関わる施設として互いの専門性を高めるため職員の学びの場を構築する。

園内では乳幼児期の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育むことに繋がっていることを職員間で意識化し発達に即した教育・保育内容の充実を図る。園内外の研修へ積極的に参加することや、聖隷保育学会での研究発表を通して職員一人ひとりの専門性の向上を目指し「保育の質の向上」につなげる。

また、職員がモチベーションを高く持って、長く働き続けられるように仕事と家庭の両立支援等のサポート体制を整えると共に、保育支援システム（コドモン）を有効活用することで、職員の業務省力、職員個人の保育のスキルアップに繋げたい。

確実に進む少子高齢化、大きく変動する社会情勢、with/after コロナの社会生活、その中でこども園として、引き続き園児の安心安全を確保するとともに、地域社会を支える役割を果たすべく子育て支援、働く保護者をサポートする病後児保育事業、インクルーシブ教育・保育の推進に向けて取り組む。

【施設理念】

キリスト教の精神に基づく「隣人愛」

「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア)「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を基に園として目指す保育観を職員間で共有し、発達の連続性を持った保育を展開していく。実践報告を重ね保育の質の向上に努める

- (イ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、保育ドキュメンテーション等を通して子どもの育ち、保育の可視化を行い、保護者へ発信する
 - (ウ) 自園の課題についての取り組みを聖隷保育学会発表につなげる
 - (エ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。苦手とする項目を意識することで、レベルアップを目指す
2. 聖隷こども発達支援センター和合との連携を図る
- (ア) 職員間の日常的な交流や連携体制作りを構築する
 - (イ) 発達に課題のある子どもや医療ケアの必要な子ども等のニーズに対し、並行通園を含め両施設で支えられるよう職員間の連携を密に行う
 - (ウ) こども園、児童発達支援施設の職員共同で学び合う研修体制を構築し、それぞれの専門性向上を図る
3. 子育て支援と地域における公益的な取り組み
- (ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児に関する情報発信を強化する
 - (イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する
4. 保育支援システム（コドモン）による業務省力・働きやすい職場環境づくり
- (ア) コドモンを有効活用し、業務省力につなげる
 - (イ) 保育浜松エリアの主任・副主任会を継続し、職場内の課題解決に向けて取り組み、現場の声が生かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	14名	35名	36名	40名	38名	35名	198名
年間入所延人数	172名	422名	432名	480名	456名	420名	2,382名
入所率	79.6%	97.6%	100%	95.2%	90.5%	83.3%	91.9%
開所日数（延べ）	保育日数 293日・教育週数 44週						
サービス活動収益	262,782千円						
常勤換算職員数	39.0名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

外国人児童保育事業

親子ひろば

病児保育事業（病後児型）

聖隷浜松病院ひばり保育園

これまで、キリスト教保育を基盤としたピアジェの構成論を取り入れた、子どもの主体的な生活と遊びを支える連続的な保育実践を積み重ねてきた。2024 年も継続して取り組む中で、子どもに限らず、職員一人ひとりの主体性が尊重され、保育実践が言語化、可視化できることを目指す。そしてそれを保護者や地域へ発信することで保育理解と参画につなげていく。

事業所内保育所として、延長保育や土曜、休日保育を行う他、育児休業からの復帰のための乳児の受け入れ、そして学童保育の利用ニーズの増加に伴う対応など、利用者ニーズに応えていく一方で、保育職として保護者支援と子どもの育ちの支援との両方を併せて考えていくことがより一層求められている。職員自身の多面的に子どもを捉える視点を養うと共に、未来を見据えた、児童福祉施設としての役割も見出していきたい。

また、2022 年度に導入した保育支援システム（コドモン）を活用することに留まらず、業務省力、効率化を図ると共に、質の高い保育を実践するため、保育浜松エリア、磐田エリアの各園と連携を図りながら、職員が安心し、やりがいをもって働くことができる環境を整えていく。

【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業計画】

1. 質の高い保育の実践

- (ア) 0、1 歳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制保育を行い、個々の子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活を進められる保育を展開していく。2 歳以上児クラスではコーナー遊び中心の保育、幼児クラスではサークルタイム、子ども会議を実践し、一人ひとりが主体的に遊び、考え、行動していく力を育む保育を継続していく
- (イ) 子どもの興味関心を捉え、全体的な計画をもとに発達の連続性をもった保育を展開していく
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続し、保護者の保育理解や参画へとつなげる
- (エ) 聖隷の他のこども園・保育園と連携を図り、他園への保育見学、聖隷保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生かす

2. 専門性の向上を図る

- (ア) 研修計画に沿ってWEB研修を含めた園外研修への参加を促進し、学びの機会を増やす
- (イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る
- (ウ) 継続的な園内研修を実施し、構成論の保育根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶ中で、これらの保育実践を言語化する力を育む

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 保育浜松エリア共同で保育支援システム（コドモン）の有効的な使用方法を検討し、保育記録業務の省力化を図る
- (イ) 保育浜松エリアの主任・副主任会を実施し、職場の課題改善に取り組む。園全体で、互いの業務の可視化を通して、業務改善と質の高い保育実践を並行して進め、職員一人ひとりの働きがいにもつなげる
- (ウ) 園内で保育士交換を実施し、互いの保育を共有し活発な意見交換ができるような環境を作る。互いの保育を知ることで、クラスを越えた職員間の連携を図る風土を作っていく

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ボランティアや学生の実習の受け入れを実施し、次世代の育成に貢献する。近隣の特別支援学校の職場実習の要望に対しても受け入れを実施する
- 住吉地区の文化展に参加、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につなげる

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30名	30名	30名	30名	30名	30名	180名
利用定員（地域枠）	6名	7名	7名	－	－	－	20名
利用定員合計	36名	37名	37名	30名	30名	30名	200名
一日平均入所者数	18.2名	37.2名	27.2名	24.0名	29.0名	18.0名	153.5名
年間入所延人数	218名	446名	326名	288名	348名	216名	1,842名
入所率	50.6%	100.5%	73.5%	80%	96.7%	60%	76.8%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	258,027千円						
常勤換算職員数	38.0名						

【提供事業】

延長保育事業
乳児保育事業
学童保育事業

聖隷のあ保育園

当園は、市の中心部に位置するため転勤家庭が多く予定外の途中転園する園児が多い。そして近年は育児休業を1年以上取得する家庭も多く、0歳からの園児の入園希望数が少ない状況が続いていた。しかし、この場所での利点や小規模園の強みを活かして要支援児童、特定妊婦の受け入れをした結果、2023年10月以降は定員を上回る入所児童を確保できた。2023年4月より新事業として開始した「余裕活用型一時預かり事業」を有効活用できたことも安定した運営につながった。この事業を始めたことによって、地域子育て家庭への支援を新たに見出すことができた。2024年度も引き続き「余裕活用型一時預かり事業」を活用し地域の子育て支援に貢献していく。法人内の園と情報共有し、安心、安全な保育が提供できるようにしていく。特に連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜保育の共同保育、卒園後の受け入れにおいて連携を図る。さらに、保育の質の向上を目指し、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探りながら、小規模園の利点を活かした保育を提供していく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるよう支援する

【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う
2. 定員19名という少人数の園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え保育を行う
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく

【事業計画】

1. 保育の質の向上を目指し、質の高い保育と保護者支援を行う
 - (ア) キリスト教保育を基盤に小規模園の利点を活かし、子どもの最善の利益を考え、「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践する
 - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深め、職員のスキルアップを目指す
 - (ウ) 養護と教育が一体となった保育を行うために、子どもを観る視点を養い子ども理解に努め一人ひとりの成長発達を援助していく
 - (エ) 少人数の乳児保育園の利点を活かした保育（個々に合わせた丁寧な関り、保護者支援）を意識する
 - (オ) 保育環境と保育内容を子どもの成長発達に併せて、常に見直していく

2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す

- (ア) レイバー表・ホワイトボードを用いて職員の動きを可視化することで、職員がお互いの業務を意識し業務省力につなげる
- (イ) 職員間の報告、連絡、相談を徹底し、コミュニケーションを図ることで働きやすさ、業務省力化を目指す
- (ウ) 職員が働きやすい環境（勤務体制、休憩、仕事量等）を整え、心身の健康維持に努める
- (エ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育等で大規模園での保育を経験し保育士としてどの園でも活躍できることを支援する

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 市との連携の中で地域の子育て家庭の相談に応じながら、要支援児童や特定妊婦を受け入れに努める
- (イ) 「余裕活用型一時預かり事業」を活用し子育て支援に努める
- (ウ) 隔月の老人会（常和会）、近隣学校との交流を通して地域とのつながりを深める
- (エ) 洪水等の防災区域であることを発信し、地域との連携を深め、万一の時に備える

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合計
利用定員（3 号）	6 名	6 名	7 名	19 名
一日平均入所者数	4.8 名	6.3 名	7.2 名	18.4 名
年間入所延人数	58 名	76 名	87 名	221 名
入 所 率	80.5%	105.6%	103.6%	96.8%
開所日数（延べ）	293 日			
サービス活動収益	50,605 千円			
常勤換算職員数	8.8 名			

【提供事業】

延長保育事業

余裕活用型一時預かり事業

こうのとりの保育園

新型コロナウイルス感染症が 5 類となったことで、園生活も以前の形を取り戻してきた。感染防止対策を講じながら工夫を凝らす中で学んだことを活かし、行事等は年齢の発達に合わせ、子どもを中心として少人数で楽しめる内容を心掛けている。

2024 年 4 月「こども基本法」が施行されると共に、「こども家庭庁」が創設され、「こどもまんなか社会」を目指す取り組みが政府全体で強力に推進されている。保育をめぐる政策は、大きな転換期を向かえ、保育所が果たす役割も期待されている。これまで以上に地域の子ども・子育て支援の中核をなす専門職であることを認識し、何ができるかを考えていく。子どもの命を守り、豊かな育ちを支えるために、保育の専門組織として、自らの人間性と専門性の向上に努めていく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』 ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取り組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ①子どもが安心して過ごし、成長できる環境を理解し、子どもに対する尊重や人権擁護の意識を高める
- ②子どもの生活リズムを大切にし、健康で情緒が安定した生活や自己を十分に発揮できる環境を整え、一人ひとりの個性や発達に合わせた関わりをする
- ③常に子どもの視点に立って、自らの保育を振り返り実践を重ね、園内での対話や勉強会、研修等へ積極的に参加し、自己研鑽を行い専門性の向上を目指す
- ④子ども達が必要な経験は理解し、子どもと共に創る保育の連続性を意識し、職員同士が協働し遊びを通した教育保育を図る
- ⑤子どもの多様性に対応するため、保育者の資質・能力向上を図ると共に互いに高めあえる実践の場を提供する

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ①子どもの健全な成長を見守るため、園での様子や育ちを日々のドキュメンテーション、懇談会等を活用して保護者に解りやすく伝え、相互理解を図る

②保護者の保育参加を実施し、園での子どもの様子を直接見る機会を設け、面談を通して育ちを共有する

2. 働きやすい職場環境づくり・業務省力

- (ア) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、記録業務やアンケート集計、職員共有の省力化を図る
- (イ) 保育支援システム（コドモン）の知識を深め、保護者アプリを活用し、円滑なコミュニケーションを行うことで、園への安心感、満足度を向上させる
- (ウ) 業務内容や新人指導の見直しを図り、優先順位や廃棄すべきものを決定する
- (エ) 職員同士の対話を促し、日常的に支え合いながら主体性を発揮できる風土を作る

3. 統合保育の実践

- (ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」は、在園児との交流を図り、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的な保育を実施する
- (イ) 磐田市の巡回相談や訪問言語相談を利用し、並行通園先の児童発達支援事業所等と連携を深めながら、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学び、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 幼児期から小学校へと子どもの発達や学びの連続性を保障するために、「アプローチカリキュラム」を作成・実践し、小学校との円滑な連携・接続を図る
- (イ) 地域住民や小中高校生との世代間交流を推進し、子育て支援活動、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会を創る
- (ウ) 行政や他機関と連携し、支援センター「エンジェル」で子育て家庭の交流の場を設け、子育て家庭の抱える課題を解決する

【数値目標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3号）	20 名	20 名	20 名	20 名	20 名	20 名	120 名
一日平均入所者数	11.6 名	23.8 名	25.0 名	27.0 名	25.0 名	26.0 名	142.8 名
年間入所延人数	140 名	286 名	300 名	324 名	300 名	312 名	1,714 名
入所率	58.0%	119.0%	125.0%	135.0%	125.0%	130.0%	119.0%
開所日数（延べ）	293 日						
サービス活動収益	211,443 千円						
常勤換算職員数	43.1 名						

【提供事業】

延長保育事業	一時預かり事業（一般型）
地域子育て支援拠点事業	学童保育事業
休日保育事業	病児保育事業（病後児型）

聖隷こども園こうのとり東

2023年度は、乳児の入園希望が少なく、少子化の影響を実感した。今後も確実な影響が予測されるため、選ばれる園になるよう地域に開かれた園づくりを行っていく必要がある。また、社会的に子どもを取り巻く環境が見直されている昨今では、「こどもまんなか社会」の実現や子どもの権利保障のため、今まで以上に園の在り方や教育・保育の質向上が求められている。園として“子どもにとって今大切なことは何か”を念頭に置き、子どもにとってはもちろん家族にとって“安心できる場所”と信頼される園づくりを心がけ、入園児数の確保につなげていく。また、職員のモチベーション向上のため、安心して働ける職場環境の構築を目指し、組織強化に取り組む。

放課後児童クラブについては、引き続き利用希望者が多く優先順位を考慮しながら定員を超えての受け入れとなる。落ち着いて生活できる場の保障とともに、児童に必要な社会性経験の保障についても、家庭との共有・連携を図り、心の安定と成長を支援していく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する

- ① “子どもの主体性を考える”を研究テーマとした学びを継続的に行い、子どもの発達を考慮した環境づくりと生活の連続性を意識した日課を再検討する
- ② 乳幼児の主体性を大切にした保育・教育を目指し、子どもの今の姿から興味関心を捉え、定期的に保育日課・内容を確認し、様々な保育体験の提供と子どもの“やってみたい”を引き出す保育スキルの向上を目指す
- ③ 子どもの一人ひとりの尊厳を大切にした日常の保育活動を中心に、行事や異年齢保育の意味や内容について職員間で再確認する

(イ) 保護者支援を実践する

- ④ 日常的な子どもの姿や友達との関わりを、園便りや保育ドキュメンテーションを活用し、可視化して共有する。また、送迎時など直接的に関わる機会も活用し、子どもの成長を保護者と共有する
- ⑤ 懇談会や個人面談、保育参加を計画的に実施し、保護者の悩みを共有し支援しやすい関

係性を構築する。外国籍家庭は、相互理解を深められるよう、より丁寧な支援や意見交換の機会を設ける

2. 統合保育・他機関との連携

- (ア) 保育者自身が統合保育や外国籍園児の背景について学びを深め、子ども同士が共に育ち合う環境づくりや配慮を十分に理解し実践につなげる
- (イ) 虐待や家庭（保護者）支援などの配慮が必要と想定される子どもの問題は、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全と情緒の安定を図る

3. 食育の推進

- (ア) 栄養士、調理師、保育教諭が連携を図り、米・野菜作りやクッキング活動を通して、子どもの食への関心を高める

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者となつがり、世代を超えた交流の機会をもつ
- (イ) 看護師による地域の住民への健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回実施する
- (ウ) 年12回の園庭開放を実施し、「こども園での生活」「遊びの経験」「身体測定」「歯科講習」等を通して地域子育て世帯の育児相談の場を提供する

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

- (ア) 児童が主体的に学習やあそび、生活スケジュールなどを決めて行動することができる声かけを行い、生活環境を整える。また、社会性も意識して助言する

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 児童予定数：通常33名（長期休み：45名）

対象小学校：原則・・・東部小、田原小、福田小 *田原・福田については送迎車利用

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	28名	28名	36名	36名	36名	36名	200名
利用定員（1号）	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	28名	28名	36名	41名	41名	41名	215名
一日平均入所者数	11.5名	27.6名	34.0名	41.0名	38.0名	41.0名	193.1名
年間入所延人数	138名	332名	408名	492名	456名	492名	2,318名
入所率	41.0%	98.5%	94.4%	100.0%	92.6%	100.0%	89.8%
開所日数（延べ）	293日（教育週数44週）						
サービス活動収益	261,343千円						
常勤換算職員数	43.4名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業（一般型） 外国人児童保育事業
病児保育事業（病後児型） 学童保育事業

聖隷こども園こうのとり豊田

2024年度は、地域に根差し開かれた園としての歩みをさらに進める。そのため、情報開示や関連機関との連携を強化する。少子化等の事由により、0歳児の新規獲得が困難な状況が予想される。選ばれる園となるため、園の教育・保育理念、運営方針や事業活動等を具体的且つ積極的に配信し、保護者や地域の方の伝聞の力も活用していく。園児や保護者からの信頼をさらに高めていくため、教育・保育の質の向上を目指し、園内研修等の充実を図る。雇用形態に関わらず誰もが自己研鑽を積む体制を整え、専門職としての知識や能力を高め組織力強化に繋げる。指導計画を基に『子どもの発達』に視点を置きながら保育を省察し、園児一人ひとりに応じた保育環境や保育者の関わりを見出し、子どもの自ら育とうとする力を伸ばし情緒の安定を図っていく。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13：34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、ゆるやかな育児担当制保育を継続する中で、『子どもの発達』を視点に保育を省察し、保育環境や保育者の関わりを考え実践する
- ② 子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切に「こども会議」等の手法も取り入れ、子どもの理解を深める
- ③ 異年齢児交流、地域の高齢者との交流、異文化交流等、様々な人との交わりを通して互いの違いに気づき認め合う心を育む

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 保育支援システム（コドモン）を通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図、子どもの発達について丁寧に伝えることで保護者との共有や相互理解を深める
- ② 保育参加や行事を計画し、子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う個別面談等を行い子どもの育ちを共有する

2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 副主任や専門リーダーの知識や技術を活かし、職員全体で学び合う計画を実践する。外部研修に積極的に参加する（キャリアアップ研修・実技研修・給食研修・衛生管理研修等）

(イ) 雇用形態の違う職員同士の園内研修を計画し実践する。職員同士が教育・保育について定期的に語り合う環境を作り、施設目標に向けて協同性を持って進める

- (ウ) 教育・保育準備や記録業務・環境整備等の振り返りを定期的に行い、業務効率の改善に取り組む。職員一人ひとりが高い視座で周りの状況を見る力を養い、園児の対応や保育準備の手伝い等、互いに支え合う関係性を構築する

3. 統合保育・専門機関との連携

- (ア) 発達の気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)の広報を積極的に行い、利用者の増加に繋げる。子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する
- (イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や環境設定の配慮等を学ぶ
- (ウ) 小学生と園児の交流や小学校とこども園双方の参観会を実施し、情報交換を通して教育の理解を深め、小学校教育との更なる円滑化を図る

4. 地域に根ざした取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。入園を視野に入れている親子へ保育公開日等を設ける
- (イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける
- (ウ) 地域ふれあいクラブとの交流を行う。空き部屋を活用し、園に招いて手作り玩具等の作成や環境整備等を依頼する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭等の専門的育児講座を企画する
(BP プログラム (親子の絆づくりプログラム) 等)
- (イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員 (2・3 号)	18 名	23 名	24 名	25 名	25 名	25 名	140 名
利用定員 (1 号)	-	-	-	5 名	5 名	5 名	15 名
利用定員合計	18 名	23 名	24 名	30 名	30 名	30 名	155 名
一日平均入所者数	11 名	23 名	27 名	33 名	33 名	33 名	160 名
年間入所延人数	137 名	276 名	324 名	396 名	396 名	396 名	1925 名
入所率	63%	100%	113%	110%	110%	110%	103%
開所日数 (延べ)	293 日 (教育週数 43 週)						
サービス活動収益	233,964 千円						
常勤換算職員数	49 (41) 名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業 (一般型・幼稚園型)

親子ひろば

学童保育事業

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

2023 年に「こども家庭庁」が設置され、「こどもまんなか」社会の実現に向けて取り組みが始まった。また、少子化が国の予想を超えるペースで進んでいる中で、「異次元の少子化対策」として、様々な対策・子育て支援が掲げられ、施設として取り組むべき課題も多い。こども園と児童発達支援そして訪問看護ステーションのそれぞれが目標を持ち、専門性を活かしながら連携を図ることで、乳幼児期の教育・保育、療育のみならず、家庭の保健医療等のケアに関わり、相互に補い合って業務に取り組んでいく。

2024 年度は、各事業の相互関係をさらに強化し、利用者や地域のニーズに対してより高い成果を上げる組織へと成長させる。また、利用者のみならず、職員に対する子育て支援を強化し、出産しても安心して働ける環境の構築を目指す。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 職員の意見を反映させる場を設定し、安全・安心な環境を創る
- (イ) 多職種の職員がお互いの専門性を活かし、複数の視点を持ち、利用者支援に活かす
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、専門職としてのスキルアップを推進する
- (エ) 適切な職員配置やコスト管理を徹底し、運営を安定させる

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や見合う保育を実践し、保育の質を高める
- (イ) 保護者向け講演会を企画し、子どもの育ちを職員と共に考え学ぶ機会を提供する
- (ウ) 職員の意見を反映させる場を設け、働きやすい職場、やりがいのある業務を維持する
- (エ) 3 事業の専門性を活かして連携を図ることで、地域福祉の視野を広げる

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 複合施設の特徴を活用し、子どもの状況、発達・生活年齢に沿った体験を提供する
- (イ) 清潔の保持や生活習慣の確立、リラクゼーションを目的とした入浴支援を検討する
- (ウ) 家族やきょうだいを主体とした情報発信、つながる活動の機会を提供する
- (エ) 家庭や地域が抱える困難、解決すべき課題を活動の中で見出し行政等に発信する
- (オ) 職員が相乗的に支援力を向上できるよう、「得意」に特化した勉強会の機会を設ける

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 職員の学ぶ機会を確保し、訪問看護の質を維持し、新規利用者を増やす
- (イ) リハビリ技術の向上、病院との連携を強化し、難病、障害の利用者へのケアの充実
- (ウ) 職員がやりがいを持ち、気持ちよく働き続けることができる職場環境を整える

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 広報誌等で聖隷こうのとり富丘の取り組みを地域に伝えたり、妊産婦向けの講話の機会を作ること、子育て家庭が安心して子育てができるようにする
- (イ) 地域住民や中高生との交流など、多世代・多文化の方が子育てに関わる機会を創る
- (ウ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

■聖隷こども園こうのとり富丘

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員 (2・3 号)	18 名	20 名	20 名	20 名	21 名	21 名	120 名
利用定員 (1 号)	-	-	-	3 名	3 名	3 名	9 名
利 用 定 員 合 計	18 名	20 名	20 名	23 名	24 名	24 名	129 名
一日平均入所者数	15.0 名	21.0 名	24.0 名	26.0 名	25.0 名	25.0 名	135 名
年間入所延人数	180 名	253 名	288 名	312 名	300 名	300 名	1620 名
入 所 率	83.3%	105.4%	120.0%	113.0%	104.1%	104.1%	104.6%
開所日数 (延べ)	293 日 (教育週数 44 週)						
サービス活動収益	213,594 千円						
常勤換算職員数	38.7 名						

【提供事業】延長保育事業 一時預かり事業 (一般型・幼稚園型) 病児保育事業 (病後児型)

【数値指標】

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利 用 者 定 員	10 名
利用者延べ人数	2,822 名
一 日 平 均 利 用 者 数	11.4 名
稼 働 率	114.7%
稼働日数 (延べ)	246 日
単 価 (一人一日当り)	18,227 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	51,946 千円
常勤換算職員数	9.1 名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平 均 利 用 者 数	88.5 名
月 間 訪 問 件 数	435 件
年 訪 問 件 数	5,220 件
単 価	9,800 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	52,091 千円
常勤換算職員数	7.8 名

在宅・福祉関東ブロック

在宅・福祉関東ブロックでは ICT 活用を含む様々な現場改革に取り組んだ。加速する人口減少により働き手が減少し、介護現場に大きな影響が出ている。

職員が安心して利用者支援に向き合うために多様な働き方ができる組織、将来への展望を持ちながら安心して働くことができる組織づくりを目指し、組織改革に取り組んでいく。

【在宅・福祉関東ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2024 年度目標】

1. 職員が考える時間を確保できる職員配置・ICT の活用
 - ・ 業務優先とならない職場環境 「職員が互いに助け合う仕組み」
 - ・ 「安心安全のサービス」 から「期待されるサービス」 へ、現場の職員が主体的に考える
2. 事業継続のための収支バランス
 - ・ サービスの質を担保した上での介護報酬改定への対応
 - ・ 職員数に見合った事業規模(規模縮小も検討)
3. 地域に必要とされる事業の選択
 - ・ 継続すべき事業の優先順位を考える
 - ・ 必要とされる新規事業の検討
4. 地域ごとの課題解決に繋がる関係機関との連携の強化
 - ・ 千葉・神奈川の地域にて法人内の人事交流及び情報共有の強化
 - ・ 各地域にて他事業者との協働による人材確保への取り組み

【浦安市高州高齢者福祉施設及び猫実デイサービスセンター】

1. 個々のニーズに合ったサービス
認知症、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、嚥下 現場職員によるプロジェクト
2. 長期入院にならない取り組み
健康管理の徹底、初期の症状発見、予防的ケアの質向上
3. デイサービス A 型の再開
浦安からの要請により地域包括の跡地利用
4. 猫実デイの夕食提供等を検討
民営化を見据えて ONLY ONE のサービス検討
5. ケアハウス入居者への適切な対応
フレイル・閉じこもり予防、退去（予定）者への適切な情報提供と支援
6. 送迎業務の一体化、効率化

【浦安せいらいの里】

浦安愛光園

1. 医療ニーズの高い利用者へのサービス提供
喀痰吸引等有資格者の育成、地域ニーズへの対応
2. 認知症対応力の向上
チームケア、早期発見・予防、実践事例集
3. 役割に基づいた人員の適正配置と費用対効果の検証
職場長・介護支援専門員業務の明確化
見守りシステムの効果的な活用
4. 排泄プロジェクト
ケアの統一、入院者数の減少、コスト適正化

浦安ベテルホーム

施設内のケアマネジメントサイクルの確立によるケアサービスの質の向上と在宅支援施設としての機能強化

1. 介護職員のアセスメント能力の底上げ
2. 施設ケアマネを中心にした多職種共同のケアサービス管理体制の構築
3. HIMVIT、見守りシステム、インカム等、導入した介護 ICT 機器を活用し、安心安全かつ効果的なケア提供体制にシフト

【松戸愛光園】

1. 介護現場での ICT 技術を活用
入所・ショートステイでの排泄ケアの見える化と個別化
デイサービスでのインカム・送迎システム活用による省力化
2. 事業の垣根を超えた働き方の実施
入所・ショートステイ・デイサービス職員による入浴介助の協働
松戸ニッセイエデンと防災訓練や職員研修を共同実施
3. 新たな介護人材確保のスキーム作り
千葉県留学生受入れプログラムへの参加

【横須賀愛光園】

1. 業務改革の推進と拠点内連携の促進
看多機との連携 各会議体の再編と構造化 送迎配車システムの活用
2. 障がい者日中活動の試行継続と事業推進
デイサービス定員 5 名増加（共生型生活介護）
3. 資質向上と人材の確保
魅力作りと可視化 属人化した業務の整理と役割分担 指導力の強化
登録ヘルパー・看護パートの時給 UP
4. 質の高いサービスの提供と経営の安定化

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2023年度は新型コロナウイルス感染症も落ち着き、少しずつではあるが入居者が小集団でイベントができるようになり、また職員も日々のケアをより深く検討する時間を増やすことができた。2024年度は、今一度入居者・利用者から求められているニーズを探り、必要とされる最高の質のサービスが提供できるよう、コロナ禍で利用者と触れ合う機会が少なかった新入職員も積極的に参画することを意識しながら、職員一人ひとりが働くやりがいを持って利用者のために考え、実践できる年度としたい。

一方、人材の確保については、年々厳しさを増す中で欠員状態のままで職員が業務優先となることが無いよう、採用媒体の見直しや法人・施設の強みのアピール等、ICTの更なる活用は勿論のこと、あらゆる手段を検討、実施する。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 個々の認知症状を分析、その人の人生の歩みを深く理解し、「その人らしく」を支援できるようケアプランを立案・実施・評価を行う
 - ② 施設ケアマネジャー、相談員、看護師が中心となり、「もしもの時の話し合い」を繰り返し行い、入居者・ご家族の望む最期が迎えられるようにする
 - ③ 嚥下プロジェクトを継続、定期的な嚥下評価を実践し、個々に合った食事形態、食事時間、姿勢等の支援を行う

(イ) ケアハウス

- ① 入居者の社会性維持・閉じこもりやフレイル予防のための、地域交流とプログラムを強化する
- ② 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ③ 事故・感染予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する

(ウ) 通所介護

- ① 各地域利用者に対する個々のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供と新たな支援体制の充実を図る
- ② 健康管理の支援が必要な方の体調観察を強化して、初期の症状発見に努め、ご家族、居宅支援事業所、医療機関との連携を密にとり、受診を勧めるなど、長期入院にならないように取り組みを継続する
- ③ ご利用者ご家族へ、利用時の様子を知る機会を作り、職員と意見交換をすることで新たなニーズを把握しより良い対応につなげる
- ④ コロナ禍で利用者が不在であったデイサービス A 型について、浦安市からの要請もあり提供日、提供場所を変更して、フレイル予防を意識した運営を再開する

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー評価、コンピテンシー評価、目標参画を適正に運用し、職員個々のやりたいこと、チャレンジしたいことが発揮できる職場環境をつくる
- (イ) 入居者個々のニーズに合ったケアプランを作成、実践、評価を行うことにより、個別ケアの充実を図り、職員のやりがいに繋げる
- (ウ) 職員個々の不安を取り除く「職員が互いに助け合う仕組み」を継続する
- (エ) 認知症介護基礎研修受講支援・介護支援専門員資格取得支援など、職員のケアの質向上に努める
- (オ) ICT (HIMVIT) を導入することや、ケアサポーターを適正に配置することで、業務整理を進め、入居者・利用者に関わる時間を増やす

3. 経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム

- ① 相談室のマニュアルを作成・実施することで、相談員育成をしていく
- ② 計画的に待機者への声掛けを行い、退居後の空床日数を 7 日以内とする
- ③ 他職種が連携し、日々の健康管理を徹底することで、入院者数の軽減を図るとともに、協力病院・近隣病院との連携強化を継続する

(イ) 短期入所生活介護

- ① 個々のニーズに合ったサービスを提供し、定期利用へ繋げる
- ② 多床室、夫婦部屋の営業、環境整備等を行うことにより、利用者数の増加を図る
- ③ 緊急、措置利用の受け入れの際、迅速な調整、支援を行う

(ウ) ケアハウス

- ① 退去が必要な方への情報提供等適切な対応を強化する
- ② 入居者が安心できる生活継続や建物設備の有効活用に向けた検討をする

(エ) 通所介護

- ① 居宅支援事業所との連携を強化、各地域の特性に合わせた生活支援サービスの提供を図り、安定した稼働を維持する
- ② 朝食、夕食、栄養補助食品の提供を栄養改善支援サービスとして定期的に評価を行い、効果があり改善したことなどは、積極的に地域へ情報発信し利用者確保につなげる

4. 防災体制の確立

- (ア) 新型コロナウイルス感染症予防策の周知徹底を継続する
- (イ) BCP（事業継続計画）、感染マニュアル等の定期的な確認、訓練を実施し、緊急時に速やかに対応できるよう周知徹底を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 各専門職の実習生を積極的に受け入れる
- (イ) ボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流を活性化させる
- (ウ) 関係機関と密に連携を行い、障がい者雇用の法定雇用率を達成・維持する
- (エ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デイ	猫 実 デイ	総合計
利 用 者 定 員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利 用 者 延 数	34,858 名	14,893 名	6,117 名	5,684 名	6,517 名	68,069 名
一日平均利用者数	95.5 名	40.8 名	16.8 名	18.6 名	21.3 名	193.0 名
稼 働 率 （ % ）	95.5%	81.6%	33.5%	74.3%	85%	—
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	306 日	306 日	—
単価（一人一日当り）	—	—	—	—	—	—
サー ビ ス 活 動 収 益	638,464 千円	258,776 千円	106,779 千円	56,166 千円	63,958 千円	1,124,143 千円
常 勤 換 算 職 員 数	80.3 名	33.3 名	10.2 名	10.7 名	13.8 名	148.3 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2024 年度は介護と医療の連携強化、認知症対応、見守りシステムを活用することで入居者の安全性とサービスの質を向上する。2025 年から高齢者人口がピークを迎える 2040 年に向けて認知症高齢者の増加など対応力の向上が必要となり、チームで取り組む認知症ケアに加えて予防、早期対応も行っていく。

人材の確保と育成は、生産性の向上と合わせて更に大きな課題となっている。EPA 介護福祉士候補生の受入れを再開し、介護人材の確保に努めるとともにダイバーシティを推進する。また、職員配置については役割を明確にし、適正配置を検討する。2024 年 3 月に導入した見守りシステムについては先行施設と比較しながら検証し、自施設の最も有効な活用方法を確認する。

2024 年度から義務化される業務継続計画と高齢者虐待防止は定期的な研修と訓練を実施し、マニュアルのブラッシュアップを図っていく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者一人ひとりに安全で質の高いサービスを提供する
 - (ア) 介護と医療の連携強化
 - ① 医療の視点を踏まえたケアマネジメントを実践する
 - ② 医療ニーズが高いご利用者へのサービス提供を検討する
 - ③ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づいた看取り対応を行う
 - ④ 協力医療機関との連携体制の見直しを行う
 - (イ) 認知症対応力の向上
 - ① 実践事例集を活用し、ユニット内でのケアの統一を図る
 - ② 認知症介護実践リーダー研修修了者を中心に、チームで認知症ケアを実践する
 - (ウ) 見守りシステムを活用し、ご利用者の安全性とサービスの質を向上する
 - ① 転倒・転落事故の予防と具体的な再発防止対策の立案
 - ② センサーにより取得した様々なデータから身体状況や活動状況を見守り、必要時に必要なサービスを提供する
2. 多様な人材の確保・育成の継続
 - (ア) EPA 介護福祉士候補生の受入れ

- (イ) ユニットリーダー研修の積極的な受講
- (ウ) ワークライフバランスを意識し、健康経営を実践する
- (エ) 新たな手段として、インカムでの OJT を実施する
- (オ) 高洲地区内のダイバーシティについて継続する

3. 地域共生社会の実現

- (ア) 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行が円滑に行えるよう地域の機関と連携・協働し、複合・複雑化したニーズに対応する地域包括ケアシステムを推進する
- (イ) 医療ニーズのある方が希望する地域で適切な医療が受けられるよう、同法人の聖隷訪問看護ステーション浦安や浦安ベテルホームショートステイ等との連携を強化する
- (ウ) 効果的な相談援助技術を学ぶ為、地域の事例検討会や研修会を通じて学びの場を作り相談支援専門員としてのスキルを向上する

4. 経営の安定と業務改善の継続

- (ア) 役割に基づいた人員の適正配置と費用対効果を検証する
- (イ) 老朽化した機械浴 1 台をシャワー浴槽に入替え、安全性の向上と入浴時間短縮を図る
- (ウ) 排泄プロジェクトでのケアの統一とコスト適正化への取組みを継続する
- (エ) 2024 年介護報酬改定で新設された加算の取得と LIFE 見直しへの対応を行う
- (オ) 生産性の向上と働きやすい職場環境づくりのための委員会を設置し課題解決していく

5. 業務継続に向けた取組みの強化

- (ア) BCP 業務継続計画（感染症・非常災害）を職員に周知し、定期的（年 2 回以上）な研修と訓練を実施する
- (イ) BCP 業務継続計画（感染症・非常災害）の検証と見直しを行い、マニュアルを更新する

6. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 高洲地区の地域貢献プロジェクトを通して、施設外の清掃活動を継続する

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総 計
利 用 者 定 員	74 名	－	－
利 用 者 延 べ 人 数	26,250 名	420 名	－
一 日 平 均 利 用 者 数	72.0 名	－	－
稼 働 率	97.2%	－	－
稼 働 日 数（延 べ）	365 日	243 日	－
単価（一人一日当たり）	16,193 円	14,538 円	－
サ ー ビ ス 活 動 収 益	425,083 千円	6,106 千円	431,189 千円
常 勤 換 算 職 員 数	50.1 名	1.0 名	51.1 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2023 年度は、在宅超強化型の継続算定や通所リハビリテーション拡張による定員増変更、訪問リハビリテーションの拡大等、地域における老人保健施設としての役割・機能強化に向けて、多職種が連携して取り組むことが出来た 1 年であった。

2024 年度は、引き続き安心・安全な利用者本位のケアを提供するために環境づくり、人づくりに注力し再構築する 1 年とする。施設理念である「私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします」を実現するために、職員各々がやりがいを持って専門性を発揮しながら、多様な価値観を認め合いチーム一丸となって 1 つ 1 つ丁寧に取り組んでいく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 安心・安全な利用者本位のケアの追及
 - (ア) 職員のアセスメント能力の向上を図り、利用者ニーズの把握や実現をすることができる
 - (イ) リスク管理能力を高め、事故総数が 2023 年度より 30%減少する
 - (ウ) その人らしさを尊重した看取りケアができるよう ACP の実践を行う
 - (エ) 老人保健施設として求められる医療的ニーズへの対応力を高め実践する
 - (オ) 利用者ニーズに合わせた在宅復帰・在宅支援のために、施設ケアマネジャーを中心とした多職種によるタイムリーな支援の仕組みを作る
 - (カ) 職員ひとりひとりが内省する機会を作り、高齢者虐待防止を推進するための新たな体制を構築する
2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成
 - (ア) ケアの質向上のために立ち上げた各プロジェクトを再編し、専門性の向上のための職員教育を実施する
 - (イ) 認知症の基礎知識を学び、対応力の向上を図る
 - (ウ) 新たな勤務体制を確立し、職員が働きやすい環境を整備する
 - (エ) 業務仕分けを行い、多様な雇用形態を促進する
 - (オ) ICT(HIMVIT、インカム、見守りシステム)を活用し業務改善の取り組みを継続して実践する
 - (カ) 「職員が互いに助け合う仕組み」を活用し、風通しの良い職場作りを目指す

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

- (ア) 年間4名以上の医療型障がい短期入所対象利用者の定期的受け入れを実現する
- (イ) ユニット型居室の在宅超強化型算定継続、従来型居室の在宅超強化型年度内算定を目指す
- (ウ) 浦安地区の連携強化を継続し、効果的なベッドコントロールや在宅事業所・病院への定期的な情報発信等による安定的な利用者獲得を模索する
- (エ) 通所リハビリテーションにおいて入所からの退所ケースやショートステイとの密な連携によって、利用者月平均39名超えを目指す

4. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 地域連携を含んだ研修や訓練等により、浦安地区BCPに沿った防災・防犯・風水害対策を定期的実施する
- (イ) 災害時等の地域連携、協力体制を構築する
- (ウ) 感染対策委員会を主に研修や訓練等により浦安地区BCPに沿った感染対応を実施する

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

- (ア) 地域貢献委員会を軸に、地域が求めるボランティア活動へ参画、また介護予防講座等を実施する
- (イ) 施設内ボランティアを年間4組受け入れる
- (ウ) SNSの積極的活用による施設運営等の情報発信をする

6. 社会福祉施設の役割遂行

- (ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準（10％）を満たした運営を行う

【数値指標】

	ベテルホーム入所	ベテルホーム短期	通所リハビリ	総計
利 用 定 員	100 名		50 名	150 名
利 用 者 延 べ 数	29,433 名	2,176 名	13,186 名	44,795 名
一日平均利用者数	80.7 名	6.0 名	42.7 名	129.4 名
稼 動 率	81.0%		85.5%	—
稼動日数(延べ)	365 日		308 日	—
単価(1人1日当り)	15,766 円	19,860 円	11,638 円	—
サービス活動収益	510,965 千円		153,867 千円	664,832 千円
常勤換算職員数	62.7 名		22.6 名	85.3 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2024 年度に聖隷訪問看護ステーション浦安は、東京海上日動ベターライフサービスと事業所を隣接にて開設してから丸 8 年を迎える。浦安エリアに定着したご利用者数を確保でき、さらに徐々にその数は増えている。東京海上日動ベターライフサービスの居宅・訪問介護事業所との連携も強く、協働して地域住民のその人らしい生活を支援できているため、今後も事業拡大を目指し共に事務所移転予定である。今後も浦安市の高齢化率が上昇していくことを見据えて、収支バランスを取りながら運営と経営を安定させ、これからも地域貢献していきたい。

【施設理念】

ご利用者の一人ひとりの自己決定を大切にし、その人の選ぶ医療と生活を質の高いケアで支援する

【事業・運営計画】

1. 理念に基づき、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護の継続
 - (ア) ご利用者主体の自己決定支援を行い、ACP に沿った訪問看護ケアを充実させる
 - (イ) 1 回/週のカンファレンスを通して実施した訪問看護の評価を繰り返し、ケアの質向上につなげる
 - (ウ) 東京海上日動 BLS と協働で、法人の枠を越えた地域を支援する体制を推進していく
2. 事務所移転後も聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が維持できる
 - (ア) 浦安市の地域ニーズを知り、病院・クリニック・居宅支援事業所との連携を深めていく
 - ① 毎月、各事業所に受け入れ空き情報を送り、顔の見える連携を続ける
 - (イ) 転居に伴う支出増加を見越したご利用者の確保を目指し、選ばれる訪問看護を模索する
 - ① 人員換算訪問件数 72 件以上を維持する
 - ② 機能強化型 2 と看護体制強化加算 I 算定の維持
 - (ウ) 職員一人ひとりに教育プログラムに沿った OJT を行い訪問看護の質を確保する
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) ICT の推進で記録などの省力化を図り、効率の良い業務改善を行うことで、超勤時間を短縮できワークライフバランスにつなげる
 - (イ) 目標参画システム・職種別ラダーを通して、各職員の得意分野の学びを深め、職場の勉強会で共有していく
 - (ウ) 職場環境の改善と有給取得率をあげ、ストレスチェックの「仕事の負担」改善を目指す。
 - ① 有給取得日数を正職員 12 日/年を目指す
 - ② ストレスチェック「仕事に負担」指数を 41.3 から 50 の改善を目指す

4. 地域における公益的取組

- (ア) 次世代を担う看護大学の実習生を受け入れ、地域で働く訪問看護師の役割を伝えていく
- (イ) 地域で取り組むに連携会議や研修会に積極的に参加していき、浦安市の地域医療と包括ケアシステムにつながる貢献ができるように参画していく

【数値指標】

	平均 利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
訪問看護 ST 浦安	93 名	615 件	7,380 件	9,942 円	73,371 千円	9.7 人

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 地域における機能と役割の強化

- (ア) 地域で高齢者を見守る体制作りのため、高齢分野に留まらず教育機関とも連携し、多世代とのかかわりの機会を検討する
- (イ) 地域ニーズに合わせ、介護情報、認知症、ACP に関連する出前講座を行っていく
- (ウ) 2024 年 3 月に地域包括支援センターの事務所が移転となったことを機に改めて老人クラブや民生委員、関係事業所など広くセンターの役割を周知し、来所相談の件数増加を目指す

2. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 相談支援スキルラダーの活用と研修参加により、各職員の能力の向上を目指す
- (イ) 各職種が学んだ知識や技術について伝達研修を実施し、センター全体のスキルアップにつなげる

3. 職員のやりがいと働きやすい職場づくり

- (ア) 困難事例についてはセンター全体で共有、検討し、支援内容に合わせて複数で対応する
- (イ) 業務分掌を明確化し互いにサポートできるような体制をつくり、遅延なく業務遂行を行うとともに超過勤務を削減に取り組む

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	常勤換算職員数
41,150 千円	予防支援 942 件	150 件	4,800円	49,212 千円	6.3名
	マネA 534 件	54 件	4,800円		

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸

2023 年度は新型コロナウイルス感染症も感染法上の分類も 2 類相当から 5 類に変わり、松戸愛光園でも家族面会や利用者の活動について、感染対策に配慮した上でパンデミック前の状態に戻すことができた。

また、職員の働き方については ICT 技術の活用により、業務負担軽減や効率化と利用者の安全・安心を両立させることができている。

2024 年度は、松戸愛光園全体で地域の利用者を支えていけるように部署の垣根を超えた働き方を検討・実施する。また、不足する介護人材確保のために新たな取り組みにもチャレンジし、地域での安定的な事業運営を継続できるようにする。

これからも地域に暮らす高齢者、障がい者に寄り添いながら、地域共生社会実現にむけて取り組んでいく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた個別ケアを充実し、地域で選ばれるサービス提供を行う
 - (ア) ICT 技術を活用することで排泄状況を確認し、個々の利用者に合わせた排泄ケアを実施する
 - (イ) 入所の空床活用を継続し、スムーズな短期入所受け入れを行う
 - (ウ) 口腔ケアの充実を図り、誤嚥性肺炎の予防に努める
 - (エ) 利用者・家族・専門職が一緒に考え協力しながら、ACP による看取りケアを実施する
 - (オ) 通所事業では、機能訓練などの個別ニーズを充実できるメニューを検討し実施する
 - (カ) 居宅介護支援事業は専門職の育成を続け、地域に合わせた事業の継続を検討する
 - (キ) 相談支援事業では、虐待などの地域ニーズに合わせた相談業務を実施する
 - (ク) 松戸ニッセイエデンと共同での防災訓練や感染 BCP に基づく職員の交換研修を実施し松戸地域での事業継続力向上を図る

2. 職員が安心して長く働ける職場づくり

- (ア) 事業の垣根を超えた働き方を模索し、一体感の持てる職場づくりを進める
- (イ) プロジェクト活動などを通して、女性や若手などの次世代リーダー育成に取り組む
- (ウ) ノーリフトケアなど介護職の腰痛予防に取り組み、安心して働ける職場づくりを進める
- (エ) 通所事業では、ICT 技術活用による業務省力化を進める
- (オ) 千葉県留学生受入れプログラムに参加し、不足する介護人材確保の仕組み作りを人事企画部と一緒にを行う
- (カ) 地方からの新卒採用に繋げるための仕組み作りを関東採用センターと一緒に検討する

3. 経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

- (ア) 玄関庇、外壁タイルの補修を計画的に実施する
- (イ) 電話交換機、防災設備の更新を実施する
- (ウ) 古くなった送迎車両を更新し、省エネルギー化を進める

4. 社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園との、福祉学会、チャリティバザー、地域清掃活動と一緒にっていく
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、松戸市と共同で防災訓練を実施する

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用者 延べ数	36,279 名	6,825 名	306 名	36,279 名	6,825 名	306 名
一日平均 利用者数	99.4 名	18.7 名	0.8 名	99.4 名	18.7 名	0.8 名
稼働率	96.5%	93.0%		81.0%		
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日		308 日		
単価 (一人一日当り)	15,285 円	15,248 円	13,238 円	15,285 円	15,248 円	13,238 円
サービス 活動収益	554,510 千円	108,122 千円		78,292 千円		
常勤換算 職員数	73.8 名	14.0 名		13.1 名		

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価 (円)		訪問調査	訪問調査	サービス	常勤換算
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	活動収益	職員数
2,468 件	433 件	15,863 円	4,612 円	40 件	4,400 円	43,321 千円	6.2 人

障がい者（児）相談支援事業

年間サービス 利用数	年間継続サービス 利用数	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
3 件	168 件	3,447 千円	1.0 人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀
聖隷看護小規模多機能横須賀

2023 年度は法人内で初めてとなる看護小規模多機能型居宅介護事業の開始と、大規模改修やシステム導入後のリニューアルした環境下でのサービス提供が開始できた。これらは部署や事業種別にとらわれず、我が事として一丸となった運営ができている拠点だからこそ成し得たことと考える。一方で、質の向上と働き方の変革については、まだその取り組みを開始した段階であり、改修や設備投資の効果を可視化できる段階には至っていない。

2024 年度、横須賀愛光園は、利用者や家族、地域の方々に求められる質の向上に重点を置き、各事業における更なる業務改革、職員教育や指導力の強化に取り組む。そして、その取り組みや効果が、利用される方々と職員にとって魅力として実感できるようすすめていく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた連携と切れ目のないサービスの提供
 - (ア) 各会議体の役割や持ち方について再編し、『利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び負担軽減に資する方策を検討するための委員会』についても構造化して取り組む
 - (イ) 各事業において報酬改定への対応と、LIFE の連携効率化、質の向上も含めた焦点化を行う
 - (ウ) 共生型生活介護を活用し、障がい者日中活動の試行継続と事業推進を行う
 - (エ) 感染予防策の徹底、事業継続計画（BCP）の研修、訓練の実施
 - (オ) 全事業において接遇・応対について取り組みを継続し、気持ちの良い施設作りを行う
2. 職員一人一人の資質向上と人材の確保
 - (ア) 職種別専門研修、リーダーや役職者研修の実施と、マニュアルのシステム化を検討する
 - (イ) 各事業における魅力作り・可視化に取り組み、求人・魅力発信活動の充実を図る
 - (ウ) 役職者や相談系職種の属人化した業務の整理と役割分担に取り組む
 - (エ) 介護補助、運転手等補助系職員の管理と育成を見直し、送迎配車システムを活用した見える化と効率化を図る
 - (オ) 36 協定の遵守、労働災害発生 0 件の達成、有給休暇取得率向上を目指す取り組みの継続

3. 利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム、短期入所

- ① 各種システムの活用促進や業務変革により、余暇活動など入居者の生活の充実を図る
- ② 指導力の向上や各介護技術の見直しを図り、スキル向上と質の高いサービス提供を行う
- ③ 事故予防や事故後の対策、緊急時対応などについて見直し、転倒転落事故の減少に努める

(イ) デイサービスセンター

- ① 新サービスの提供継続、内容・質のブラッシュアップを行い、稼働率の向上を図る
- ② 個別機能訓練等各種加算に係る提供体制の構築と業務分担に取り組む
- ③ 定員を5名増加し、障がい者日中活動サービスの提供を開始する

(ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 地域における意見交換の場、参加しやすいサロン作りの推進と、地域資源情報の整理と案内に取り組む
- ② 介護予防支援に係る業務の標準化と効率化に取り組むとともに、居宅支援事業者への介護予防支援指定の促進に係る取り組みを行う

(エ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① 法人内事業所と共同し、サービス提供責任者の業務整理と効率化に取り組む
- ② 登録ヘルパーの採用求人力向上・質の向上に向け、魅力作りや育成フォローに取り組む

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 看護小規模多機能との連動体制（情報共有、緊急対応）の検証と今後の在り方の検討
- ② ターミナルケアの質の向上と、地域状況にあわせた特定・認定看護師の検討

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 疾患、口腔機能や栄養改善、インフォーマル、他制度など多角的な視点でのアセスメントや計画書作成が実践できるよう取り組みを行う
- ② 介護支援専門員の業務整理と効率化を可視化し、取扱件数増への適応を図る

(キ) 聖隷看護小規模多機能横須賀

- ① フル稼働での運営の確立・実施と提供サービス（日課、看護、対応力）の充実に取り組み、経営の安定を図る
- ② 特養、訪問看護、デイなど拠点内事業との連動協同体制のさらなる模索

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 拠点としての地域貢献活動について見直し、協同化した取り組みの検討、実施

(イ) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利 用 者 定 員	65 名	40 名	15 名	30 名	—
利 用 延 数	23,104 名	14,235 名	4,343 名	7,448 名	—
一日平均利用者数	63.3 名	39.0 名	12.7 名	23.9 名	—
稼 動 率 (%)	97.4%	97.5%	84.6%	79.6%	—
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	365 日	308 日	—
平 均 介 護 度	3.94	3.98	3.0	1.9	—
単価 (1 人 1 日)	12,500 円	15,300 円	12,100 円	10,000 円	—
サービス活動収益	289,036 千円	217,867 千円	55,820 千円	71,350 千円	39,865 千円
職員数(正・エ A)	26.3 人	20.8 人	5.0 人	4.2 人	4.5 人
職員数(パ・ア)	8.9 人	9.2 人	2.0 人	4.5 人	1.3 人

	聖隷ヘルパーステーション横須賀				聖隷訪問看護ステーション横須賀	
	介護給付	総合事業	自立支援	有償等	介護給付	医療給付
月平均利用者数	65 名	13 名	19 名	—	94.8 名	38 名
月平均訪問件数	639 件	62 件	174 件	—	521 件	235 件
利用延時間数	6,456 時間	600 時間	2,400 時間	96 時間	—	—
稼 動 延 日 数	243 日				243 日	
単 価	5,300 円 / 時間	4,300 円 / 時間	4,500 円 / 時間	—	10,800 円/件	11,400 円/件
サービス活動収益	48,072 千円				101,302 千円	
職員数(正・エ A)	4.0 人				8.0 人	
職員数(パ・ア)	0.9 人				4.0 人	

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正職員 エ A	パ・ア
1,728 件	120 件	16,800 円	4,560 円	60 件	4,500 円	29,633 千円	3.0 人	2.0 人

聖隷看護小規模多機能横須賀							
登録定員	平均登録者 数/月	平均通い者 数/日	平均宿泊者 数/日	単価 1 人/月	サービス 活動収益	職員数	
						正職員 エ A	パ・ア
25 名	20.7 名	11.5 名	3.5 名	320,000 円	79,530 千円	10.0 人	2.0 人

在宅・福祉関西ブロック

これまでのエリア制におけるエリア内での完結だけでなく、相互がより連携を行い、事業を進めていく。地域にて必要とされるニーズや事業があり、エリア内には担当する事業が無かった場合でも、ブロック全体でその課題に取り組んでいかなければならない。さらには、同じ地域で事業展開している他事業部施設とも積極的に連携をはかり、現状の体制に固執することなく、新しい取り組みや変化を柔軟に受け入れ、地域に根差した福祉事業を展開できる組織構築を目指していく。

【2024 年度目標】

地域に必要なサービスを捉え、提供体制を整える

【2024 年度重点目標】

1. 業務の ICT 化をさらに進め、サービスの質の向上、職員のモチベーション向上へ繋げる
2. 地域福祉の成長に貢献する
3. エリア間が連携・協力できる、組織・会議体制を構築する
4. 職員がやりがいを持って働きたいと思う職場環境、職場風土を醸成する
5. 地域課題に対し、老築化した建物・設備も踏まえた将来計画を構想する

【宝塚第 1 エリア】

これまで導入してきた ICT 機器は、既に業務に無くてはならないものとなっている。聖隷 DX の推進は、サービスの質向上はもちろん、働き方や働きやすさなど、職員が働きたいと思える職場の環境作りに繋げていく。2024 年度介護報酬改定では地域包括ケアシステムの深化・推進として、地域の実情に応じた柔軟かつ効率的な取り組みが求められており、これまでサービス提供を行っていない地域や事業についても取り組んでいく。

- ① すみれ保育園跡地への障がい者就労支援事業の実施の検討
- ② 宝塚第 6 地区へのサービス検討（通所事業送迎拡大、ケアハウス花屋敷への訪問介護事業）

【宝塚第 2 エリア】

引き続き、高齢者・障害者分野での複合的課題に対して、在宅・施設が連携して関わっていく。導入した ICT 機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、多職種間で連携、情報の共有、支援をさらに強化することで、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる 1 年とする。ケアハウス花屋敷や宝塚第 6 地区西地域へのサービス展開を、宝塚第 1 エリアと協働し進めていく。

- ① ケアハウス花屋敷への聖隷訪問介護サービスの拡充
- ② 北神戸エリア（訪問看護、居宅介護支援）の事業強化

【淡路エリア】

聖隷 DX の継続及び聖隷淡路病院との連携のもと、法改正及び淡路市第9期介護保険計画に適応した事業活動を展開する。施設・在宅サービス事業においては、在宅医療・介護の充実、看取り・口腔ケア・リハビリテーション・認知症・高医療・重度者への対応を強化する。保育事業においては、一般保育の充実と療育への取り組み、子育て支援等に重点を置く。生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善と機器・設備更新を推進し、サービスの質の向上と生産性の向上の両立を図る。

- ① 聖隷淡路病院と連携したサービス提供体制の整備
- ② 淡路市の将来人口を見据えた、事業展開の構想

【保育宝塚エリア】

エリアの聖隷施設と情報共有をしながら、子どもの事業を考えていけるように連携を図っていく。また、職員異動等を通して各園の良いところに目を向け、それを活かせる人材の育成を心がけ、3園が安定した保育を行っていくことを目指す。

職員採用の対応として、早期に就職フェアや学校訪問、若手職員と学生の交流会等を計画し人事部関西採用センターと協力しながら進めていく。

- ① 児童館運営の在り方と障がい者受け入れについて行政との協議
- ② 逆瀬川あゆみ保育園の事業存続、テナント契約の協議

宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園

宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター

聖隷ケアプランセンターすみれ

宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センター

2024 年は 4 月に宝塚すみれ栄光園、10 月には宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター・聖隷ケアプランセンターすみれが 10 周年を迎える。この 10 年多くの方々にご利用、ご協力頂いたことに感謝し、さらなる躍進に向けて成長していく。

2023 年秋より、面会、外出、行事、ボランティアの参加など、様々な制限を解除してきた。入居者と家族が当たり前に会える環境は、入居者にとって生活の場であり、安心して過ごせる施設として、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。地域においても、必要とされるサービス・課題へは、職員自らが出向かなければならない。これら多様なニーズへ対応するためにも人材確保、育成は必須であるが、2022 年度後半に多くの退職者を出し、欠員の補充には時間を要している。宝塚せいのりの里においては、やりがいだけでなく、働きやすさを大切にし、働き続けたいと思える施設作りに取り組んでいく。

この数年取り組んできた ICT 化・介護ロボット機器の導入は、既に業務になくてはならない物として定着している。2024 年度は検討しているインカムの導入に加え、職員自らが介護機器の選定に関り、さらなる機器導入と、それに伴うケアの質向上に努めていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 「安心と穏やかに暮らせる」 質の高いサービスの提供
 - (ア) アセスメント力を高め専門的見地で根拠を持った支援を実践する
 - (イ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (ウ) 歯科医師等と協働し、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化の抑制に努める
 - (エ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントの提供とパブリックスペース等の環境整備

2. 施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供

- (ア) サービスを必要とする地域に対し、宝塚エリアの施設と協同し充実をはかる
- (イ) デイサービスとショートステイが協働し、継続したリハビリやレクリエーションを提供
- (ウ) すみれ保育園跡地での障害者就労事業の実施に向けた計画と準備を行う

3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) リーダや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う
- (イ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を構築する
- (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (エ) インカムや福祉機器の導入と活用を進め、業務の負担軽減や効率化を図る

4. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 職員体制の充実を図ると共に、勤務体制を検討する
- (エ) 給食提供体制の見直しを行い、契約の適正化と提供内容の充実をはかる

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域コミュニティ等に参画し、防災・防犯活動等を継続的に行う
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修等に開放する
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	合計
	ユニット	ユニット	一般	
利 用 者 定 員	100 名	20 名	30 名	
利用者・請求延べ数	35,040 名	7,008 名	6,466 名	
一日平均利用者数	96 名	19 名	21 名	
稼働率	96.0%	96.0%	69.0%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	307 日	
単価（一人一日）	17,053 円	15,873 円	11,849 円	
サービス活動収益	597,533 千円	111,237 千円	76,615 千円	785,385 千円
常勤換算職員数	76.4 名	14.1 名	14.3 名	104.8 名
	居宅介護支援		権利擁護支援センター	
	介護	予防		
年間請求件数	3,165 件	354 件		
平均単価	17,500 円	4,035 円		
サービス活動収益	58,464 千円		23,133 千円	
常勤換算職員数	10.2 名		4.0 名	

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2024年4月1日でケアハウス宝塚は10周年を迎える。特定施設入所者生活介護の介護保険施設として、特養に比べ幅広い介護度の入居者を受け入れることができている。そのため、ケアハウス宝塚では、介護支援だけでなく、自立支援、生活支援が求められる。入居しても好きなことが続けられ、買い物、外出、レクリエーションなどができるように、身心機能の維持、向上をはかり、入居者個々の希望、ニーズを受け止め、その人らしい生活を営むことができる施設作りに取り組んでいる。

入居者が満足するサービスのためにも、職員は法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。職員全員が「利用者のために」という同じ考え、同じ想いで取り組むことが、ケアの質向上、職員の成長そして組織の目標達成につながっていく。職員が成長したいと思わせる組織作り、勤務時間の検討、職員体制の充実に努力していく。

面会、外出など様々な制限は解除され、入居者と家族が会える環境に戻ったものの、待機登録者の増加には至っていない。ケアハウス宝塚紹介冊子の作製から、行事や催し、入居者の暮らしぶり、ICTや介護ロボットの導入状況など、宝塚せいのりの里の魅力発信にも力を入れていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供
 - (ア) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (イ) パブリックスペースの環境整備を行い、楽しく参加できるリハビリの充実を図る
 - (ウ) 入居者の社会参加や季節を感じられるイベントの提供
 - (エ) 入居者の状態とケアの差異による介護事故の防止を図るとともに、体調変化の早期発見と迅速な対応により、状態悪化の防止に努める

2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) リーダーや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う
- (イ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を再構築する
- (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (エ) インカムや福祉機器の導入と活用を進め、業務の負担軽減や効率化を図る

3. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 職員体制の充実を図ると共に、勤務体制を検討する
- (エ) 給食提供体制の見直しを行い、契約の適正化と提供内容の充実をはかる

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域コミュニティなどに参画し、防災・防犯活動などを継続的に行う
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修などに開放する
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利 用 者 定 員	70 名
利 用 者 延 べ 数	24,528 名
一 日 平 均 利 用 者 数	67 名
稼 動 率	96.0%
稼 動 日 数（延 べ）	365 日
単 価（一人一日当り）	14,577 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	357,545 千円
常 勤 換 算 職 員 数	43.1 名

宝塚せいのりの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2023年11月1日で結いホーム宝塚は開設10周年を迎え、記念イベントにて入居者と盛大に祝い、喜びを分かち合うことができた。2024年度も引き続き10周年イヤーとし、家族や地域にも楽しんでもらえるイベントを開催していく。

一方で、2023年度は2022年度後半に続いた介護職員の退職補充に時間を要し、必要な職員体制が整わない1年だった。同じことを繰り返さぬよう、宝塚せいのりの里が働きたいと思える魅力的な施設であり続けられるよう、職員同士の横の繋がりや施設の一体感が感じられる場作り、教える側も教えられる側も共に育つ人材育成システムの構築、加えて、職員採用を意識した自施設の魅力発信などに取り組んでいく。

また、特別養護老人ホームでさえ待機者を確保することが困難になっている状況下で、結いホーム宝塚がコンスタントに申込者を獲得するためには、同価格帯の他施設とは一線を画すサービス提供が必要である。2024年度の介護報酬改定にて特定施設として求められていることを押さえつつ、季節感や時に特別感が感じられる食事の提供、快適かつ安全な入浴環境の整備、自施設の良さを効果的に伝えられる営業力の向上などに取り組み、稼働が安定的に維持できるよう努める。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 入居者・家族にとって心地よい接遇を行う
 - (イ) 食事提供体制を再構築する
 - (ウ) 入浴サービスの快適性と安全性を向上する
 - (エ) 家族・地域にも楽しんでもらえるイベントを開催する
 - (オ) 面会を快適に過ごせる環境を整える
 - (カ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (キ) ICT 機器導入で生んだ時間を可視化し意図的に活用する

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

- (ア) 職員がワークエンゲージメントの向上を実感できる
- (イ) フロアを跨いだ応援・兼務体制をより一層強化する
- (ウ) 生活施設における各職種の在り方を再考し、職種間の連携を構築する
- (エ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を構築する
- (オ) 係長やリーダーを中心としたマネジメント強化を図り、次世代を育成する
- (カ) 眠り SCAN データの分析力を養い、科学的に状態把握・ケアを検討する力を付ける

3. 安定した施設運営

- (ア) 有償利用も視野に入れた新入居調整を行い、予算稼働率を維持する
- (イ) 施設検討者に有益な情報を発信し、申込者を確保する
- (ウ) 入居案内センターが地区内他施設の案内も含めて機能する
- (エ) 職員採用を意識した情報発信や実習生受け入れ等を行う
- (オ) 経年劣化を見越した計画的な修繕を実施する

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) まちづくり協議会活動やサロン活動において協働・側面的支援を行う
- (イ) 介護者や地域のニーズを把握しながら、宝塚せいの里介護技術講座を展開する
- (ウ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会や第4地区地域生活支援会議にて具体的なセーフティネット形成に参画する

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、使用量の前年比減に取り組む
- (イ) 施設周辺の環境活動に地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利 用 者 定 員	100 名
利 用 者 延 べ 人 数	35,040 名
一 日 平 均 利 用 者 数	96.0 名
稼 動 率	96.0%
稼 動 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (1 人 1 日 当 り)	17,320 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	606,880 千円
常 勤 換 算 職 員 数	66.4 名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園 短期入所生活介護

2024 年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設 45 年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい」という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのために存在し、職員は利用者サービスを提供している。2024 年度も利用者の想いに寄り添い、QOL の維持・向上、利用者へのサービスの質を確保していく。そのためにも ICT や介護ロボットを更に活用し、業務の効率化を確実にものとし、多様なニーズへの対応を行える人材育成を行っていく。また、これからも地域で必要とされる福祉施設であると同時に、地域の方々が自立した生活を継続できるよう地域へ赴き、発信、関りをもっていきたい。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく

【事業・運営計画】

1. 利用者のために

- (ア) 導入した ICT 機器の活用及びデータの活用を行い、利用者へ安心・安楽・安全な質の高いケアの提供を行う。また常に新しい ICT 機器等の情報を収集し導入を検討する
- (イ) 新型コロナウイルス感染症対策で希薄になっていた利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOL の向上のためのレクレーションの充実を図る
- (ウ) 利用者の自己決定支援や、心身ともに健康であり続けられるように、職員それぞれの専門性を生かし連携する
- (エ) 医療機関との連携により、体調変化にも安心して過ごせる体制づくりを行う

2. 職員のために

- (ア) 業務改善のために、ICT 機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れることで、職員の心身の負担の軽減を図る
- (イ) アサーションスキルをもって、色々な意見を尊重し、多様性を認め、なおかつ自分の意見をしっかり発信できる職場風土をつくる
- (ウ) 園内にとどまらず他事業所の活動を知り、宝塚地区での宝塚栄光園の存在価値、役割を明確にする。また自身のキャリアプランを描く事ができ、聖隷でいきいきと働き続けることができる

3. 施設を守る

- (ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる
- (イ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修、新しい設備の導入を行う

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるように、地域包括ケアシステムの中での施設の役割を地域の方々に伝える場を地域包括支援センターと協力して設定する
- (イ) 自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ（個室 21 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室）

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利 用 者 定 員	70 人	17 人	87 人
利 用 者 延 べ 人 数	24,637 人	6,022 人	30,660 人
一 日 平 均 利 用 者 数	67.5 人	16.5 人	84 人
稼 働 率	96.4%	97.1%	96.6%
稼 働 日 数 （ 延 べ ）	365 日	365 日	365 日
単 価 （ 一 人 一 日 当 り ）	13,320 円	13,000 円	13,309 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	330,047 千円	78,292 千円	408,339 千円
常 勤 換 算 職 員 数	46.7 人	10.3 人	57.0 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために
 - (ア) 重度利用者、障害がある利用者、喀痰吸引が必要な利用者、看取りケアが必要な利用者など、様々な利用者の想いに寄り添ったケアを実践していく
 - (イ) 活動と参加に目を向け、利用者同士の繋がりを大切にしたプログラムの実践を行っていく
 - (ウ) 宝塚第二地区のデイサービス間での連携を強化し、在宅事業所とも連携を図りながら二地区の利用者を支えていく
 - (エ) ICT の活用を行い、働きやすさ・サービスの質の向上を行う
2. これからも「宝塚地区」でサービス継続可能な体制づくり
 - (ア) 各事業所の職員がやりがいをもってチャレンジできる環境を整える
 - (イ) BCP（事業継続計画）に沿ってケアセンター宝塚の総合力で、どんな災害でも地域を守っていく
 - (ウ) ケアハウス花屋敷のサービスを強化する
3. 多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心できるよう、職員の育成を行う
 - (ア) 各専門職が、他事業所へ根拠やアセスメントをもって情報を発信する
 - (イ) 各職員の目標に沿った人材育成・人事交流を行う
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 2022 年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を、継続しつつ、地区内の拠点において新たに認知症カフェを立ち上げ、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げて、その役割を担っていく
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
37.5 人	1,141 件	13,688 件	48 人	581 人	4,800 円	14,500 円	89,472 千円	15.9 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
28.8 人	742 人	8,905 人	88 人	192 人	10,050 円	35,000 円	96,867 千円	17.8 名

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

- その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域包括ケアシステムの構築
 - 施設を含め、地区内の看護職・医療技術職・介護職・相談職が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を在宅で支援できる体制を強化する。日々進化する在宅医療に対応できる人材の育成を推進する
 - 各職種の強みを生かし、地域包括支援センターを中心に地域住民とのつながりの中で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の啓発を行う
- 職員同士で支え合い成長していける環境、長く働き続けられる職場作りと次世代の管理者候補の育成
 - 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
 - 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う
 - 業務の効率化を図り、超過勤務削減の推進
- 資源の効率的活用と生産性の向上
 - ICT を活用して、サービス提供表実績のやり取りの効率を上げる。また事業所間の記録の電子化を行う
 - ケアプランセンター宝塚において、業務手順・支援経過記録の標準化を行い効率化することで、ニーズの増大に対応できる環境を目指す
- 地域における公益的な取組
 - 2022 年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を継続しつつ、地区内の拠点において新たに認知症カフェを立ち上げ、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げて、その役割を担っていく
 - 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
医療	73 人	658 件	7,900 件	9,900 円	153,112 千円	16.1 名
介護	127 人	632 件	7,583 件	9,500 円		
予防	13 人	26 件	317 件	7,800 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防				
3,842 件	352 件	19,100 円	4,200 円	2,640 件	4,950 円	87,480 千円	23.6 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
2,688 件	2,820 件	4,839 円	619 円	85,208 千円	16.7 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

2024 年度宝塚第二地区在宅複合事業は、地域の利用者層に変化が起きている中、重度の利用者だけではなく、利用者の幅広いニーズに対応出来るよう、サービスの幅を広げ、地域の期待に応えていく。

【経営方針】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、利用者の立場に立ったケアを提供する
2. 多職種と連携を行い、利用者に最適なサービスを提供する
3. 利用者、職員がともに心豊かな生活を実現できる事業所作りに努める
4. 専門性を高める施設内教育・研修会を積極的に実践する
5. 地域に信頼される事業所として、地域貢献活動に積極的に取り組む

【事業・運営計画】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、最高の質のサービスを提供する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
 - ① 中重度・医療依存度の高い利用者であっても受け入れることのできる体制の継続
 - ② 利用者・職員ともにケアに安全性を高める介護機器を検討し、導入する
 - ③ 職員への介護技術の OJT・OFF-JT 機会を創出し、人材育成に努める
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
 - ① ICT の活用を深め、在宅医師を含む関係機関とのタイムリーな連携を行う
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ① 利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める
 - ② 作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ① 介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する
 - ② 事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」「家族懇談会」を定期的に設ける
3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する(助け愛デリ、ナイトサロン)
 - (イ) 施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る(クラブ活動、いき 100 体操等)

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
24.1人	620人	7,439人	21.8人	262人	14,700円	39,500円	118,426千円	22.8名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
6.5人	167人	2,003人	0人	0人	17,300円	0円	37,232千円	7.2名

聖隷デイサービスセンター結い

新型コロナウイルスの5類へ移行後、シールドの撤廃や制限解除を行ってきた。利用者が感染症を気にすることなくデイサービスを利用できる事が利用増加にも繋がっているため、地域のニーズに応えるためにも、存在意義を明確にし、サービスを提供していく。

健康維持への思い、最後まで自宅で暮らしたいという思いに、デイサービスとしてリハビリテーションを主軸にサービス提供できるよう、ケアの質向上を図りながら地域に根付くための活動を実践していかなければならない。

多様なニーズと宝塚第2地区の利用者を受け入れしていくための人材確保と、2025年以降を見据えた職員の育成と雇用に力を入れる。

働きやすい職場として、次年度はICTを積極的に導入し、職員の働きやすさに繋げるほか、業務の効率化により「より丁寧に利用者へ寄り添うケア」の時間を増やす。

【施設理念】

愛をもって人と地域に寄り添う

【経営方針】

1. 利用者が住み慣れた町、自宅で生活を続けられる「自分でやりたい!」を支援する
2. 地域貢献を積極的に行い繋がり「絆」を大切にする

【事業・運営計画】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供
 - (ア)「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練の提供
 - (イ)他機関と連携・協同し、医療から継続性のある機能訓練の提供
 - (ウ)モニタリングのフィードバックや運動メニューの可視化による理解の向上
 - (エ)ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の共有を行い気付きの場の提供
 - (オ)介護予防として嚥下の運動と口腔機能訓練加算取得
2. 専門職の質の向上
 - (ア)体感をテーマに介護のケアに繋がる気付きの場を作る(交換研修)
 - (イ)相談員の専門性を高める研修会を実施する
 - (ウ)法人外の職員と意見交換ができる場をつくる(所長・相談員)
 - (エ)インカムの効果検証に加え、専門職と連携して個別機能訓練の質の向上を目的として、利用者、家族に可視化した実施メニューを考案・提供できるシステムの導入を目指す

3. 地域における公益的取り組み

(ア) 施設設備を開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場をつくる

(イ) 地域活動に参加し場所・人員の提供等に協力する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
平均利 用者数	月間利 用件数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)		
16.0 人	413 件	4,956 件	75.0 人	4,299 人	6,700 円	32,000 円	62.996 千円	11.0 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

福祉用具貸与単価上限見直しが 3 年ごとに行われ、貸与単価引き下げによる収益減や、介護保険の自己負担割合が 2 割、3 割となる利用者があり「自費レンタル」が定着しつつある状況下で、更に 2024 年度は「福祉用具貸与、販売選択制」が導入される事となった。介護保険による福祉用具貸与が減る事で、居宅支援事業所からの自費レンタルの依頼に対して、どれ位融通が利くかがポイントとなっている。確実に福祉用具貸与の実績を積み上げられるよう自費レンタルを充実させる事が必須となっている。宝塚地区の障がい者事業の取り組みと共に、自費レンタルの対応範囲を広げられるようにする。

【施設理念】

地域の方のいのちと尊厳を守る為、福祉用具の専門性をもってサポートを行う

【経営方針】

1. 地域の方々を聖隷の在宅サービスの連携によって支える
2. 様々な要望に応えられるよう、知識・技術の向上に努める
3. 介護保険サービスに囚われず、必要なサービスに取り組む

【事業・運営計画】

1. 福祉用具貸与を柱とした経営の安定強化を図る

- (ア) 福祉用具貸与を事業の軸に置き、付帯して住環境を整えるよう住宅改修工事や福祉用具販売を行う。「利用者の生活環境を整える」ことにシンプルに働けるよう業務の簡素化を行い、施設販売、配達、事務処理など分業できるようにする
- (イ) 担当エリアに囚われず全員で依頼に対応することで日程調整の幅を広げ機会損失を減らす。そのための業務の標準化、対応に差が出ないよう職員間での連携を深める
- (ウ) 聖隷共通の福祉システムにより聖隷の在宅サービスと連携できるように導入を検討する

2. 貸与サービスの拡充

- (ア) 福祉用具貸与卸取引先と協力し現状で行える「自費レンタル」でのサービス内容を広げる。特に軽度者の 4 点杖や歩行器等、貸与か販売かを選択する場合の選択肢を増やす取り組みをする
- (イ) 介護認定が出る前の暫定中や区分変更中など、不安要素がある場合に安心して利用できるように、利用者負担を抑えられるプランを福祉用具貸与卸取引先の協力を得て作る

3. 障がい者事業開設に向けた取り組み

- (ア) 障がい者事業の開設により貸与商品の自社保有が可能にする。自費レンタルへの対応範囲を広くすることで利便性を高める。宝塚地区での障がい者支援事業の開設に向けた取り組みを、はぐくみ花屋敷等関係事業所と一緒に取り組む

4. 地域における公益的取り組み

- (ア) 聖隷の宝塚地区の地域包括支援センター、デイサービスセンターと協力し利用者や地域へ向けた福祉用具の相談、PRを行う。施設の行事への参加による福祉用具のPRを行う

【数値指標】

年 間 貸与件数	年 間 貸与収益	年 間 販売収益	年 間 住宅改修収益	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
9,080 件	99,517 千円	64,500 千円	13,000 千円	177,017 千円	10.7 人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類感染症としての位置づけに変更となった影響もあり、ご家族の段階的な面会制限解除をはじめ、花屋敷せいのりの里の行事の大部分を新型コロナウイルス感染症流行以前と同様の規模で開催することができた。

2024年度は、引き続き高齢・障害分野での複合的問題に対して在宅・施設が連携して関わっていく。またICT機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる1年とする。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を生かした繋がりある支援と定着
 - (ア) 地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造する
 - (イ) 通所介護は、ICT機器を活用し、多種多様な利用者の積極的な受入を継続する
 - (ウ) 短期入所生活介護は緊急や医療ニーズの高い利用者の積極的な受入を継続する
 - (エ) 高齢化率の高い中山地区に対し、必要なニーズを汲み取り聖隷の総合力で対応する
2. 利用者満足度の高いサービスの提供
 - (ア) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ショートステイでの看取り対応を実践する
 - (イ) 多職種連携により、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化を抑制する
 - (ウ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントを実施し、利用者満足度の向上を図る
 - (エ) 見守りシステムやインカムを活用し、安心・安全の定着を図る
3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり
 - (ア) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
 - (イ) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上を図る

(ウ) 他法人と意見交換会等の場を開催し、役職者の知見を広げる

4. 運営安定化の推進

(ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する

(イ) 4S 活動の推進と BCP(事業継続計画)を見直し、職員間で共通理解を深める

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護					
					通常	予防				
利 用 者 定 員	108 名		12 名		35 名					
利 用 延 数	38,405 名		4,238 名		7,116 名	38,405 名				
一日平均利用者数	105.2 名		11.6 名		23 名	105.2 名				
稼 動 率 (%)	97.4%		96.8%		79.8%					
稼 動 延 日 数	365 日		365 日		310 日					
平 均 介 護 度	4.0		2.9		2.1					
単価 (一人一日)	15,655 円		15,829 円		10,800 円					
サービス活動収益	601,252 千円		67,086 千円		90,880 千円					
職員数(常勤換算)	78.4 名		8.2 名		16.7 名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)					
宝塚市受託収入	37,786 千円		—	—	13,559 千円					
年間請求件数	予防プラン 請求件数	2,100 件	743 件	210 件	—					
	予防プラン 委託件数	360 件								
平均単価	予防プラン 単価	4,840 円	18,230 円	18,540 円	—					
サービス活動収益	61,606 千円		13,539 千円	3,895 千円	13,559 千円					
常勤換算職員数	12.4 名		5.3 名							
	聖隷訪問看護ステーション						聖隷ケアプランセンター			
	平均 利用者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数	年訪問 件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
医療	52 人	329 件	3,951 件	11,275 円	119,802 千円	18.1 名	—	—	—	—
介護	111 人	562 件	6,745 件	9,151 円			3,546 件	19,000 円	69,434 千円	11.0 名
予防	29 人	一件	1048 件	9,000 円			300 件	4,100 円		

ケアハウス花屋敷

2023年度はコロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、日常生活を元の状況に戻すこと、特に影響が大きく制限があった「楽しみ」や「娯楽」を大切に考え、レクリエーションを充実させることにチャレンジした1年であった。種類豊富な食事の提供にも力を入れたことで、入居者の楽しみにも繋がった。

また、空床が続いていた二人部屋も個室に改修することで、入居率は98%まで上昇した。2024年度は入居率100%の安定した事業運営を目指す。そのためにも、入居者が望まれる生活、身体機能の低下等が発生した場合に望まれることなど、入居者の想いを受け止め、最良の選択ができるように多職種間で連携、支援する形を作り、花屋敷せいの里全体で支えていく。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります
2. よりよいサービスを提供します
3. 地域社会と共に歩みます

【事業・運営計画】

1. 自立した生活が困難となった時、最期まで花屋敷せいの里で過ごせるように、ケアハウス花屋敷での対応を強化、並びに花屋敷栄光園、在宅事業との連携強化を図る
 - (ア) 状態が変わる入居者への対応力の強化を図る
 - ① 聖隷ヘルパーステーション宝塚と連携し、既存のケアシステムの見直しを行う
 - ② 必要とされるニーズを探り、新たなサービス提供につなげる
 - (イ) 認知症、アドバンス・ケア・プランニング、一次救命処置の研修に職員が参加し、職員全員で共有する
 - ① 人形を使っての心肺蘇生、殴打法など、急変時の対応について年1回研修を実施する
 - ② 認知症、アドバンス・ケア・プランニングの伝達講習を職員が実施できる
 - (ウ) 入居者の状態が変化した場合の継続支援会議を定着させ、ケアハウス花屋敷で生活できる支援の幅を広げる
 - ① ケアハウス花屋敷から在宅サービス事業所へ情報発信する仕組みを作る
 - (エ) アドバンス・ケア・プランニングについての必要性を理解し、入居者に関わる
 - ① 入居者自身の考えや思いを定期的に確認するとともに、日常の様子や言動から入居者個々の考え方・希望を把握し、記録する。担当者会議などで家族も含めてご本人の思いを共有できる場を持つなど、具体的に活動する

2. 生活の中での楽しみや心地よく過ごせる環境を、入居者のアイデアや入居者との協働により創っていく

(ア) 施設内の設えに心配りをする

①館内の整理整頓を行い、季節ごとの風物詩を感じられる環境、日々くつろげる場所となるよう配慮する

②入居者の作品展示を含め、ロビーなどを楽しめる空間にする

(イ) レクリエーションの充実をはかり、楽しみの提供とともに入居者間のコミュニケーションを促進する

①演奏会、落語会、講演会等の企画の継続

②敬老会、クリスマス会、新年祝賀会に新たな取り組みを行う

③外出等も含め、新しい発想で行事を企画する

(ウ) 入居者がボランティア活動に参加できる仕組みを作る

①花屋敷栄光園へのボランティア（洗濯たたみやおしゃべりボランティアなど）

②ケアハウス花屋敷の入居者へのボランティア（受診介助やお買い物代行など）

3. 人材確保と定着を図るために職場環境改善をはかる

(ア) 浴室清掃を業者へ委託し、職員の身体的負担を減らし、空いた時間を活用して新たなサービス提供に繋げる

(イ) 顔認証システムの導入による喫食チェックを取り入れる

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】

利用者定員	100 人
利用者延べ数	35,770 人
稼働率	98%
単価（一人一日）	4,574 円
サービス活動収益	159,348 千円
職員数(介護:常勤換算)	6.7 人
(相談員:常勤換算)	1.0 人
(管理栄養士:常勤換算)	1.0 人
(宿直員:人数)	4.0 人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性を強化し利用者のニーズに応じた質の高いサービスを提供する

(ア) 対応できる人材を育成し利用者が望む在宅生活を支援する

- ① 小児病棟、小児訪問看護研修に参加し、医療依存度の高い小児看護の対応力向上を図る
- ② 心不全療養者の再発重症化予防、精神訪問看護、血液悪性疾患の病態看護理解を深める研修に参加し、適切な全身管理、精神的支援の知識を深めケアの質向上を目指す

(イ) 生活の質向上の視点を重視して多職種と連携、情報共有していく

- ① アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に取り組み、意思決定を支援し暮らしたい場所で生き抜くことを支援する
- ② 退院時や発症直後の早期介入など、多職種連携を密に行い、要介護状態の改善や悪化予防に取り組む
- ③ 聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸の合同研修、合同カンファレンスを実施し、連携支援体制の強化を図る

2. 資源の効率的活用と生産性を向上する

(ア) ICTを活用し、在宅医師を含む関係機関と連携し、タイムリーな情報共有を図り適切な対応を行う

(イ) やりがいや充実感を感じながら長く働き続けられるように業務改善、スケジュール作成ソフトを活用した効率化を図り、超過勤務を削減し有給消化率を上げる

3. 地域における公益的な取組

(ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として初期対応に取り組む

(イ) 神戸市委託事業介護予防講座の講師として地域住民の運動、社会参加に寄与する

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
5,954 件	5,063 件	10,169 円	9,000 円	105,612 千円	15.3 人

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防		
1,728 件	526 件	16,728 円	3,574 円	30,644 千円	6.6 人

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうつつこ

聖隷在宅介護支援センター淡路

2024年度の聖隷カーネーションホームは、近年の重要課題であるICT技術を活用した福祉現場改革を継続し、付加価値の高いサービスを提供できる体制づくりに注力する。医療・介護・障害報酬同時改定に対応し、利用者と職員にとって安全で快適な環境づくりに取り組み、利用者満足・職員満足・経営満足を高めていく。仕事の自動化や見守りシステムなどテクノロジーを効果的に活用していく一方で、理念に基づくケアの提供が実践できる組織作り・人材育成を継続して利用者と職員も「ここに来てよかった」と感じられる施設風土を育んでいきたい。こうした取り組みを通じ、淡路北部における総合福祉拠点としての役割を利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある福祉施設を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 利用者や家族の意向を踏まえ、安心して楽しみのあるサービスを提供するとともに、障害・高医療・重度認知症など困難ケースの受け入れにも積極的に取り組む。
 - (イ) 利用者の重度化・寝たきり化の防止・QOL向上のため、ICT機器の活用促進を含む介護職・看護師・セラピスト・栄養士の職種間連携を強化する。
 - (ウ) 安全・安心・安楽な生活環境を構築するために、見守りシステムを効果的に活用すると

ともに、ミスト浴やリフト等の機器導入を計画的に進めていく。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 理念や事業計画と連動した目標管理に取り組み、各職場や職員一人一人の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を行う。
- (イ) 職員の安全確保及び身体的負荷軽減のために、ノーリフトケアの推進と機器更新に向けた検討と継続し、より働きやすい介護環境を整備する。
- (ウ) EPA 介護福祉士候補生や無資格者への資格取得支援や、階層別研修に紐づく OJT 機会を通して、専門性の高い人材の育成と確保を実施する。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) 聖隷 DX 及び介護現場の改革を継続するとともに、生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善と機器・設備更新を実行し、サービスの質の向上と生産性の向上の両立を図る。
- (イ) 報酬改定に応じた適切な加算管理・稼働率管理と合理的な人員配置を随時行い、より多くの利用者に対して付加価値の高いサービスを提供し、経営の安定化を図る。
- (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、BCP（事業継続計画）に基づく訓練を計画的に実施し、リスク管理体制の強化を継続する。

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、地域における潜在的な福祉ニーズを発掘する。
- (イ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災・防犯を含む地域活動・交流を計画的に実施し、近隣地域との繋がりを深めていく。
- (ウ) 淡路地域全体の福祉の向上のため、施設間での相互支援、聖隷淡路病院との医療・福祉間連携、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利 用 者 定 員	54 名	18 名	25 名		12 名
利 用 者 延 べ 人 数	19,178 名	6423 名	6,314 名	2,827 名	19,178 名
一 日 平 均 利 用 者 数	52.5 名	17.5 名	20.5 名	9.1 名	52.5 名
稼 働 率	97.3%	97.3%	88.2%		76%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	308 日		310 日
平 均 介 護 度	3.8	3.2	2.2		3.8
単価（1 人 1 日 当 り）	12,413 円	12,292 円	10,325 円	5,657 円	12,413 円
サービ ス 活 動 収 益	238,061 千円	78,585 千円	67,945 千円		35,455 千円
常 勤 換 算 職 員 数	31.9 名	8.9 名	12.0 名		5.7 名
	聖隷在宅介護支援センター淡路				
サービ ス 活 動 収 益	5,005 千円				
常 勤 換 算 職 員 数	0.8 名				

淡路栄光園

淡路栄光園特別養護老人ホーム デイサービスセンター淡路

2024年度の淡路栄光園は「利用者ケアの質向上」に重点をおき、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援ができる体制づくりに注力したい。これまでの重要課題であった見守り介護ロボットの設置が2023年度に完了し、介護ロボットの見守り機能を活用した「新しい介護」を実践できるよう現場改革を継続していきたい。利用者、家族の意向を踏まえ、近年ニーズが高まっている看取り・高医療・重度認知症などの利用者受け入れにも積極的に取り組み、地域に必要とされるサービスを提供したい。その為にも、専門職としてのスキルアップ、地域とのつながりの再生、介護と医療の積極連携ができる「人づくり」を推進し、ひとりひとりの職員が新しい発想や行動を積極的に発揮できるような職場風土を育んでいきたい。利用者の生活に楽しみと彩りが生まれ、職員はやりがいのある仕事ができる福祉施設を目指し、淡路地域全体の未来に向けた成長や創造につなげられるよう本計画の達成に向け邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 愛情と思いやりのあるサービスの実践
2. 地域の方々に信頼され、喜ばれ、選ばれるサービスの実践
3. 利用者の尊厳を守り、その人らしく安心して生活できるサービスの実践

【事業・運営計画】

1. 介護ロボットを活用した、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援の実践
 - (ア) 睡眠状況、呼吸状態を感知できる介護ロボットを活用し、専門職の目視と介護ロボットによる新たな見守り体制を構築する
 - (イ) インカムを活用し常に職員同士が繋がることで、介護職・看護師・相談員の職種間連携を強化する
 - (ウ) 看取り期利用者の心拍、呼吸、体動を介護ロボットで感知し、変化を家族にタイムリーに報告することで最後の時間まで安心して過ごせるよう支援する
 - (エ) 介護ロボット委員会を設置し、「厚生労働省生産性向上ガイドライン」に基づいた業務改善を継続的に行う
2. 利用者、家族の期待に応えられるサービスの提供
 - (ア) 利用者個々の状態に応じた食事・口腔ケアを実践し、誤嚥性肺炎による入院を抑制する
 - (イ) 医療機関と連携し、医療的ケアを必要とされている利用者の受け入れを拡大する
 - (ウ) 加算計画書の送付方法を電子送付及び電子同意へ変更し、利用者家族の利便性を高める
 - (エ) 食事の楽しみを感じられるレクリエーション企画を定期的の実施する

3. 職員が働きやすく、生き生きと仕事ができる職員体制の構築

- (ア) 職員研修を計画的に実施し、OJT や OFF-JT、視察研修で効果的な人材育成を図る
- (イ) 認知症介護に関する専門研修を修了した職員を増員し、認知症ケアの質向上を図る
- (ウ) 介護負担の軽減につながる「入浴機器」「移動式リフト」の導入案を策定する
- (エ) 老朽化した設備の交換、生活環境の快適性を高められる清掃と修繕を計画、実行する

4. 住み慣れた地域での暮らしを支えられる在宅サービスの提供

- (ア) 通所介護と短期入所の連携を強化し、在宅サービスの窓口をワンストップ化させる
- (イ) 「サービス利用していても地域に回帰できる」利用者の地域活動への参画を計画、実行する
- (ウ) 地域行事、サロン等の活動参加を通じ、地域の方々と顔の見える関係性を構築する
- (エ) 「施設入所申込み手続きがインターネットで簡単にできる」HitomeQ コネクトシステムの利便性を広報活動し、インターネットでの入所申込み件数を増やす

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 兵庫県認定地域サポート型施設として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施する
- (イ) 地域ケア会議、民生委員協議会の参加を通じ、地域課題解決に向け関係機関と協働する
- (ウ) デイサービス営業時間内に移動販売を誘致し、買い物困難者の在宅生活を支援する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利 用 者 定 員	60 名	19 名	18 名	
利 用 者 延 べ 数	21,352 人	6,796 人	4,030 人	21,352 人
一日平均利用者数	58.5 人	18.6 人	13.0 人	58.5 人
稼 働 率	97.5%	98.0%	75.0%	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	12,024 円	11,865 円	9,952 円	12,024 円
サービス活動収益	256,756 千円	80,635 千円	40,801 千円	
常 勤 換 算 職 員 数	44.0 人	5.0 人	7.8 人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

高齢化率が 39.1%である当該地域は健康不安を持つ独居世帯や高齢世帯が多く、サービスに繋がった時点で心身機能の低下や重度化が顕著となっているケースが多い。その為、早期に介入し適切なサービス提供を行うことのできる職員と支援チームの育成が最重要課題となっている。2024 年度は職場内外教育の更なる充実と共に、働きやすい職場環境の推進を図る事で人材の確保と育成を実現する。又、地域の拠点病院である聖隷淡路病院や関連施設との協働体制を充実させ「安心の聖隷サービス」を拡大させていく。

【事業・運営計画】

1. サービスの質が担保できる人材育成
 - (ア) 事業所の理念や経営方針を正しく共有し、組織としての一体感を熟成する
 - (イ) 全てのスタッフが同等のケアが提供できるよう、同行訪問や業務フローの確認を行う
 - (ウ) 利用者や家族の立場に立った丁寧な対応で、トラブルやクレームを防ぐ
 - (エ) 他事業所間での事例検討会やカンファレンス等により、サービスの質を評価する
2. 充実した職場環境
 - (ア) 皆が協力し助け合える職場風土でやりがいのある業務を推進する
 - (イ) 時間外勤務の削減、宅直勤務の負担軽減、有休や長期休暇取得を実現する
 - (ウ) ICT の更なる活用と業務の効率化により、情報共有の推進と業務負担軽減を図る
 - (エ) 職員が定期的な交流できる機会や場づくりを推進する
3. 経営の安定化
 - (ア) 聖隷淡路病院との丁寧な入退院支援の実現やレスパイト入院の充実を図る
 - (イ) 通所介護はリハビリテーションニーズに対応する為、早期に土曜営業を開始する
 - (ウ) 広域での効率的な活動推進を図る為、サテライトを活かした業務分担を推進する
 - (エ) 基本的には「断らない」をモットーに、効果が見えるサービスを実践する
 - (オ) 訪問単価や加算取得等を意識した経営を行う
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域のボランティア活動等へ積極的に参加する
 - (イ) 地域住民を対象にした「健康相談」等地域交流の場となる活動を行う

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
299 件	11,250 円	804 件	9,100 円	60 件	8,500 円
サービス活動収益		135,307 千円	常勤換算職員数		22.7 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防			
268 件	45 件	17,393 円	4,700 円	5 件	58,515 千円	9.5 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
899 件	4,990 円	91 件	2,928 円	237 件	4,267 円	9 件	4,080 円
サービス活動収益		61,467 千円		常勤換算職員数		7.6 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

	介護給付		予防給付	
利用定員	延べ利用者数	5,901 名	延べ利用者数	2,263 名
25 名	1 日平均数	20.9 名	1 日平均数	8.1 名
営業日数	単価（1 人 1 日）	6,983 円	単価（1 人 1 日）	5,300 円
282 日	サービス活動収益	53,208 千円	常勤換算職員数	9.8 名

聖隷こども園夢舞台

2023 年度、子ども真ん中社会を実現するために子ども家庭庁が発足し、①ライフステージごとに希望が持てる社会を目指す②すべての子どもに安全・安心な環境を提供する③すべてのこどもの健やかな成長を保障するという取り組みを三つの柱としている。これらのことを理解し質の高い保育に取り組むことを目指す。

岩屋地区の出生児の減少に歯止めが利かない今、東浦地域からも選ばれる園であることが必須となる。地域性や園の強みを職員が理解した上で 2024 年度は、子どもの姿や園の様子を今まで以上に保護者や地域の方に発信していく。また、教育機関と連携をとりながら「小学生になるまでに育ってほしい 10 の姿」を意識しながらも、夢舞台らしい保育の展開と充実を図る。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22:39)

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画を立案し、実行する
また、個々の子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して主体性をひきだし、そこから行事へと繋げていけるように、計画性のある見通しを持った保育実践を行う
 - (イ) 園児の成長発達にあった玩具や環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める
 - (ウ) 近年子どもの発達過程において課題となる子どものボディイメージが育つ活動を意識的に取り入れていく
2. 信頼され、選ばれ続ける園となるため、保護者へ発信することを大切にしていく
 - (ア) 療育手帳を有する児に対して半期に一度、個別支援計画を作成する。専門機関（市の巡回相談・淡路市発達支援センター訪問事業）を利用し、アドバイスをもらい保護者にフィードバックする
 - (イ) 園行事の様子やこどもたちの日常をドキュメンテーションや映像で保護者に発信していく
 - (エ) 重大な災害や事故にならないようにリスクマネジメントを徹底する

3. 地域における公益的な取組を継続実施する

(ア) 人材の確保と育成

- ①中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する
- ②大学生・専門学生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく

(イ) 地域や他機関との連携

- ①小学校教諭の方々の保育参加、小学校とのカリキュラムの策定など3校との連携を図る
また、個々の子どもの引継ぎを詳細に行い就学へと繋げていく
- ②就学後もケース会議や参観日などを通して継続的にこどもたちの成長を見守る
- ③地域の子育て家庭の支援のひとつとして、必要な時に病後児保育事業が利用できるように、地域に向けて利用方法等の案内をしていく
- ④相談・園見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める
- ⑤法人内の介護福祉施設や病院と連携をとり、利用者と園児との交流を図る
- ⑥給食試食会・ベビーヨガなど子育てイベントの充実を図り、毎週の園庭開放により子育てで孤立する母の交流スペースを確保する

4. 健康経営

- (ア) 精神衛生を守り、業務の生産性を高めるため、連続5日以上 of 休暇を推奨する（土・日を含む）
- (イ) 職員の負担軽減ができるようにクラスの編成や、書類の簡素化など時間配分を検討し、働きやすい環境を構築する
- (ウ) 保健師・産業医面談等を活用し、職員の健康管理に留意する
- (エ) 市の巡回相談や各種団体等（児童発達支援センターひだまり）と情報共有を図り、地域の安心・信頼できる居場所となれるように相談等にも応えていく
- (オ) 行政機関との円滑な調整、情報開示を徹底する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
利用定員(1号)	—	—	—	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	5名	5名	15名	26名	27名	27名	105名
一日平均入所者数	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
年間入所延人数	83名	221名	163名	224名	372名	250名	1313名
入所率	138.3%	368.3%	90.5%	71.8%	114.8%	77.2%	104.2%
開所日数(延べ)	296日(教育週数 49週)						
サービス活動収益	149,579千円						
常勤換算職員数	24.8名						

【実施事業】

延長保育 障がい児保育 一時預かり保育 病後児保育

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

常に感謝を意識しつつ自身の役割を考えチーム保育であることを心掛けている。子どもたちの主体的な気持ちを大切にしたり引き出したりできるよう保育を見直し、安心でき自己発揮できる存在となるような保育者を意識していく。その上で、さらなる保育の質向上のため園内外の研修を積極的に受け、弱点に気づき強みを伸ばしていけるよう互いに確認し合い保育の振り返りを実施する。また、ICT システムを活用し職員の働く環境をより良くしていきたいと思う。

子どもたちや保護者、一緒に働く職員間で相手の思いを受容する大切さを意識しつつ、互いがそれぞれを尊重し、高め合えるための存在となるよう考えていく。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 ―エフェソ 5-2―

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上への取り組み
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切にひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。子どもや保護者の些細な違和感から早期アプローチを心がける。園の理念や思いを保護者に伝えていくことを意識していく
 - (イ) 異年齢児や小学生などとの交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、自ら活動する中で、SDGs を意識して取り入れられるよう環境を整えていく
 - (ウ) 子どもたちの姿や育ちについて保護者に伝える場として行事や懇談会の実施方法を検討し有意義な時間を共有できるよう工夫する。子どもの個々の特性を職員間で共有し対応を考えていく。必要に応じて保護者へ園の様子や対応を伝えていく
 - (エ) 野菜を栽培し生長にかかわることで収穫することを喜び、日々の食に興味を持ったり料理に対して感謝したりする気持ちが育つよう年齢に応じた保育を展開する
 - (オ) 2 つの放課後児童クラブ同士や小学校との情報交換や共有を深めていく。子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を大事にし、子どもの育ちを支えていく
 - (カ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携をとり、地域で子育てしている家庭へ協力し、できることを検討する
 - (キ) 会議の在り方を検討し、個々の思いや考えを積極的に伝え合えるような内容を取り入れていく。また正職員やパート職員とのコミュニケーションの取り方も検討する

2. 施設の防災力の強化

- (ア) 職員全体が防災意識を高めて取り組むことができるよう、防災委員会と共に、避難訓練の方法を検討していく
- (イ) 引き渡し訓練を実施し、保護者への防災意識を高め、また取り組みを共有する
- (ウ) 危機管理委員会でのケガ報告やヒヤリハットの検証や外部で起きた事例をもとに園内での危険な場所等の見直しを行う

3 地区施設との連携

- (ア) 無理のない形での同法人との交流を持つ（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・結いデイサービスセンター）
- (イ) 隣接している高齢者施設（アリア宝塚）と様々な形で交流を持ち、地域との関わりを大切にする

4 「人づくり」への取り組み

- (ア) 研修への参加など
 - ①教育アドバイザーからポイントを教わりつつ、実践を伴った研修への積極的な参加
 - ②聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
 - ③逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
 - ④園内研修で興味のある事に取り組み自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す
 - ⑤保育職ラダーや目標参画、自己評価の活用により目的意識の明確化を図る

(イ) 次世代育成

- ①トライアルウィークや宝塚西高校の授業、大学生ボランティアの受け入れを実施する
実習生や学生アルバイトを積極的に受け入れ採用へつなげる

5 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、かけっこ教室や積み木遊び、足育講座、伝承音楽遊びを計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
一日平均入所者数	9名	14名	15名	15名	29名	27名	109名
年間入所延人数	108名	168名	180名	180名	348名	324名	1,308名
入所率	100%	140%	125%	107.1%	131.8%	117.4%	121.1%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	170,046千円						
常勤換算職員数	26.0名						

【提供事業】

一時保育事業 延長保育事業 障がい児保育 子育て支援事業 放課後健全育成事業

野上児童館

次世代を担う子どもたちの健全育成を常に意識しながら、児童館としてできるサポートの在り方を新しい職員体制での職員会議や運営委員会等で考えていく年度としたい。児童館としての役割を常に考えつつも、コミュニケーションを取りながら職員一人一人の思いを大切に、子育て支援の形を考えていける職員集団でありたいと思う。

配慮を必要とする家庭への支援については早期対応を心がけ、また専門機関とスムーズな連携を取り、共有や対応に努めていきたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや子育てに不安を抱える保護者にとって、心やすらぐ児童館として地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上
 - (ア) 感染への不安を受け止めつつ乳幼児や小学生等への様々な活動を企画する
 - (イ) 食育の取り組み方を検討しながら年齢に応じた内容を提供していく
 - (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し、実施の方法を考える
 - (エ) 玩具やゲーム等、安心安全で遊べる環境作りを目指す
 - (オ) 放課後子ども教室等、地域の方の活動に協力できるよう体制を整えていく
 - (カ) 児童館と保育園や学童保育が協力して行うことができることを検討する
 - (キ) 中高生の居場所作りとして行っている開館延長の周知方法を考え、参加を促していく
2. 地域との連帯の強化
 - (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
 - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し地域の協力を得ながらニーズに見合った実施を進め定着させる
 - (ウ) 学校や地域とのつながりを意識し、行事等に児童館ができることを検討する
 - (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、利用者の必要な支援方法を模索する
3. 職員の資質向上
 - (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
 - (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

逆瀬川あゆみ保育園

保育の質の安定は、子どもの気持ちへの寄り添いや柔軟なかかわり方も関係してくる。毎日の安心した園生活の中で、目の前の子どもとのやりとりがいかに大切なのかということを職員間で意識し育ちあう園でありたい。

また、子育て支援や一時保育事業を通して、保護者の養育力の低さや、子どもへの対応が難しいケースなども増えてきているため、現場の私達が、幅広い視野を持ち、助言の仕方や保護者の思いをどこまで受け入れていくのか等、精査しながら対応する必要性を感じる。こうしたケースを役職者だけで考えていくのではなく、職員も巻き込みながら一緒に考え、いろいろな価値観があることを感じとれるような会議内容を検討していきたい。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ①保育理念、施設目標を念頭に「目の前の子どもにとって」という意識を常に持ち保育を行う
- ②適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。また、不適切なかかわりについて、考える機会を作っていく
- ③子どもの興味・関心があることに目を向け、時期を逃さず環境を整える

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ①子どもひとり一人の違いをよく観て知ろうとし、受け止め、適切な関わりと援助を行う
- ②キリスト教保育指針を学び、聖隷の保育士として日々を大切に過ごす
- ③0歳児から、保育士の歌声でのリズム運動や研修で学んだわらべうたを保育に取り入れ、保育士の引き出しを増やすと共に子どもの体幹を育てることを意識する

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ①研修やあゆみ合同研修、年度末研修、保育学会を通して、専門生を高める
- ②職員自ら興味を持った外部研修（リモート研修）を積極的に受講する
- ③保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する
- ④キリスト教保育冊子を使った毎月の学びや、グループディスカッションを多く取り入れ、コミュニケーションをとりながら学びを深める

2. 保護者との交流

(ア) 保育参観や保育参加・懇談会・個別面談・コドモンによるおたより・連絡ノート・ドキュメンテーションを通して活動の様子を知らせる

(イ) コドモンに頼りすぎず出来るだけ保護者との対面コミュニケーションを大切にする

3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

(ア) 合同研修や学会を通して情報交換をしていく。また、研修委員は、「自分達で学会を作っていく」という意識を持ち、委員会活動を進めていく

(イ) 野上あゆみ保育園の3歳児との交流や園庭活動を日常の活動の中に取り入れ、3歳児の不安を軽減できるようにする

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 育児孤立を防ぐため、担当職員が、保護者との信頼関係の構築を目指し、安心できる場所、人となれるよう丁寧にかかわっていく。園庭開放、室内開放（栄養士相談・看護師相談・足育など）を通して保護者同士の繋がりを育てる。発達への気づきを促し社会資源の利用も促していく

(イ) トライやるウィーク（職業経験）の中学生や高校生ボランティア、保育実習生などの受け入れを積極的に行っていく

(ウ) 一時保育のニーズに応え、子育てに難しさを抱える保護者の支援も行っていく

(エ) 3歳児クラスの子どもと共に、近隣の公園のごみ拾いなどを経験してみる

5. 食育

(ア) 活動の中で簡単なクッキングを日常的に行い、香りや音など、五感で楽しめる機会を増やす

(イ) 給食を通じて旬の食材の名前や味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく。

6. 防災・防犯訓練

(ア) 毎月の防災訓練内容を職員が検討し実践していく。災害時を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練を合同で実施する。不審者対応訓練のDVDを活用していく

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	11名	12名	13名	45名
一日平均入所者数	8.3名	13名	13名	14名	48.3名
年間入所延人数	100名	156名	156名	168名	580名
入所率	92.6%	118.2%	108.3%	107.7%	107.4%
開所日数（延べ）	293日				
サービス活動収益	148,058千円				
常勤換算職員数	22.6名				

御殿山あゆみ保育園

近年、保育園に求められるものは日々変化している。子どもひとり一人の個別のニーズに対応することが重要視されるようになり、それぞれの子どもに合わせた保育が必要とされるようになった。また、子ども自らが考え、探求する力を育むことが求められている。更に遊びを通したアクティブな体験も大切である。安全衛生面では、災害対策、感染症対策において、保育園での環境作りと迅速な対応が必要となる。その他にも様々な文化に対する理解や、ICT システムの活用、保護者とのコミュニケーション、保育士不足問題について柔軟かつ継続的な取り組みを行う。地域の少子化に伴い、選ばれる保育園になるためには保育の質の向上が必須である。保育士が主体的に保育を行い、やりがいを持って働ける職場づくりをめざし、職員間のつながりを深めていく。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る
2. 一人一人の違いに気づき、お互いに認め合いながら共に過ごす
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる

【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に実践する
 - (イ) 研修や会議を通してお互いの保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てや保育環境を共に考える
2. 子どもたちが安心して園生活を送れるよう、言葉を手渡すことを意識しながら、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける
 - (ア) 乳児期の特定の大人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期はそこを土台に、子どもの「やってみたい」を大切にしながら、社会性、学びに向かう力等を培う
 - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えた関わりを大切にする
 - (ウ) 父親同士が交流する機会を定期的を開いて横のつながりを作り、父親の育児参加をサポートする
 - (エ) 発達に課題等を抱え、個別の対応が必要な子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画を作成し実施する
 - (イ) 保護者、子どもに向けて食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ

- (ウ) 種や苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む
4. 児童館と連携し、包括的な地域子育て支援について一層の充実をめざす
- (ア) 児童館と連携しながら保育室解放・園庭開放などを実施する。子育て中の保護者の様々な思いにも寄り添い地域における子育て支援のニーズを知り、応えていく
- (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳幼児食）の試食会、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを知り受け止める
- (ウ) 保育士が専門性と自分の強みを活かした独自の子育て支援プログラムを計画し実施する
5. 職員研修の充実と人材育成
- (ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する
- (イ) 行事・保育などで「子どもにとって大切なことは何か」を立ち止まって考える
- (ウ) 保育の中での学びや実践を発表し、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する
- (エ) 保育職ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を考えて理解し、責任をもって仕事に従事することのできる人材を育成していく
- (オ) ICT システムの配信内容を更に充実させて保育を可視化し、保護者理解を深める
- (カ) 職員のノンコンタクトタイムを確保し、事務作業を円滑に進められるようにする
6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との3園の連。
- (ア) 3ヶ園で相互の交流をはかり、共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会の実施
7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）
- (ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む
- (イ) 地域との連携を視野に入れ、小学校等で実施する地域防災訓練にも参加する
8. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 近隣の幼稚園や保育所、卒園児、小学校との交流
- (イ) 学生ボランティアや実習生の受け入れ
9. 感染症対策
- (ア) 園内の消毒と換気を定期的に行い、感染予防に努める。保護者と連絡を密に取り、感染者が出た場合は迅速かつ適切な対応ができるよう準備しておく

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3号）	9 名	21 名	22 名	22 名	23 名	23 名	120 名
一日平均入所者数	8.5 名	25.0 名	24.8 名	21.7 名	25.0 名	23.0 名	128 名
年間入所延人数	102 名	300 名	298 名	260 名	300 名	276 名	1,536 名
入 所 率	94.4%	119%	112.7%	92.1%	108.6%	100.0%	106.6%
開所日数（延べ）	293 日						
サービス活動収益	198,745 千円						
常勤換算職員数	31.0 名						

【実施事業】

一時保育事業 産休明け保育 延長保育促進事業 地域活動事業 特別支援事業 その他

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために 2024 年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報の収集、社会資源へ繋げるなど積極的に行いたい。

【施設理念】 地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」「親育ち」を支援する
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う
 - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う。(発達、保育、障がい等)
9. 感染症対策
 - (ア) 利用者名簿を作成、館内の環境整備や消毒を行い、感染拡大防止の対策を講ずる

在宅・福祉奄美ブロック

2023年7月より在宅・福祉サービス事業部が再編され、奄美地区は4施設で構成される1エリア、1ブロックの組織となった。再編された4ブロックの中では最も事業規模が小さいが、高齢者、障がい者、児童福祉分野を万遍なく行っており、静岡ブロックに次ぐ多面的な事業を行っている。これは現在の職員はもちろんのこと、長年に渡る諸先輩達の困難を抱える方お一人おひとりへの弛まぬ支援による結果であり、この組織再編はこの奄美ブロックの長所を機動的に発揮できる体制の強化だと考え、事業遂行にあたる。

2024年度は近年発生している外的環境（新型コロナ、物価高騰、採用困難）の急速な変化、医療・介護・障害福祉サービスのトリプル報酬改定等への速やかな対応は必要だが、現在生じている、過去にない人材確保の困難さ、奄美佳南園、春日保育園の世代交代の着実な実施、経験者に頼らないサービスの質の維持、向上ができる体制の構築、奄美ブロック本部機能の強化をこの機会に整理したい。

労働環境においては職員数だけでなく、建築年数が経った大規模修繕を必要とする施設もあるため、修繕計画作成に合わせ、休憩室の確保等職員の労働環境の改善をすすめる。

人は跳ぶ時に一度、かがんで、エネルギーを溜めて高く跳ぶ。奄美の歴史に置き換えると春日保育園、奄美佳南園ができた1970年代前半、春日保育園の障がい児の受入れからスタートしたのぞみ園（1996年）、のぞみでの実績を認められスタートした聖隷かがやき（2016年）と何度かジャンプしている。2024年度は再びこの地域の福祉サービスを充実する為にかがんでエネルギーを蓄え、次の大きなジャンプを行える体制を整える年度としたい。

【ブロック理念】

地域への感謝と貢献 私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における奄美ブロック目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0時代※を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

【2024年度ブロック目標】

先人の事業精神を継承しつつ、今後もサービスを維持、向上できるよう運営方法を整理する。

【2024年度重点目標】

1. ICT機器、ロボットを利用し、業務を切り出し、業務の負担を減らしたうえ、働きがいを醸成し、サービスの向上につなげる
2. サービスの質を高めることを目的に専門資格職や常勤職員の採用、育成の体制を強化する
3. 各事業について現状にあわせた、規模、提供事業、場所の検討を行い、収益率の向上に努め財務体質の強化を図る。
4. 事務部門、専門職種に効果的に活躍する為、業務の一体管理を推進する。

※サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。内閣府の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

(事業における主な取り組み)

【奄美佳南園】

- ① ICT 機器を利用し業務の負担感を減らすのと共に、職員全員が業務改善に参画できるようにする。
- ② 報酬改定に伴い、新たな加算の取得に努める。また、サービスの質の向上の為、看取り加算等、従来の加算算定の取得にも努める。
- ③ 奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの運営の統合を実施する
- ④ 訪問入浴事業、居宅介護支援事業、訪問介護事業の事業の継続の可否、移転について年度内に検討、決定する。
- ⑤ 聖隷チャレンジ工房の現在のサービス種別（就労移行支援。就労継続支援 B 型）について利用状況を踏まえ、工賃額か就職率か強化事項を明確にして事業形態を見直す。

【春日保育園】

- ① 競合に対する強み、弱みを整理して計画的に着実に園児の受入れを実施する。
- ② 障害児を園に受入れだけでなく、並行通園や、家族支援、専門職による専門的な支援を強化しのぞみ園との運営の連携を強化する。
- ③ プリセプター制度の強化など新任職員、中堅職員の支援を強化し、保育力の向上と離職率の防止に努める
- ④ 5 年先の人口減を見据え、自園の特徴や「売り」を明確にするのと共に、0 歳児の対象者は確実に減少していく為、才児別定員数の変更について行政機関も交え検討し、老朽化した園の修繕計画の条件を整理する。

【のぞみ園】

- ① 児童福祉の中核施設として更なる、他機関との連携を深める
- ② 聖隷こども家庭総合支援センターと連携して、サービス利用に至れていない利用者やその家族支援を広げる
- ③ 臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職の採用を進め、他職種連携を通じ、サービスの質の向上を目指す
- ④ 放課後等デイサービス（定員 10 名）の新たな拠点の計画の年度内に策定する。

【聖隷かがやき】

- ①～③ のぞみ園と同様
- ④ 人材獲得に努め、稼働率を向上させ、地域のニーズに応える

【共通】

- ① 職員の超勤、有給取得、再検査受診について奄美ブロック会議で共有、改善に努める
- ② ブロック全体で未収金管理方法を確立する。
- ③ 事務集約拠点の奄美佳南園の機能の見直しと人事給与システムの見直しを通じ、事務ローテーションについて検討し、本部機能の強化を図る。
- ④ 管理栄養士を含む食事サービス部門の一体的な運営を検討し、児童福祉施設の発注献立業務の統一や、奄美佳南園での完調品の導入を検討する。

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園

デイサービスセンター 在宅介護支援センター ホームヘルプ事業所

訪問入浴事業所 春日デイサービスセンター

聖隷チャレンジ工房カナン

2023 年度ポストコロナ時代へと向け生活様式が変化したが、島内においての感染症が流行する中、全職員が協力して地域の高齢者や障害者へのサービス提供の継続、地域共生社会の実現に向け事業継続ができたことは、職員の努力の賜物である。

また、人材確保が厳しい状況の中、記録方法電子化の推進による業務の効率化等の介護職員の負担軽減等や、安全で快適な支援へ向けたケアの統一に向けた定期的な勉強会の開催等において、サービスの質の向上に努めた。

2024 年度は、導入した ICT 介護機器等の活用を推進し、さらなる業務の効率化やサービスの改革を通じて職員のやりがいの向上に努めるとともに、介護・障害福祉サービスの報酬改定への速やかな対応、奄美佳南園が開園 50 周年と節目の年を迎え、これまでの地域への感謝と、先人達の弛まぬ努力への敬意を振り返り、既存する福祉事業の強化を図り地域にとって欠かすことのできない福祉拠点としての更なる価値を高めていく。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組

(ア) 奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの統合を実施により、サービスの維持・継続に努める

(イ) 利用者の尊厳を大切にし、職員の知識・技術向上のために研修等を活用し、サービスの質の向上へと取り組む

(ウ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、ICT 機器・介護機器を活用し、事故予防や身体機能維持、嚥下調整食の提供や口腔機能の管理、誤嚥性肺炎等による入院予防、最後

- までその人らしく生活できるよう看取りケアの促進に取り組む
- (エ)利用者の個性・ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、利用者の生きがいに沿った支援に取り組む

2. 職員満足向上のための取組

- (ア)生産性向上委員会に若年職員も参画し、導入した ICT 介護機器のさらなる活用、業務の負担軽減や業務の効率化等により、職員の介護技術の統一化や自立に向けた育成に取り組む
- (イ)職員の資質と意欲の向上を図るために、専門職ラダーの運用及び OJT を推進する
- (ウ)プリセプター制度の強化など新任職員、中堅職員の支援を強化し、福祉サービスの質の向上と離職率の防止に努める

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア)多職種による入所待機者の早期入所へ向けた体制づくり、入院者へのフォローによる長期入院の削減（平均入院期間 14 日以内）へ取り組む
- (イ)利用者の健康・生活機能維持に向けた加算取得（看取り、褥瘡ケア）に向け、進捗管理を徹底するとともに、医療的ケアの対応強化に取り組み加算取得を目指す
- (ウ)利用者が在宅生活を維持することができるよう、身体介護を中心とした訪問系サービス（身体介護中心のサービス 70%以上）を提供する
- (エ)就労移行支援利用から就職者年間 2 名以上を目標とし、計画的な就職活動や実習先受入れを強化し、翌年度の加算取得に取り組む
- (オ)就労継続支援利用者の工賃向上を目標とし、法人外の新規訓練業務へ取り組む
- (カ)在宅介護サービス事業の継続の可否に向けた検討の実施、年度内に取り組みを実施する
- (キ)奄美ブロックにおいて災害発生時等に食事提供が継続可能となるよう一体的な運営方法を検討する
- (ク)職員一人ひとりの健康を推進するために、職員休憩室の機能を高める
- (ケ)在宅・福祉奄美ブロックの人事・給与システム等の見直しと、機能の強化を図ることを目的とした事務機能の継続可能な体制づくりを検討するとともに、ブロック全体の未収金管理方法を確立する

4. 地域における公益的な取組

- (ア)福祉拠点施設の経験や機能を活かし、福祉の出前講座や介護者教室・福祉フォーラム等を開催する
- (イ)地域の社会福祉法人と連携し、地域における災害時支援・感染症対策支援・生活困窮等への支援に関する課題の解決に向け実践する
- (ウ)生活困窮・社会と交流ができない青年期・高齢等自信を無くした方々へのアプローチや職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する

【数値指標】

	特養入所		短期入所		生活困窮	
	従来型	ユニット型	従来型	障害	一時生活支援	
利 用 者 定 員	50 名	30 名	10 名			
利用者延べ人数	17,703 名	10,622 名	3,132 名	80 名	18 名	
一日平均利用者数	48.5 名	29.1 名	8.58 名	0.22 名	0.05 名	
稼 動 率	97.0%	97.0%	85.8%	0.22%		
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	365 日	365 日	
単 価 （一人一日当り）	12,500 円	15,200 円	11,700 円	12,000 円	6,000 円	
サービス活動収益	221,281 千円	161,454 千円	36,644 千円	960 千円	108 千円	
常勤換算職員数	32.6 名	29.1 名	4.9 名			
	奄美佳南園デイサービス			就労支援		
	地域密着	介護予防	生活介護	移行支援	継続B	
利 用 者 定 員	30 名			6 名	14 名	
利用者延べ人数	5,109 名	2,122 名	236 名	1,415 名	4,071 名	
一日平均利用者数	19.5 名	8.1 名	1.0 名	5.4 名	15.54 名	
稼 動 率	65.0%	27.0%	7.4%	90.0%	111.0%	
稼働日数（延べ）	264 日	264 日	264 日	264 日	264 日	
単 価 （一人一日当り）	11,255 円	6,697 円	8,128 円	6,530 円	6,530 円	
サービス活動収益	57,502 千円	14,211 千円	1,918 千円	9,240 千円	26,584 千円	
常勤換算職員数	8.5 名			7.0 名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		居宅介護支援	
	介護	障害	介護	障害	介護	予防
利用者延べ人数	903 名	183 名	5,445 名	728 名	780 名	120 名
一日平均利用者数	1.8 名	0.7 名	15.0 名	2.0 名		
稼働日数（延べ）	264 日	264 日	365 日	365 日	264 日	264 日
単 価 （一人一日当り）	16,356 円	12,602 円	4,670 円	4,340 円	13,660 円	4,188 円
サービス活動収益	14,769 千円	2,306 千円	25,458 千円	3,160 千円	10,655 千円	503 千円
常勤換算職員数	2.6 名		5.5 名		2.0 名	
	年間利用数	稼働日数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数	
在宅介護支援センター	1,200 名	264 日		4,800 千円	1.0 名	

春日保育園

子育て家庭をとりまく社会情勢が大きく変化している中、保護者が求める保育ニーズも多様化している。2024年度は、園としての役割を再確認すると共に園の魅力を様々な方法で保護者や地域へ積極的に発信していく。そして、子どもの人権・育ちを保障し、子どもに関わる保護者への支援にも力を入れる。そのためにも職員一人ひとりが心にゆとりを持ち働くことが出来るよう、個々のワーク・ライフバランスを意識しながら、働きやすい職場環境改善に取り組む。また、子ども理解を深め、発達に則した保育を展開するため、園内外研修を通して共に学びあい自己研鑽に努める。子どもの安心・安全が何より優先される保育現場であるため、設備点検、確認、補修園庭整備を進め、職員と共に危機管理の意識を高めていく。充実した運営が図られるよう園児受け入れを計画的に進め、子どもたちを真ん中に保護者も職員もすべての人が輝ける保育園を目指す。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

【経営方針】

1. 保育の質と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取り組み
 - (ア) 施設理念、保育目標を理解し、「一人ひとりを大切にする丁寧な保育」を実践する
 - (イ) 年間研修計画に沿ってキャリアアップ研修（2科目）や外部研修の参加を支援し、リーダー育成や保育実践に結びつけ個々のスキルアップを目指す
 - (ウ) 保育環境を子どもの成長発達と併せて考え、保育の振り返りや改善に努める
 - (エ) 保育参観や行事参加・個人面談等、園での様子や子育て情報を保護者へ発信し相互理解を深めると共に保護者に寄り添った支援に力を入れる
 - (オ) プリセプター制度を活用し、新入職員・中堅職員の支援に力を入れ、人材育成や離職防止に繋げる
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
 - (ア) 子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえ、個別支援計画を作成し、個々に合わせた支援を実践する
 - (イ) 園独自の親子教室の開催を継続的に行い、親子の支援をすると共に保護者同士のコミュニケーションの機会を作り、輪を広げていく

- (ウ) 待機児解消に向け、行政と連携を図りながら計画的な受け入れを実施する
先を見据えた定員利用数、歳児別受け入れ人数の見直しを検討する
- (エ) 春日保育園・のぞみ園・聖隷かがやきと子ども部門での職員交流を図り、互いに
学びの場を企画・運営する。また、併行通園児の支援について担当者会を通して
情報共有し連携を強化する
- (オ) 奄美市保健師と乳幼児健診等の情報を共有し、早期支援につなげる
- (カ) 小学校接続に向け、保護者や教育委員会等と連携を図り情報共有・提供を行う

3. 働きやすい職場環境の整備

- (ア) 互いを知る機会や保育について活発な意見交換ができるような体制を作る
- (イ) 記録業務等の見直しや業務内での事務作業を工夫するなど、働きやすい環境を整備し
心身の健康維持に努める
- (ウ) ICT の見直しを検討し、業務省力化、休憩時間の確保に職員全員が意識し取り組む

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の高齢者や子育て家庭の憩いの場となるよう園庭開放を実施し交流を図る
- (イ) 中学・高校生の職場体験やボランティア、施設見学を積極的に受け入れ次世代育成
に貢献する
- (ウ) 一年を通して、地域の方々と一緒に菜園作りを楽しめる機会を作る

【数値指標】

定員 120 名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合 計
入所数 4/1 現在	5 名	20 名	22 名	22 名	22 名	13 名	104 名
一日平均入所者数	8 名	22 名	23 名	22 名	22 名	13 名	108 名
年間入所延人数	90 名	260 名	272 名	264 名	264 名	156 名	1306 名
入 所 率	62.5%	90.3%	95.8%	110%	110%	65.0%	90.7%
開所日数（延べ）	292 日						
サービス活動収益	132,469 千円						
常勤換算職員数	27.2 名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業

のぞみ園

児童発達支援センター 保育所等訪問支援 放課後等デイサービス 相談支援

2024年度は、障がい福祉サービスの報酬改定が行われ、奄美市においては、第7期障害者計画・障害福祉計画と第3期障害児福祉計画（チャレンジプラン奄美）の策定年度である。その中において、報酬改定への対応と地域課題解決に向けた更なる機能強化はもちろんのこと、昨今の社会情勢を背景とした物価高騰や感染症、人材確保の困難さへの対応などを着実に実施していく。そして、聖隷を選び働いてくれている職員が、やりがいをもって一人ひとりの力が発揮できるように奄美ブロック各施設と協力しながらエンパワメント（力をつけ、自信を持ち、その力を発揮できる）を高める事業運営を行っていく。そのために、次世代リーダーの育成、外部専門職や関係機関との連携強化、育ってきた人材が現場でスピーディーに判断できる権限委譲を行うことでチームビルディングに取り組み、生産性と職員の満足感の両方を高め、地域から信頼され地域に貢献できる施設運営を行っていききたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や発達につまずきのある子どもの発達に沿った発達支援～

【経営方針】

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域交流と地域貢献（公益的な事業活動への取り組み）

【事業・運営計画】

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化
 - (ア) 子どもへの発達支援
 - ① 専門職と連携し子どもの発達段階や困り感を正確に把握し、個別や集団支援を通して子どもの成長、発達をサポートする
 - ② 年齢・発達状況を踏まえながら、本人の意思決定支援と将来の自立に向けた支援、地域移行支援を実践する
 - ③ オンラインを積極的に活用し、通園児の支援に関わる様々な関係機関との連携を深め、地域支援のバックアップと地域のインクルージョン推進に取り組む
 - (イ) 保護者への支援
 - ④ 親子登園・個別面談・保護者勉強会等を通して、子どもの特性やそれを踏まえた関わり方を保護者が学ぶことができる機会作りを行う
 - ⑤ 多職種で連携しながら、きょうだい児支援も含めた保護者の多様な相談に対応できる体制作りを進める
 - (ウ) 地域支援
 - ⑥ 市町村の親子教室や発育・発達クリニックに職員を派遣し、地域の保健師と連携

して保護者の「気づき」へのアプローチや早期支援へのつながりに関与する

- ⑦ 聖隷こども家庭総合支援センターの機能を、遠隔地の利用者や家族支援につなげていくことができる体制を検討、提案する

(エ) 経営の安定化

- ⑧ 報酬改定に対応した各種加算の適正な取得と待機者解消や地域のニーズに対応した次の事業展開の計画策定を実施する（放課後等デイサービスの事業展開・春日保育園における障害児支援体制の構築等）
- ⑨ 機能強化と次の事業展開を念頭に専門職の雇用と人材確保の取組みを法人本部、奄美ブロック各施設と連携して積極的に行う

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

- (ア) 施設内外研修への職員派遣と、目標参画を通した職員個々の目標管理と達成に向けた支援を充実させ、計画的かつ段階的に職員が成長できる職場風土づくりを行う
- (イ) 事業所内の業務分担表の見直しと職務権限表を新たに作成し、次世代のリーダーが現場で自信をもって判断できる環境づくりを行う
- (ウ) 導入した障害福祉サービス請求記録システムの活用とネット環境整備を更に推し進め、業務の効率化と負担軽減、オンラインによる他機関、他地域との連携体制を強化し、職員の働きがいとサービスの向上につなげる
- (エ) ワークライフバランスの推進に取り組む（超過勤務削減、有給消化率の向上）

3. 地域交流と地域貢献

- (ア) 地域向け親子教室を毎月開催し、子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）
- (イ) 地域の視察研修や公開療育・福祉体験・実習受け入れや関係機関との情報交換会を行い、療育支援についての理解を広める活動を行う
- (ウ) 発達障害児とその家族の災害時における避難場所として活用できるように、災害対策用備蓄品の整備と環境整備に取り組む

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	3,929名	45名	2,465名	186名	132名
一日平均利用者	16.10名	0.19名	10.30名		
稼働率	80.50%		102.97%		
稼働日数（延べ）	239日	239日	239日		
単価（一人1日当り）	14,989円	13,233円	10,598円	16,191円	14,628円
サービス活動収益	58,891千円	595千円	26,122千円	3,012千円	1,931千円
職員数	10.5名	0.1名	5.5名	0.9名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター 放課後等デイサービス 相談支援

2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類へと移行し、これまで中止や延期していた活動など再び実施する中で、新たなスタイルでの人と人との「つながり」を再構築し利用者にとって安心・安全な施設利用の提供ができた年だった。

2024 年度は第 7 期障害福祉計画、第 3 期子ども療育計画の計画策定の年となり、また、児童福祉法、報酬改定の改正など制度の大きな変化への対応に児童発達支援センターとしての役割が大きく求められてくる。特に地域における中核的な役割として質の高い支援提供の推進や地域支援など、社会の変化に伴うよりきめ細やかな対応が必須となってくる。これらの事を踏まえて、これまで培ってきた支援に加え専門職の人材の確保による支援提供、また、聖隷こども家庭総合支援センターとの連携など、幅広く他機関との連携を深め対応することで、地域のニーズに応え、頼られる支援施設を目指していきたい。その為にも、職員の働きやすい環境整備として、健康経営に努め一人ひとりのワークライフバランスを推進し、職場でも地域でも「その人らしく」を大切にすることで、仕事へのやりがいを持ち、利用者に支援として大きく貢献できるように人材育成に取り組んでいく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのある子どもの支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ① 年齢や特性に即した個別支援計画を作成し、丁寧な個別、集団支援を基本とした療育を行う
- ② 5 領域における総合的な支援において、発達段階での一人ひとりの子どもの状態に合わせた課題を抽出して、保護者と共に共有し支援する
- ③ 家庭・保育所・学校との連携を軸に適切な支援、関わりを持てるように保育所等訪問を充実させ地域での支援の共有を図り、インクルージョンの推進に努める

(イ) 家族支援

- ① 兄弟や親子関係など家族状況、家庭の環境も視野に入れたアセスメントを行い、心理面のサポートの取り組みや保護者同士の仲間作りと子育て支援として、年 1 回のペア

レントプログラムを実施する

- ② 保護者会活動での勉強会、交流の場の提供により、横のつながりを深め、地域で安心して暮らし、保護者が安心できる子育てができるよう支援する

(ウ) 地域支援

- ①地域の保育力向上に向けて保育所、幼稚園向けの公開療育の実施、学校関係向けの施設見学による福祉と教育の連携強化を継続して行う

- ②困り感のある、子ども、保護者の為の早期気づきにつながる「遊びの広場」の提供を行政と連携し実施する

(エ) 経営の安定化

- ①家族のニーズ、状況に応じた支援の加算に取り組み（家庭連携加算、事業所内相談支援加算）経営の安定化につなげる

- ②関係機関との連携を深め、健診後のフォロー体制の構築による待機児解消に努める

- ③人材獲得に努め、稼働率を向上させる

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア) 健康経営に努め、ケアカルテでの業務の効率化、負担軽減を図り、超勤時間の削減や働きやすい環境作りを整える

- (イ) 専門職としての質の向上のため資格取得の講習受講、勉強会、研修参加を促進する

- (ウ) 職員 1 人ひとりが主体性を持った業務への取り組みができるよう支援し、「やりがい」を感じモチベーションの向上を図る

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設開放による子育て相談や親子あそびの場の提供を行い療育施設の理解を広げる

- (イ) 地域における災害時、非常時の相互支援体制を整え、実践する

- (ウ) 福祉体験学習や専門学校等の実習生を受け入れ、将来の福祉人材として次世代の育成に寄与する

【数値目標】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利 用 者 定 員	20 名		10 名		
利 用 者 延 べ 人 数	3,929 名	45 名	2,465 名	186 名	132 名
一 日 平 均 利 用 者 数	16.10 名	0.19 名	10.30 名		
稼 働 率	80.50%		102.97%		
稼 働 日 数 （ 延 べ ）	239 日	239 日	239 日		
単価（一人一日当たり）	14,989 円	13,233 円	10,598 円	16,191 円	14,628 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	58,891 千円	595 千円	26,122 千円	3,012 千円	1,931 千円
常 勤 換 算 職 員 数	10.5 名	0.1 名	5.5 名	0.9 名	0.3 名